

も饗されたるは昨日接待委員邸にありしと同様なり。我等は此處に留まりたること二時間。それより主殿様<sup>トモノミヤ</sup> Tomono Sama <sup>主殿</sup>の住居に赴く。こゝにては最も内の最も貴き部屋に導かれ、二度も兩方にあるかなり廣き簾に近づく様頼まれたるが、其後には婦人達が今迄何處にも無き程に充ち満ちてあり。我衣装、甲比丹の武器指環、烟管などを行儀よく、又丁寧に好意もて熟視し、そのすべてを簾の間、簾の下より相ひ授受したり。當主人たる奉行は不在なりしが、我等は代りて迎へたる人々、其他我周圍我近傍にありし貴人達の心置なく分け隔なき舉止と、慇懃なる獻酬とに對し、心易く又満足なる印として、各々一つ宛の歌を聽かしたり。こゝに卓上に充満せる品々が、いづれも人の心を感激さすに足るは、此の家族の輝く如き富裕に照り映えて見え、昨日の第一接待官の家にては此家の如き親みは勿論かゝることさへも見べきやうなかりしなり。一人の奉行所衆は此家の家來にて、我等を門の前に迎へ、半は手を指のべて挨拶し、彼が三年前<sup>元祿二年正月</sup>に甲比丹ファン・アウトホールン<sup>Van Outhorn</sup>と東上の途にありて、檢使が大通詞を殺せる後に、此通りにして挨拶されたる旨を告げたり。<sup>前文二月十五日田代驛の條第二三三頁を</sup>この君の住第は市街の北又西北へ當る最も速き所にて、我旅亭より一里半餘の道程を隔て、藪と邸との多きかなり便悪き所<sup>口衛藤本には眺め飽かぬ景勝の地に位置を占め</sup>あり。<sup>たるものなり</sup>に作るなり。英譯本によりたるなり。第三の奉行十兵衛様<sup>Zabo Sama</sup> <sup>十兵衛</sup>は城濠の傍の見苦き家に住へり。こゝにてはたゞ小人数の婦人

が近く我前に窓ある戸<sup>子</sup>の後に集り坐り、<sup>口</sup>そこに坐し乍ら指にてそれに孔をあけ、そこを通してやつと我等を窺見たるが、我等は強き酒類を多く飲みしたために、頭重くなり初めしかば、接待の濟みたる後、眞面目なる通詞達が我等の如き酔ふて輕爽なる一團に伴ふには慣れずして、我等のため困惱せざる様にせんとて、暇乞して急ぎ立歸りたり。此處にては奉行を代理せし人<sup>いつも同じ家來の侍從長 Zoren-chiennmeister</sup>にてはあらずは、我等に對して懇切丁寧を装ひたりしが、彼の不愉快なる顔貌は甚だ余を不快ならしめて、暫くはそを忘るゝ能はざりき。<sup>言葉丁寧ながら傲り高ぶりたる面持の</sup>あり。我等此度は<sup>口</sup>強力なる君主に對する硬節にして、<sup>口</sup>取引せんために來れる<sup>商人</sup>にあらざるに、我等は利益のためならず、名譽のために此處にあるものとして待遇せられねばならぬなり。

四月一日<sup>月三</sup>日曜日。午後<sup>三時</sup>に伊豫様<sup>伊豫守</sup> Po Samma <sup>伊豫守</sup>より明日宮中にて我等に對し賜暇の謁見あるべしと告げ來れり。

四月二日<sup>月四</sup>日<sup>月三</sup>月曜日。九時前に前々の如く馬上にて<sup>口</sup>同じ道を経て宮中に赴き、前記にて知らるゝ番所<sup>番所</sup>にて待つこと一時間半にして接待委員及び攝津守の歡待の挨拶を受け、城中に入り、三十六疊敷にて金襴を立廻したる前廣間<sup>口</sup>にて同じ程の時間を過ごせし後、接待委員及び攝津守は再び出來りて會釋しつゝ、大通詞を呼びて、それに謁見式の場所と其時の禮式の次第とを知らせ、少<sup>少</sup>焉して我甲



比丹はそこより近き左手の一室(口大廣間)に案内され、こゝにて賜暇の式となり、將軍の葡萄牙貿易に關する五ヶ條の法律を前例の如く讀み聞かせられ、(五ヶ條の命)問敷事(御代々日本致商賣候様)に被仰付、毎年長崎へ着岸仕候。此已前より被仰出候。奥南蠻人と通行間敷事。不相替日本爲商賣渡海仕度奉存候は、奥南蠻人之儀に付被爲聞召可然儀有之候は、渡海筋之儀は、可承陀船渡海之事に候間、可申上候。新南蠻人の手に入、切支丹宗門に成候國々有之候は、渡海筋之儀は、可承候間、及見聞候は、長崎奉行入迄可申出候。唐人共、奥南蠻國の内、南蠻人又、奥南蠻人と通行間敷事。易船に乗じ諸國へ参候段及承候は、早速可申出候。附阿蘭陀人從來之國々の内、南蠻人と通行間敷事。若出合候國有之候は、其所之名具に書記し、毎年著岸のカビタン長崎奉行入迄可申出候。是なり。日本渡海候唐船にバハン仕問敷候。一、琉球國之儀は、日本に隨ひ候に付、彼地之船奪取申問敷事。是なり。了りて攝津守は再び甲比丹を前廣間に案内し、親切なる顔貌と簡短なる言葉とを以て、『再び長崎にて相見るべし』と言添へて別を告げ、我等は接待委員(宗門)に挨拶することだに得せず、皆俱に辭し去りて、午後一時頃には我寓居に歸りたり。我等が前廣間に在りたる間に、多數の若き公子、宮中の高官役人は我等を環視し、其中に博多侯の一孫もあり、片眼にて此程彼の祖父の忠義の保證に對するため人質として(即ち捕はれの身として)御小姓の中に留められたるなり。○此時黒田家當主は黒田肥前守綱政(萬治二年)正徳元年に於て、其孫と云ふは未だ出生せず。子宣(貞享二年)延享九年(さへ、此時僅に七歳なるが、此時健在なり)祖父光之(寛永五年)寛永四年に對して之を博多侯の孫と云ひしならんか、光之の孫綱政の子なる吉之(天和二年)寶永七年は、元祿四年二月。他の一人は我甲比丹の名を問ひ、それを武器の上に見え書したるが、(○我名を言ひ了る間もあらず、攝津守は「何人にも和蘭人の名を云ふべからず」と命令せり。我等がなほ宮中より退出せざりし前に、將軍より下されたる三臺の對照品は荷ひ出されたり。そは三十領の衣装なりき。○元祿録に柳登日記、甘露を引き、元祿四

年三月四日、阿蘭陀人御暇に付、時服三寸(内六枚、被下之)あり。是日午後には此日頃贈物し、(口)往袖十二島、何も紅裏、通詞、横山、與三右衛門に銀五枚被下之。訪なしたる)たる諸侯より、かゝるものを多く贈り越せり。(一)江戸の町奉行能勢出雲守より二領の黒き衣装、即ち官服 Schwarze Röcke oder Staatskleider。(二)参議官戸田山城守より十領の衣装。(三)土屋相摸守より同様。(四)江戸町奉行北條安房守より同二領。(五)大久保加賀守より同十領。(六)牧野備後守よりも十領の衣装等なり。

四月三日月五。火曜日。他の諸侯よりも同様衣装の贈物を齎し、(いづれも大形の紙に包み、色彩の紙紐引)にて結び、二人の外人接待官のは各々三領、第二級参議官のは各々六領なり。これにて我等の江戸に於ける用向きは濟みたり。時に午後一時なり。

四月四日月六。我三將軍が備後守に賓客として赴かるゝ日なり。それ故今日は城門は閉ぢてあり。是れ現將軍がいつもかゝる機會にすることなるが、何人もそれを驚異とするなり。

——ケンプエル 江戸参府紀行三〇吳註。

### 四 殷昌期 (一)

元祿十七年甲申〇三月十三日改元、寶永元年(紀元二二六四年)正月五日乙巳〇乙巳、三富突講ヲ制

禁ス。○撰要永久錄。正寶事錄。

殷昌期



富突講制禁事蹟

富突講制禁

撰要永久錄○正寶二、事録同。

一、頃日町方におゐて、と之付を名付博突かましき義致ひ由相聞ひ。左様之類停止之旨、度々相觸ひ處、不届之至ひ。右之族急度可召捕ひ間、其旨早々町中可相觸ひ。以上。

正月○元祿十七年。

右之通被仰付ひ間、町中家持之不及申、借家店借召仕等迄、不殘可被相觸ひ。以上。

正月五日元祿十七年。

町年密

人

常憲院殿御實紀ニハ、寶永元年正月ノ條ニ、また頃日市街にて富突講と稱し博賭に類するよし聞ゆ、さる事は停禁のむね、しばし令せざるゝに、いとひが事なり、かゝるものあふはからめとふべしとなり。ト有り。

十四日甲寅

○元祿十七年(紀元二三六四年)正月。○甲寅、三正綜覽。

屋鋪領受者有リ。外ニ是月○元祿十七年(紀元二三六四年)正月。

屋鋪收授者若干。○屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書拔。

屋鋪收授事蹟

屋鋪收授 元祿十七年正月屋鋪領受、左ノ如シ。

圖答。

分 黑鉄四人

本郷元町 黑鉄四人分屋敷 坪數貳百五拾四坪。

東、内山太右衛門。内田長次郎。西、道。南、道。北、道。

内山太右

同 内山太右衛門屋鋪 坪數七拾坪。

東、十八間。西、十間。北、十八間。南、十間。

富突講制禁事蹟

富突講制禁

撰要永久錄○正寶二、事録同。

一、頃日町方におゐて、と之付を名付博突かましき義致ひ由相聞ひ。左様之類停止之旨、度々相觸ひ處、不届之至ひ。右之族急度可召捕ひ間、其旨早々町中可相觸ひ。以上。

正月○元祿十七年。

右之通被仰付ひ間、町中家持之不及申、借家店借召仕等迄、不殘可被相觸ひ。以上。

正月五日元祿十七年。

町年密

人

常憲院殿御實紀ニハ、寶永元年正月ノ條ニ、また頃日市街にて富突講と稱し博賭に類するよし聞ゆ、さる事は停禁のむね、しばし令せざるゝに、いとひが事なり、かゝるものあふはからめとふべしとなり。ト有り。

十四日甲寅

○元祿十七年(紀元二三六四年)正月。○甲寅、三正綜覽。

屋鋪領受者有リ。外ニ是月○元祿十七年(紀元二三六四年)正月。

屋鋪收授者若干。○屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書拔。

屋鋪收授事蹟

屋鋪收授 元祿十七年正月屋鋪領受、左ノ如シ。

圖答。

分 黑鉄四人

本郷元町 黑鉄四人分屋敷 坪數貳百五拾四坪。

東、内山太右衛門。内田長次郎。西、道。南、道。北、道。

内山太右

同 内山太右衛門屋鋪 坪數七拾坪。

東、十八間。西、十間。北、十八間。南、十間。

内田長次郎

同 内田長次郎屋鋪 坪數六拾四坪。

東、御小人。西、黑鉄四人分。南、内山太右衛門。北、道。

露次方

同 御露次方 坪數百拾九坪二合。

東、道。西、内山太右衛門。南、道。北、御小人。

小人

同 御小人 坪數貳百坪。

東、町屋。西、内田長次郎。内山太右衛門。南、御露次方。北、道。

東、十三間。西、十三間。南、十四間。北、十四間。

御茶之水臺拙者共元屋敷、廣小路爲御用被召上、爲代地同所元町之内之御引渡被成、四方間數坪數右御繪圖之面并御定杭之通、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月十四日

松平介之丞組二之九同心

内山太右衛門印

淺井作右衛門組黒鉄

組頭 淺田半左衛門印

御數寄屋方御露次者頭

同 近藤茂左衛門印

鈴木春波印



早川新兵

圖略○

本郷

早川新兵衛屋敷 坪數三百坪。  
東、道。西、道。北、道。西、道。内田與左衛門。大岡金三郎組。

畔柳内田  
大岡組

同

畔柳助九郎。武内田與左衛門。大岡金三郎組。坪數千四百拾六坪壹合九勺。  
東、道。早川新兵衛屋敷。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

畔柳助九郎。内田與左衛門。大岡金三郎組。坪數八百拾壹坪三合七勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

畔柳助九郎。内田與左衛門。大岡金三郎組。坪數七百九拾坪貳合五勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

牧野正喜

同

牧野金助。正組。坪數九百五拾五坪七合五勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

佐野小助

同

牧野金助組。坪數五百三坪七合六勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

佐野小助屋鋪組共二。坪數九百四拾坪。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

畔柳八郎。内田與左衛門。大岡金八郎組。坪數千貳百拾三坪三合貳勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

圖略○

本郷

牧野金助組屋敷。坪數七百三拾七坪四合九勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

牧野金助組屋鋪。坪數千貳百四拾坪貳合三勺。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。

同

牧野金助組屋鋪。坪數九百四坪壹合。  
東、道。西、道。北、道。西、道。北、道。西、道。







九人壹人之七拾坪宛拜領仕。惣坪高八千七百三拾坪之所此内本郷丸山之多貳百五拾坪同所春木町之多百貳拾坪、巢鴨之多七拾五坪、三ヶ所合右坪數之積り大繩之多御渡シ被成、御定杭間數之通相改、坪數相違無御座請取申。小割之此方之多割渡シ可申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月十四日

御中間頭 柳助九郎  
同 大岡金三郎印  
同 大岡源右衛門印

御茶水臺并元町罷有拙者共組御小人組頭八人御草履取五人、右之壹人之付百坪宛、平之者三拾七人壹人之七拾坪宛拜領仕、惣坪高三千八百九拾坪大繩之多御渡シ被成、御定杭間數之通相改、坪數相違無御座請取申。小割之此方之多割可申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月十四日

御小人頭 伴與惣兵衛印  
同 猪飼治兵衛印

圖略。

保田宗卿

本郷御弓町 保田越前守<sup>宗卿</sup>屋鋪 坪數貳千五百坪。

東、道。南、小笠原十右衛門組。北、道。西、道。東、五十六間貳尺貳寸。西、六十四間貳尺貳寸。南、四十六間貳尺。北、四十四間貳尺。

保田越前守谷之御藏跡元屋敷差上、爲代地、願之通本郷御弓町之内之多拜領仕、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

保田越前守内 川瀬庄太夫印

圖略。

米倉昌照

赤坂臺 米倉主計<sup>昌照</sup>屋敷<sup>谷の屋敷之内新道ニ切レ申候代地。</sup>坪數三百九拾坪。

内坪數貳百六拾九坪

東、ク、けなだれ米倉主計預り地。西、米倉主計。南、同代地續。北、橋本平八。

東、五十八間四尺六寸。西、五十八間四尺。南、四十二間四尺。北、五十二間四尺。

坪數百貳拾壹坪。

東、ク、けなだれ米倉主計預り地。西、道。南、道。北、米倉主計。

東、二間三尺。西、三間。南、四十三間五尺。北、四十四間貳尺。

米倉主計谷之屋敷、大川端之多新道御用之切レ、爲代地、屋敷續割残り地之内之多、元坪之通御渡被成、右御繪圖之面御定杭之通相改、坪數相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月廿日

米倉主計内 相場三右衛門印

圖略。

水野忠直

巢鴨町大通り横町 水野隼人正<sup>忠</sup>濱町屋敷之内新道之切レ申、代地 坪數三

殷 昌 期



百九拾六坪五合。

東、道。南、水野隼人正。西、水野隼人正。北、百姓地。

南、拾六間壹尺。北、拾五間貳尺。

水野隼人正濱町屋敷大川端之新道御用之切レハ爲代地屋敷續御年貢地之内ニシテ元坪之通御渡被成右御繪圖之面御定杭之通相改坪數相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月廿一日

水野隼人正内  
目加田治部右衛門 印  
奥田八郎右衛門内中野又六郎。安達半助。  
右立合相改、渡、之。

圖略。

本郷元町御弓町邊 安藤筑後守。屋敷 坪數千五百坪。

東、道。南、廣小路。西、昌清寺。割殘リ。昌清寺。牧野周防守。

南、四十九間貳尺五寸。北、道。割殘リ。昌清寺。割殘リ。

東、三十四間。西、三十四間。北、五間貳尺。三十三間三寸。

安藤筑後守元屋敷廣小路御用之被召上ハ爲代地屋敷續北之方ニテ御渡シ被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月廿一日

圖略。

安藤筑後守内

長坂義右衛門 印

本郷

坪數拾八坪七合。

東、安藤筑後守。西、昌清寺。

南、安藤筑後守。北、道。

東、三角尖。西、三間壹尺。

南、三間。北、十一間五尺。

同 坪數拾五坪一合。

東、安藤筑後守。西、昌清寺。

南、安藤筑後守。北、昌清寺。

東、三角地。

南、前拾八坪七合ノ地ト共ニ三十三間三尺。

北、十二間四尺。壹間。八間。

兩屋敷境空地、則兩方ニ御預被成、右御繪圖之面四方間數御定杭之通、相違無御座請取申ハ尤少之小屋掛等も仕間敷ハ爲後日仍如件。

元祿十七甲申年正月廿一日

安藤筑後守内

長坂義右衛門 印

昌清寺 印

圖略。

赤坂 入戸野十左衛門上ケ地 坪數三百坪。

東、道。南、道。西、仕丁之者。

北、酒井傳右衛門。

東、十七間三尺。西、十六間貳尺。

南、十七間。北、十八間三尺。

右口上ニテ當分預ク、大久保玄蕃頭組酒井傳右衛門。實

申。元祿十六年正月廿六日

細納戸組頭入戸野十左衛門内

立合 藤田友右衛門

屋鋪渡預繪圖證文



元祿十七甲申年四月寶永と政元。

正月十四日渡。

松平助之丞組二之九同心  
内 山 太 右 衛 門

一本郷元町七拾坪

但、御茶之水臺屋敷廣小路御用地之被召上浅井作右衛門組為代地被下。

同日渡。

同日渡。御數寄屋方御路次者頭  
内 田 長 次 郎

同日渡。

同日渡。役名不知。近藤備中守支配  
内 田 長 次 郎

同日渡。

同日渡。但、右同斷御路次方為代地渡ス。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

同日渡。

同日渡。但、右同斷為代地被下。

殷 昌 期

五六七

正月十四日渡。  
一本郷元町三千八百九拾坪

御中間  
柳助九郎  
大岡源右衛門

大岡金三郎

但、御小人組頭八人御草履取五人、壹人之付百坪宛、平之者三拾七人、壹人之付七拾坪宛之積、大繩之勿渡ス。

正月十四日渡。上ヶ地不知  
一本郷御弓町貳千五百坪

御小人頭  
伴與惣兵衛

猪飼治兵衛  
保田越前守

正月廿一日渡。自分屋敷  
赤坂臺三百九拾坪

米倉主計

但、谷之御藏跡元屋敷差上自分屋敷為代地被下。  
但、谷之御藏跡屋敷之内、大川端新道御用之切レ自分屋敷為代地、赤坂屋敷續之勿元坪之通被下。

正月廿一日渡。自分屋敷御筆實地之内  
巢鴨三百九拾六坪五合

右 同  
水野隼人正

正月廿一日渡。  
但、濱町屋敷之内、右同斷之付、為代地、元坪之通被下。

安藤筑後守

同日渡。屋敷間空地  
但、元屋敷廣小路御用地之被召上屋敷間空地為代地被下。

安藤筑後守

正月廿六日預。入戸野上左衛門上ヶ地  
赤坂三百坪

昌 清  
酒井傳右衛門  
屋敷書拔



酒井忠舉

東京市史稿

正月廿七日元寶永酒井雅樂頭濱町屋敷ノ内五千五百坪差上之爲代地大塚下屋敷近所ニテ七千坪願ノ通被下之。

郡山藩

一、矢ノ倉

下賜 元祿十二年正月廿八日 靈岸島代地とノ。

返上 寶永元年正月十八日。

一、不忍池ノ端

下賜 寶永元年正月十八日 大矢ノ倉返上ニ依テ代地トノノ輪原式部

五六八

天享吾妻鑑○甘露

藥王寺領

蹟藥王寺領事

廿一日辛酉

○元祿十七年(紀元二三六)年正月。○辛酉、三正綜覽。

市谷藥王寺

○市内牛込區。

ニ寺領百石ヲ給

伯爵柳澤家回答

藥王寺領 左ノ通り給附ス。

廿一日○元祿十七年正月○中略。

寺領 新規百石。

右之通被下之。

十五日○寶永元年正月○中略。

一、束。寺領御禮。

市谷

藥王寺

柳營日記

市ヶ谷

藥王寺

柳營日記

廿一日○寶永元年正月○中略。市谷藥王寺證覺に、寺領百石をよせ給ふ。

十五日○寶永元年二月○中略。市谷藥王寺證覺は、寺領を謝し奉る。

大塚護國寺末。稻荷山東光院藥王寺 市ヶ谷南寺町(○中略)

御朱印寺領百石。

○上同。○元祿十七年甲申正月廿一日寺領百石被下置、永久天下御安全之御祈禱可相勤

旨蒙上意至今無怠慢長日御祈禱申上い。○中略。

御朱印寺領

常憲院様御代初ゝ拜領仕い。御文言左之通、

武藏國荏原郡道塚村之内百石事、今度寄附之訖、全可收納之。并寺中門前諸役等免除、

藥王寺進上、永不可有相違者也。仍如件。

元祿十七年正月廿一日

府内備考

〔附記〕奉公人

廿一日○元祿十七年正月○中略。

加藤越中守相渡御書付之寫

覺

當年之所々普請等有之ニ付、奉公人差支い義、可有之の間、一季居之者、當年之

附記  
奉公人

殷昌期

五六九



暇を出しし事無用之い。去年之給分之有、前之以請人可差置い。若別之請人を可立替と申者可任其意い。尤相對之有暇を出い義ハ、可爲勝手次第い。已上。

申元祿十七年正月

柳營日記

永久橋架設

是月元祿十七年(紀元)濱町箱崎町市内日間ニ橋梁ヲ架ス。名ケ

テ永久橋ト曰フ。御府内沿革圖

永久橋架設

永久橋架設 相傳フ。

北新堀箱崎邊略

同元十七申年正月前書略箱崎之方朽木伊豫守屋敷前、東之方濱町に渡橋、初、掛渡

有之。當時永其節右橋手前、湊橋之方、有來道敷之内、南之方箱崎町壹丁目、屋前道

之側、壹間通被召上、廣道之成。

濱町新橋之名、永久橋と唱可申旨、被仰渡い間、左様ニ可被心得い。此旨町中不殘、可被相

觸い。以上。大成

七月八日元祿十七年

町年寄

人

撰要永久錄正實

常憲院殿御實紀此月元祿十七年(紀元)濱町新橋を永代橋と稱すべきむね觸しめらる。ト記ス

ハ誤歟。

本所奉行更

二月二日壬申元祿十七年(紀元)本所奉行酒井重春病免シ、小姓

本所奉行更

組朽木定盛内代リ任ズ。柳營日記、柳營補

本所奉行更任 相傳フ、

二日元祿十七年

一、御小姓組松平石見守組酒井與九郎重本所奉行相勤い處願之通病免。

一、御小姓組北條右近大夫組朽木内記定本所奉行被仰付之。柳營日記

一、二月二日元祿十七年本所奉行酒井與九郎病氣願ノ通御免。跡北條右近大夫組朽木内記

被仰付い。寶永元錄

本所築地奉行

同元祿十七年二月二日同御小姓組北條右近大夫組

酒井跡 朽木内記 柳營補任

定盛彌十郎内記彌五左衛門丹後守大和守從五位下致仕號神盛。

十一年元祿十七年八月十八日御小姓組に列し、寶永元年二月二日より本所の奉行をつと

む。四年寶永正月十日御徒の頭に轉じ、略

是日元祿十七年(紀元)屋鋪預有リ外ニ是月元祿十七年(紀元)屋鋪收授

若干。屋鋪預繪圖

屋鋪收授 元祿十七年二月中、屋鋪ヲ受領シタル者ヲ數フ。

元祿十七年甲申年四月寶永と改元。

屋鋪收授

屋鋪收授事



堀直利

二月二日預。内藤式部少輔上ヶ地  
一、下谷貳千三百四拾壹坪  
二月七日預。伊奈半左衛門支配之内  
一、深川小名木川端四千九百九拾貳坪餘

堀左京亮預地。直利。  
牧野備前守

小笠原長重

二月十日預。  
一、南本所盛下町七坪九合餘

小笠原佐渡守預地。重。

内藤清枚

二月十二日預。松波五郎大夫上ヶ地  
一、内藤宿千八百壹坪

内藤駿河守預地。枚。

松平輝貞

二月十三日預。上ヶ地不知  
一、小石川千四百拾八坪

松平右京大夫預地。輝貞。

蛭川親造

但、巢鴨屋敷差上り并道之切レハ代地として、小石川屋敷南續之多、元坪之通被下。  
同日。松浦八左衛門上ヶ屋敷  
一、雉子町五百貳拾四坪  
一本二、但、建家立具疊長屋土藏植木石共。

蛭川采女預地。親造。

三浦明敬

同日。二月十五日預。同斷。齋藤左源太青山藤藏上ヶ地之内  
一、同所。谷六拾六坪

三浦壹岐守預地。明敬。

加藤泰胤

同日。二月十五日預。同人別後  
一、同所。草。五百坪

加藤織部預地。泰胤。

弓氣多昌友

二月十七日預。伊丹左京上ヶ地別後  
一、土器町百四拾九坪

弓削田忠右衛門預地。多昌友。

眞田幸道

但、屋敷之内新道御用之上りハ爲代地、屋敷續之多被下。  
二月廿五日預。伊奈半左衛門支配所之内  
一、麻布八拾八坪

眞田伊豆守預地。幸道。

黒田綱政

但、麻布屋敷之内新道御用之被召上り爲代地、屋敷續之多、元坪之通被下。  
同日。同斷  
一、今里村四百拾八坪

松平肥前守預地。綱政。

徳川綱豊

但、赤坂屋敷右同斷之付、爲代地、屋敷續之多、元坪之通被下。  
同日。同斷  
一、白銀今里村入會壹萬坪

殿源。次。郎。隆。田。惣。兵。衛。

服部四郎兵衛

外二道坪千百坪共。  
二月廿八日預。鈴木源左衛門上ヶ地  
一、番町百四拾坪

服部四郎兵衛

牧野成春

深川 牧野備前守成春。屋鋪之内 坪數四千九百九拾貳坪四合。  
内、八百坪九合 新道代地。  
四千九百九拾壹坪五合 繰替坪。

東西、百四十間。 北、三十五間貳尺。  
南、三十六間。

牧野備前守濱町屋敷裏大川端通、今度新道之成ハ爲代地、深川屋鋪續之多切レ坪之通御渡被成、有來り屋敷形惡敷御座ハ之付、願之通り東方百性地と切替被仰付、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月七日

牧野備前守内 曾 雌 常 右 衛 門 印

伊奈半左衛門支配所之内、牧野備前守殿ハ御屋鋪繰替坪并新道坪共御渡被成、右御繪圖之面相違無御座ハ爲後日仍如件。

申二月七日

田口勘兵衛印



圖略○

本所 芝田町代地 坪數貳百坪。

東、道。南、中島伊勢。西、道。北、道。

東、道。南、西、京間十間。

同 芝田町代地 坪數百貳拾坪。

東、道。南、道(相生町通)。西、道。北、佐柄木彌太郎。

同 芝田町代地 坪數貳百坪。

東、道。南、常後役屋敷。西、道。北、道。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

東、道。南、西、京間十間。

芝田町三人之者

右之松平紀伊守殿に去秋添屋敷就下、御用地上り、芝田町三人之者に爲代地、於北本所一二之橋通り、三ヶ所之り間敷坪數傍示杭之通り、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十日

伊奈半左衛門内 加藤部治右衛門印

坪内覺左衛門内長島政右衛門。朽木内記内吉岡藤八郎。右兩人立合、渡之。

圖略○

割殘地 坪數七坪九合餘。

東、小笠原佐渡守。南、明地。

東、西、八尺。南、北、六間。

西、道。盛下町七間通。北、百姓町屋。

右者於南本所盛下町小笠原佐渡守屋敷裏門前、四方間敷坪數傍示杭之通相違無御座。佐渡守御預り申、何時成共御用次第差上可申、預り内、右明地之内家作一圓仕間敷、縦令圍等仕、共、見透、様之輕く可仕、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十日

坪内覺左衛門内長島政右衛門。朽木内記内吉岡藤八郎。右兩人立合、渡之。

右兩人立合、渡之。

圖略○

小石川 松平右京大夫屋鋪 坪數千四百拾八坪。内、百拾八坪ハ道代地。

東、道。南、道。西、松平右京大夫。北、松平右京大夫。

東、三拾間。西、四十五間。南、四十六間。北、四十八間。三尺。

松平右京大夫集鴨屋鋪差上、代地千三百坪并道二切、代地百拾八坪共、小石川屋鋪續南方之り、元坪之通り御渡シ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十三日

松平右京大夫内 豐島源太左衛門印



圖略○

雉子町

蛭川采女屋鋪 坪數五百貳拾四坪。建家有。

東、荒川土佐守。

西、道。北、荒川兵左衛門。

南、道。東、十八間貳尺。

西、十七間貳尺。

南、貳十九間壹尺。

北、貳十九間貳尺。

松浦八左衛門上ヶ屋鋪蛭川采女拜領仕。四方間敷坪數。右御繪圖之面并建家立具疊。長屋土藏植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十三日

圖略○

淺草

割餘り 坪數五百坪。

東、智光院。

西、百性地。

南、道。東、四十間五寸。

西、三十九間四尺。

南、十二間三尺一寸。

北、十二間三尺一寸。

淺草御小人十三人上ヶ地割残り。加藤織部御預ヶ被成。四方間敷坪數。右御繪圖之面相改相違無御座御預申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十五日

圖略○

谷中三崎

割残り 坪數六拾六坪。

東、妙圓寺。

西、三浦壹岐守。

南、同上。

北、三浦壹岐守。

加藤織部内 山邊團右衛門印

東、貳十九間三尺。西、三十壹間三尺。

兩屋鋪境割殘地。則兩方御預ヶ被成。間敷坪數。右御繪圖之面相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十五日

三浦壹岐守内 島田六兵衛印  
本所法恩寺末 妙圓寺印

足立半助。

服部七右衛門。宇野小兵衛。吾孫子幸七。

圖略○

土器町

弓削田忠右衛門屋鋪前道坪代地 坪數百四拾九坪。

東、道。篠崎善左衛門。

西、松平伊豫守。

南、篠崎左門。小栗五太夫組。

北、弓削田忠右衛門。

東、三間。二間五尺。

西、十六間三尺。

南、十壹間。壹尺五寸。五間。二間五尺。折廻し。

北、十八間三尺。

弓削田忠右衛門屋鋪内新道御用之上り。爲代地。屋敷續南之方伊丹左京殿上ヶ地割残り之所御渡被成。四方間敷坪數。右御繪圖之面御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月十七日

圖略○

麻布 眞田伊豆守道代地 坪數八拾八坪。

般昌期



東北道。西北、西南ニ同シ。西南、眞田伊豆守。〇リ百姓町屋。  
東北、西南、八間三尺。東南、眞田伊豆守。

眞田伊豆守麻布屋敷之内、新道御用ニ被召上ハ爲代地、同所屋敷續御年貢地之内ニ有、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

眞田伊豆守内  
池村八太夫印

元祿十七甲申年二月廿五日  
伊奈半左衛門支配所之内、拜領地ニ御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

伊奈半左衛門手代  
加藤武治右衛門印

圖略。

今里村 松平肥前守道代地 坪數四百拾八坪。

東道。南、野道(畑)。西、道(上水)。北、松平肥前守。  
南、四間壹尺二寸七分。西、五間五尺。  
東、四間壹尺二寸七分。北、百壹間。

松平肥前守赤坂屋鋪新道御用ニ付被召上ハ爲代地、今里村下屋鋪續南之方御年貢地之内ニ有、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

松平肥前守内  
荒木善左衛門印

元祿十七甲申年二月廿五日

伊奈半左衛門支配所之内、拜領地ニ御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

伊奈半左衛門手代  
加藤武治右衛門印

申二月廿五日

圖略。

白銀 甲府殿屋鋪 坪數壹萬坪。

東、畑。南、畑。西、上水。北、なだれ。  
東、百三十三間貳尺。西、百三十三間貳尺。  
南、七十五間。北、七十五間。

同 表通道幅拾間長百拾間 坪數千百坪。

東、畑。南、道。西、上水。北、甲府殿屋鋪。

甲府殿御屋鋪白銀村今里村御年貢地之内ニ有壹萬坪之所、并表通道幅拾間長百拾間之所共、四方間數坪數相違無御座請取申ハ以上。

竹田源次郎 窪田惣兵衛印

元祿十七甲申年二月廿五日

伊奈半左衛門支配所之内、壹萬坪御屋敷ニ御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

伊奈半左衛門手代  
加藤武治右衛門印

申二月廿五日

圖略。

番町 服部四郎兵衛屋敷 坪數百四拾坪。

殷昌期



東、道。南、新見又三郎。西、前田隼人。  
東、十七間貳尺。西、十七間四尺。  
南、八間。北、八間。

番町鈴木源左衛門上ヶ屋敷拙者拜領仕、四方間敷坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年二月廿八日

西九火之番 服部四郎兵衛印

——屋鋪渡預繪圖證文

一、二月二日○寶永元年○中略加藤遠江守○泰淺草下屋敷被召上、爲代地、雅樂頭○酒井忠。

右濱町上ヶ屋敷被下之。

一、同○寶永元年○中略二月廿三日○中略。

一、柳原屋敷御用被召上。

水野隼人正○真。

大澤右衛門督○基。

一、隣屋敷添被下之。

一、於本郷屋敷引替被下、彦坂九兵衛○重、伊勢平八郎○貞、水野式部○恒、甲斐庄喜右衛門○正、永井讚岐守○允、秋田淡路守組内藤十左衛門○景、伊澤播磨守組古田兵九郎○重。

——天享吾妻鑑

郡山藩

一、駒込下屋敷○中略。

交換 寶永元年二月十日○大、夫拜領○地五千九百坪、下邸六千七百坪、下隣ノ右京。

大澤 伊勢 水野 甲斐 永野 永井 永藤 古内  
基 重 敬 隆 救 恒 正 直 景 廣 次 廣 次 廣 次

一、不忍池ノ端○中略。

返上 寶永元年二月廿四日

一、本郷弓町

下賜 寶永元年二月廿四日、池ノ端返上ニ依テ、  
十一日○寶永元年○中略。

——伯爵柳澤家回答

加藤遠江守○泰。

右之通老中列座申渡之。○寶永元年○中略、  
雅樂頭上ヶ屋敷拜領之。

一、甲府中納言殿家司小出土佐守召之、御願之通白銀村ニ多屋敷一萬坪被遺之旨豊後

守傳之、爲右御禮使者戸田長門守を以被謝之。

廿三日○寶永元年○中略。

誓願寺前屋敷御用地ニ付被召上。

水野隼人正○真。  
御普清奉行 甲斐庄喜右衛門○正。  
長崎奉行 永井讚岐守○直。  
新番頭 彦坂九兵衛○重。  
密合 水野式部○恒。  
御目付 伊勢平八郎○貞。  
御小姓組 秋田淡路守組 内藤十左衛門○景。



天野政永

右屋敷御用地ニ付被召上代地本郷ニ被下之。寶永元年録同。

同伊澤播磨守組 古田兵九郎重

大澤右衛門督基

小普請松平主計頭組 天野彦三郎政

柳營日記記

一、同寶永元年 廿一日加藤遠江守泰 淺草下屋敷被召上代地濱町雅樂頭上屋敷之内賜之。

甘露叢

一、同寶永元年 廿三日水野隼人正柳原屋敷被召上大澤右衛門督隣屋敷添被下。

秋田後守組 内藤十左

於本郷御弓町屋敷引替賜之。  
甲斐庄喜右衛門 永井讚岐守 彦坂九兵衛 伊勢平八郎 水野式部

甘露叢

衛門 古田兵九郎

重敬壹岐守九兵衛甚十郎 寶永元年甲申年柳原居屋敷御用地ニ相成替本郷御弓町ニ貳千坪被下置寛政呈譜

大成殿再造

七日丁丑元祿十七年(紀元二二三六)四月二日 大成殿再造ノ役ヲ起シ是日元祿十七年(紀元二二三六)六月七日 宇和島伊豫國 城主伊達宗贊江守ニ命シテ役ヲ助ケシム。五月廿五日癸亥寶永元年(紀元二二三六)四月 歛初ス。老中忍武藏國 城主阿部正武後守總奉

大成殿再造 事蹟

行シ若年寄笠間陸國常陸 城主井上正岑和守大之ニ副フ。既ニシテ正武豊阿部後守卒シ老中谷村斐國 城主秋元喬知馬守但之ニ代ル。小普請奉行間宮信明所左衛門奉行タリ十一月十一日丁未寶永元年(紀元二二三六)四月 上棟廿五日辛酉寶永元年(紀元二二三六)十一月 遷座シ廿八日甲子寶永元年(紀元二二三六)十一月 行賞有リ。柳營日記 鳳岡先生全集 寛政重修諸家譜

大成殿再造 前年十一月ノ大火ニ焼失シタルヲ以テ是役有リ。

柳營日記記

助役 左ノ命有リ。

七日元祿十七年(紀元二二三六)二月 一、伊達遠江守宗 事聖堂御造營付御手傳被御付之條例年之時節出府有之ヲ御用可勤旨老中より奉書。

柳營日記記

七日元祿十七年(紀元二二三六)七月 伊達遠江守宗昭昌平坂之大成殿再建の人夫を出ス。

憲廟實錄

七日寶永元年(紀元二二三六)二月 昌平坂大成殿去年の震にあひしをもて御再造の事仰出され伊達遠江守宗贊人夫出すべしと命せらる。

常憲院殿御實紀

掛員 老中以下左ノ如ク任命セラレ。

一、十一月寶永元年(紀元二二三六)五月 一、聖堂御普請御手傳去ル比伊達遠江守宗 被仰付由也

殷 昌 期



一、聖堂御普請護持院御修覆惣奉行ハ、阿部豊後守武、井上大和守武、被仰附之。  
私ニ云、豊後守殿九月ニ至死去ニ付、秋元但馬守殿相勤ラル、ト也。

——天享吾妻鑑

——甘露叢

一、同年寶永元五月。十一日、聖堂御普請護持院御修覆惣奉行阿部豊後守、井上大和守、先月豊後守死、後秋元但馬守相勤。

小普請奉行間宮信明等、之カ掛員タルコト、下文ニ見ユ。  
一、廿五日寶永元五月中略。

一、聖堂御普請御鋏初ノ由、伊達遠江守家來場所へ被差出候衆、

- 神尾帶刀家老 小原三左衛門中老
- 萩森彦右衛門 星彌一兵衛
- 野矢庄右衛門 高間八太夫
- 内藤三右衛門 船山夫左衛門
- 奥津勘兵衛 豊嶋番右衛門

——天享吾妻鑑

一、同年申寶永元五月廿五日、聖堂御普請始リ、同十一月廿五日御遷座也。  
伊達遠江守殿

奉行

小普請奉行

棟梁

右遷座之節、行列次第。

御先 御徒一組  
聖像 壹

此間學寮附。

御劔

御琴

右於堂内、左仲ニ可相渡。

- 曾子像 二
- 顔子像 二
- 孟子像 四

井上部豊後守殿

間宮所左衛門殿

大谷甲斐

三十人。

御直參 近藤半助

松井與右衛門牧野駿河守殿内

森田兵助

佐藤又右衛門松平薩摩守殿内

松村四郎兵衛

得力十之丞御直參

橋本三右衛門橋原式部大輔殿内

津田忠内御直參

秋山半藏御直參

村井與七御直參



漆階の上請取

龍の旗請取

御跡 小十人一組

右之兩人先達多御假殿迄罷出、御輿出御終、御供所罷出。

御供之衆

御名代

御組共

同

同

同

御目付

堀 萬右衛門  
田 宮 藤 助  
小林 柰右衛門  
天津 源 五郎

松平右衛門督殿内  
津村惣右衛門  
紀州御家來  
横山十藏

秋元 但馬守殿  
稻垣 對馬守殿  
畠山 民部大輔殿  
成瀬 瀧右衛門殿  
高林 彌一郎殿  
大島 織部殿  
加藤 右近殿  
山崎 四郎左衛門  
——承寛襟録

新初 七月四日ニ在リ。

四日○寶永元年  
七月○中略。

今日聖堂御新初有之、御手傳伊達遠江守小普請奉行間宮諸左衛門小普請方石川源兵衛伊藤新右衛門相詰大學頭出座。

四日○寶永元年  
七月。大成殿手斧始あり、助役伊達遠江守宗賢、小普請奉行間宮諸左衛門信明初め、事にあづかる輩まかりのぞむ。

柱立 左ノ如シ。

廿七日○寶永元年  
九月○中略。

聖堂御柱立有之、但馬守伯耆守相越林大學頭父子罷出、小普請奉行間宮諸左衛門小普請方石川源兵衛伊藤新右衛門伺公棟梁甲良豊前勤之。

但、御手傳伊達遠江守服ニ付不罷出。  
廿七日○寶永元年  
九月○中略。けふ大成殿柱立あり、秋元但馬守喬知本多伯耆守正永はじめ、事にあ

づかる輩、まかりむかふ。

七十二賢像作製 狩野養朴畫ク。

十二日○寶永元年  
十月○中略。

右今度聖堂七十二賢之畫像御用勤い付法眼被仰付旨。

狩野 養 朴

——柳營日次記



十二月○寶永元年十月

法眼

右之聖堂繪被仰付い之付被仰付之旨於御右筆部屋縁頼但馬守○秋元喬知傳之。

——寶永遺錄

十二月○寶永元年十月畫工狩野養朴法眼位之叙昌平坂の大成殿之安置せる七十二賢の像を畫くに依てか。

——憲廟實錄

十二月○寶永元年十月畫工狩野養朴常信孔廟七十二賢の像を畫たる賞とて法眼に叙せらる。

——常憲院殿御實紀

儒臣林信充兄弟布衣ヲ著スルコトヲ許サル。

四日○寶永元年十一月

林七三郎○信林百助右兩人聖堂御普請出來之付布衣被仰付之。

——柳營日次記○寶永元年

四日○寶永元年十一月儒臣林大學頭信篤か長子七三郎信充二子百助信智ともに布衣着することをゆるさる大成殿成功によてなり。

——常憲院殿御實紀

奉行叙爵ハ、

七日○寶永元年十一月小普請奉行間宮所左衛門信明叙爵して播磨守之任に昌平坂大成殿再建の勞に依てか。

——憲廟實錄

七日○寶永元年十月

右之聖堂御普請之付諸大夫被仰付之。

小普請奉行間宮所左衛門播磨守と改柳營日次記

七日○寶永元年十月

右之聖堂御普請之付諸大夫被仰付播磨守と改。

間宮所左衛門——寶永元錄

七日○寶永元年十一月小普請奉行間宮諸左衛門信明爵ゆりて播磨守と稱す孔廟上棟による所とぞ聞えし。

——常憲院殿御實紀

上棟

十日○寶永元年十月

明十一日聖堂上棟之付秋元但馬守稻垣對馬守參勤御目付勤之○寶永元年

十一日○寶永元年十月

一、聖堂御造畢之付今卯上刻上棟有之但馬守稻垣對馬守相越。

聖堂へ參い者清之覺

一、父母忌正月忌日之者之當日明ヶ六時と同座仕間敷尤右之者堂内へ罷越間敷い事。

一、當日明ヶ六時と忌服之者と同座仕間敷事。

一、當日明ヶ六時と精進可仕い事。

般昌期



一、但馬守對馬守廻廊着座、御目付安部式部小普請奉行間宮播磨守小普請方石川源兵衛、伊藤新右衛門、何きも、鬘斗目長袴、林大學頭、同百助罷出。

上棟之規式、棟梁河原豊前大谷甲斐勤之。

柳營日記記

畢、多兩人へ銀十枚ツ、被下之。

御手傳伊達遠江守服之付不罷出、家來斗勤番勤之。

十一日寶永元年十一月昌平坂大成殿上棟、惣奉行阿部豊後守正武卒して後、秋元但馬守喬朝、伊達遠江守宗昭人夫を出せり。今日林大學頭信篤、子七三郎、百助六位之列ス。

憲廟實錄

十日寶永元年十月こたび大成殿上棟あるにより、その事にあつかるともから齋戒の制をしめさる。父母の喪あるは正忌か、その他親族の忌服ある輩と、其日卯牌より同席せず、同刻よりさうじすべし、尤その輩廟庭へまかるへからずとなり。

十一日寶永元年十一月また孔廟上棟により、秋元但馬守喬知少老稻垣對馬守重富はじめ、其事奉りし輩まかりむかふ。

再造聖堂上梁文

武州昌平坂大成殿者、國學興起之地、儒風盛行之場也。再降、庶教命悉依舊規、斧斤畢功、土木成營、凡其殿堂廊門亭齋厨、舍書庫、周垣罔有所遺、巍然若魯靈光、美哉如漢景福。文物誕敷、治教休明、問、預宮于此、縮闕里于彼、隆萬世之本、聳四方之觀、敬涓穀且因、學修梁。

拋梁東 蒼海漫漫流不窮、聖門欲問觀瀾術、風化施教長擴充。  
拋梁西 萬國平治家亦齊、風雲報喜華封祝、君子萬年德日躋。  
拋梁南 政命無爲天地參、衆民解慍稱虞舜、一曲五絃德廣覃。  
拋梁北 習誦成市各自得、冀野馳志騏驎兒、人唯稱德不稱力。  
拋梁上 陰陽循環互消長、日月光華星辰張、聖人同德觀天象。  
拋梁下 德音昭著福祿嘏、周家郁郁文華弘、八百年來保宗社。  
伏願上梁以後、萬國又安、四序和暢、風雨若震雷收聲、祝融消跡、柱礎固基、聖體廣胖、聖心悅樂、爲大君幕下報以景福、介以眉壽、奎運示祥、文明之德遍及億兆、台坐重熙、太平之化長垂萬年。

鳳岡林先生全集

遷座 八、

廿三日寶永元年十一月

明廿五日聖堂御遷座之付、爲御名代、畠山民部大輔被仰付之旨、秋元但馬守申渡之。寶永元年

廿五日寶永元年十一月

今卯上刻聖堂御遷座有之。

十一月廿五日寶永元年今卯上刻聖堂御遷座有之付、但馬守稻垣對馬守相越、御手傳伊達遠江守罷出、林大學頭同百助伺公。



神輿五丁昌平坂登、從裏門出御、清道之旗貳本先行、其次御徒頭加藤右近布衣、組共御先拂、神輿之先へ升降龍之旗貳本、神輿之後御劍琴隨之、神輿之左右弟子共供奉。次四配之御輿弟子共供奉勤之。次小十人頭大嶋織部布衣、組共押勤之。御目付山崎四郎左衛門布衣、令差引、大學頭百助奉迎之。但神輿御旗ハ不殘、黑鉄勤之、白丁着之。

一、神輿從堂内弟子共罷出、堂縁之階下ニ多請取之、堂内へ入御堂之唐戸閉之、御遷座畢、多唐戸開之神前へ御供物備之、御名代畠山民部大輔左右有之御參堂、作り御太刀、御馬代黄金一枚御進獻、但馬守對馬守ハ東之回廊豫參、御手傳伊達遠江守も罷出、神輿御通り之節、廻廊之下へ各罷出、御目付山崎四郎左衛門、御徒頭加藤右近、小十人頭大嶋織部、小普請奉行間宮播磨守、小普請方石川源兵衛、伊藤新右衛門、西之回廊着座、御徒目付小入目付ハ杏壇門外有之、弟子共不殘、御供所廊下へ退居、樂人ハ白洲有之、右畢多大學頭、百助相替多神酒三度進獻之拜禮之告文讀、告文畢多、但馬守遠江守對馬守順々拜禮過多、御帳御簾下之、何きも退出。

一、拜領物時、ふく五林大學頭、同貳林百助、御納戸頭上田新四郎進物番も相越、仰高門御鐵炮頭成瀬瀧右衛門組共勤番之。

御請ハ去十一日上棟之時之通也。

畠山民部大輔聖堂御名代相勤ニ付、出御之節御目見。

晦日○寶永元年十月○中略

大學頭總領  
林 七 三 郎

柳營日次記

時服三

去廿五日服中ニ付及今日。

右ニ聖堂御遷座相濟ハニ付被下之旨、老中申渡之。

廿五日○寶永元年十月○中略

昌平坂大成殿ニ文宣王神像遷坐、先ニ清道旗二本、次ニ歩士頭加藤右近六位の裝束を着し組を牽フ。次ニ升降龍の旗二本、次ニ神輿、琴劍書生供奉ス。次四配之神輿書生供奉也。次ニ小十人頭大嶋織部六位裝束を着し組を牽也。次ニ目付山崎四郎左衛門六位裝束を着して押後さり、神輿と旗と黒鉄の者白丁の裝束もて持つ。林大學頭信篤仰高門の外に迎へ殿内に入ル。遷座畢多、高家畠山民部大輔基玄代參使を奉り、太刀、馬代黄金一枚を持參也。執政秋元但馬守喬朝、執事稻垣對馬守重富并伊達遠江守宗昭東廊下ニ着座ス。目付山崎四郎左衛門歩士頭加藤右近、小十人頭大嶋織部、小普請奉行間宮播磨守信明、小普請方石川源兵衛、伊藤新右衛門西廊下ニ着座也。大學頭信篤其子百助三獻して告文を讀む。樂人樂を奏ス。但馬守喬朝遠江守宗昭對馬守重富次第に拜し畢て、帳を垂き簾を下して退出ス。此日仰高門ニ鐵炮頭成瀬瀧右衛門固免たり。林七三郎ハ服令によりて出坐セ也。

廿五日○寶永元年十一月今朝聖堂就御遷座、爲御名代、畠山民部大輔參詣、御目付山崎四郎左衛門、御徒頭加藤右近、小十人頭大嶋織部組共勤之也。且秋元但馬守稻垣對馬守參上、御先手成瀬瀧右衛門勤番相勤也。側衆ハ御注進有之也。

寶永遺錄



廿五日○寶永元年十一月○中略この日、昌平坂文廟遷座なり。秋元但馬守喬知少老稻垣對馬守重富  
 まかりむかひ、助役伊達遠江守宗賢伺公す。鹵簿は清道旗二柄前行し、次に徒頭加藤右  
 近明教布衣を着し、所屬一隊をひきつれ前驅す。次に昇降龍の旗二柄、次に神輿、次に劍  
 琴、左右に儒臣林大學頭信篤の弟子數十人供奉す。次に四配の輿、これも弟子等供奉す。  
 次に小十人頭大島織部義浮布衣着し、所屬一隊をひきつれ後押す。目付山崎四郎左衛  
 門正周は、布衣着して指揮す。大學頭信篤、大紋百助信智布衣、仰高門外にむかへ殿内に  
 いる。遷座畢て、高家畠山民部大輔基玄、代參して、太刀金馬代進薦す。ときに但馬守喬知、  
 對馬守重富、并に遠江守宗賢は東廊、目付徒頭小十人頭小普請奉行は西廊につく。次に  
 大學頭信篤百助信智三獻して、告文をよみ、俗人樂を奏す。はて、喬知はじめ諸有司次  
 第に拜して、帳を垂、簾を下す。仰高門は先手頭成瀬瀧右衛門重章警衛す。林七三郎信充  
 は、喪制によて出座せず。大學頭信篤は時服五、百助信智には時服二たまふ。  
 三十日○寶永元年十一月○中略儒臣林七三郎信充、孔廟遷座の賞とて時服給ふ。喪制によて、けふに  
 延びしなり。  
 一、同○寶永元年十一月○中略常憲院殿御實紀

一、今夜寅半時揃、仰高御門番、  
 右ハ十一月廿五日大成殿御遷座ニ付、  
 舊冬十一月廿九日類焼ニ依テ、今度御造營御手傳、  
 御鐵砲 成瀬瀧右衛門  
 伊達 遠江守

天享吾妻鑑

甘露叢

一、同寶永元年十一月廿五日、大成殿御遷座、今夜寅半時揃。舊冬十一月廿九日類焼ニ依テ、今度御造營御手傳。

十一月廿六日○五日聖堂就御遷座

仰高門  
 御先手 成瀬瀧右衛門  
 御目付 壹人  
 御徒方 加藤 右近組共、  
 小十人方 大島 織部組共。

右御目付右近織部ハ布衣、其外者、鬘斗目麻上下着用之事。  
 右ニ付御清之御書付、

聖堂に參り者清之覺

一、父母正月忌日之者、當日明ヶ六時より同座仕間敷い。尤右之者堂之内に罷越間敷事。

一、當日明ヶ六ツ時、忌服之者、同座仕間敷事。

一、當日明ヶ六時、精進可仕事。

以上。

御徒方萬年記

寶永元年十一月廿五日、聖堂御再興出來、御遷座之儀式、早天。



御供 小十人頭二人組共ニ。

御歩行頭二人組共ニ。

御警固 御目付二人。

御前手二人。

御代拜 畠山民部大輔。

出座 秋元但馬。

稻垣對馬守。

伊達遠江守。

右了、大學頭新宅ノ座敷へ但馬守殿御入り、大學頭へ爲當日之御祝儀、時服五ツ、五供へ、三ツツ、被下由、仰渡有之い。殿様々大學頭へ二種、七三郎殿、百介殿口上、若殿様々大學頭へ一種、七三郎殿百介殿へ口上計。

聖堂御普請ノ時ニ、大工ノ禮アリ。大紋布衣十二三人、其外素袍ノ者百人モアラン。屋ヲ立テ大禮也。右ノ布衣素袍皆被下ツ、也。出來ノ後ノ一也。棟札ウツ時ノ事カ。

——中村雜記

晦日○寶永元年十

時服三

林 七三郎

——寶永元錄

右之聖堂御遷座相濟之付被下之旨、老中申渡之。

寶永元年甲申五月、重建孔廟。十一月落成。二十五日一傳二十奉遷神位。遣大司禮民部大

輔畠山基玄一作豐前守品川某者誤。代告大學頭林信篤獻奠。

痛加省惶恐懇、申取請修造。朝議允之。是年○寶永二年六月六日下令有司、大興工役。命遠江

守伊達宗昭一傳助作焉。將作令播磨守間宮信明肥前守大島某、營繕令長門守布施某

皆選他職不置大島布施二人、意比學工。工曹主事石川法重、伊藤重光等並督工。而執政但馬

守秋元喬知初命豐後守阿部正武。參政對馬守稻垣重富初命河內守井上忠孝。執政改命重富。寔

總知之。頒制於七月四日、安棟於十一月十一日按伊達宗昭重建聖廟記。凡五閱月大功告竣。

殿廡門廊凡百餘楹、皆照原擬靡有毫差。廳堂齋室、舍吏房亦照原擬。逐一修造、皆從信

篤請也。惟行殿則出於朝議、暫從緩舉。蓋去歲地震、城樓殿閣壞圯過半、大小諸侯助役奔

命者三十餘人、衆工紛興、機務多端、皆赴其急、不有暇及也。十一月廟成、乃涓吉遣有司落

之。越二十五日奉遷神位、儀如元祿故事。監察官山崎某將作令間宮信明及僚屬皆跪於

東廊。銃手隊長成瀬某率其屬立仗於仰高門。神龜五位、每龜銜役眼白丁鳥八人、擡、凡六、學

生半眼目一人、夾從。正位兼夾從四人、近藤某、佐藤某、其浦某、村某、又二人、其一桂山、其藤某、其

津田立賢、小見山昌嶠、應旗清道旗執各。揭於前頭、而學生雙行先引、奉車隊頭大島義延、先驅

長加藤明教並服。各遣隊士所在分衛焉。神龜既出北門、右轉並垣而入仰高門。樂工豫位

於東棚添造東廡架棚。俟神龜入、入德門而奏樂。主祀大學頭林信篤、儒員林信智各盛服寫信















用い夏。

一、惣多結構成道具等取集い儀無用い。たとひ振舞亦ハ茶の湯ふと仕い共、諸事かろく有合い品を可被用事。

一、料紙結構成ハ無用い。小身の面々ハ小奉書紙之類、其外輕き紙可被用い。遠國御役人并御使御目付杯に被相越い衆、注進之書狀等も此趣可被相心得事。

一、諸家中之足輕并まゝ若黨之衣類、輕品可着用い。尤前々より申渡い通、彌急度相守い様之可被申付事。

右之趣可被相達之。以上。寶永元録同。

申二月

寺社ニ頒ツ禁令ハ寺社奉行ニ附ス。

覺

一、祭禮法事かろく可仕い。惣多寺社方山伏之法衣裝束等、結構仕間敷い。供廻も人少にいゝし、乗物堅笠に至るまで、美々敷體之無之、諸事かろく仕い様之常々可被申付い。以上。

町中ニ頒ツ禁令ハ町奉行ニ附ス。

覺

一、獻上物ありといふとも、結構成菓子入、盃之臺、絲花之類無用い夏。

一、獻上物も上箱に金銀のか子物無用い事。

一、新規之珍敷仕出し菓子類、且又只今迄拵來い手間取い品、向後無用い事。

一、火事羽織頭巾結構之無之、火事場之まとひ之金銀之類用ひ申間敷い夏。

一、能之裝束甚結構成儀相成い間、有來之分ハ各別、向後輕可仕事。

一、之、弓菖蒲甲束帶の并雜ノ二字脱敷。籬の道具結構に仕間敷い。鼻紙袋ふくさ、香包、煙草入、其外をてあそひ物に金のか子物同箔、金粉之類をちゆ申間敷い夏。

一、女のさし櫛かうぐひに金銀のかかをの無用い。尤蒔繪類も結構ある仕形無用い事。右、御用之品ハ各別、其外ハ堅おしらへ申間敷い。但定の外結構又あつらへい方有之いハ、町奉行所ハ相伺可受指圖い。於相背者可爲曲事い。以上。

申二月

百姓町人ニ頒ツ禁令ハ、寺社奉行町奉行勘定奉行に附ス。

覺

一、百姓町人之衣服、絹、紬、木綿、麻布を可着用い。屋作之儀も隨分輕可仕夏。

一、百姓町人婚禮之刻、萬端かろくいゝし、脇指、杯祝儀ニ遣い儀無用たるへし。且又法事等も輕く可仕夏。

一、生類あそれ之志彌存入、そまつある儀無之様之可仕い。尤捨子、捨牛、馬、捨犬かさく仕間敷い。養育難成者其支配へ可申出事。右、前々より相觸い通、彌以堅相守い様に



急度可被申付い。以上。

中二月

十三日○寶永元年  
○中略

一、御書付左之通。

一、御書付左之通。

覺

祭禮法事かろく可仕い。惣ゝ寺社方山伏之法衣裝束等、結構仕間敷い。供廻も人少りい。さし、乗物堅笠等に至まで、美々敷體之無之、法事かろく仕い様之常之可被申付い。以上。

一、御書付左之通。

一、御書付左之通。

一、御書付左之通。

覺

一、百姓町人之衣服、絹袖木綿麻布を可着用い。屋作之儀も随分輕可仕事。  
一、百姓町人婚禮之刻、萬端輕い。脇差及と祝儀、遣い儀無用をへし。且又法事等も輕可仕事。  
一、生類のこれとの志彌存入、そまつ成儀無之様、可仕い。尤捨子捨牛馬捨犬堅仕間

敷養育難成者ハ其支配々々可申出事。

右前々々相觸い通、彌以堅相守い様、急度可申付い。以上。○撰要永久録同。  
二月十八日彌。

中二月

大目付へ

覺

一、公儀大さちい儀、又ハ在所到着之御禮并急度い。さし御禮事之ハ、使者可被差越い。其外大概之儀、之向後可爲飛札い事。  
一、參勤窺之儀、侍從以上拾萬石以上之衆ハ、以使者可被相伺い。其外ハ可爲飛札い事。  
一、火之番御門番之衆中より御役勤い義ニ付、其向の御役人ハ音物之付届無用い事。  
一、公家門跡方御馳走被仰付い從衆中、御用勤い儀ニ付、其むきの御役人ハ音物之付届可爲無用い。御馳走所ハ見廻之衆中へも、料理等被出い儀無用い事。  
一、御普請御手傳被仰付い衆中も、音物之付届且又小屋場之衆之馳走、右同前之事。  
一、所々御門番所にて、御成之節并常々も料理ハ勿論、馳走ろましき儀可爲無用い事。  
一、物頭衆御成先勤番い節、又ハ常々御番所ニあも、右同前之事。  
一、御成之節御道筋御見通し之外ハ、挑燈出しい儀無用い事。  
一、自分の取らハし、蕨樽、さら卷樽可爲無用い。柳樽其外輕き樽を可被用事。



一、遠國御役人并在番歸之衆、參府之節土産物一通り被相贈いハ、二重被差越儀無用事。

一、惣多結構成道具等取集儀無用、縦振廻又ハ茶湯杯仕共、諸事輕有合之品を可被用事。

一、料紙結構成ハ無用、小身之面々ハ小奉書紙之類、其外かろき紙を可被用、遠國御役人并御使御目付杯被相越衆注進之書狀等も、此趣可被相心得事。

一、諸家中之足輕并まゝ若黨之衣類、輕品着可申、尤前々より申渡通、彌急度相守い様、可被申付事。

右之趣可被相達い以上。

申二月

町奉行へ

覺

- 一、献上物せりといふ共、結構成菓子入、盆之臺糸花之類無用之事。
- 一、献上物も上箱小金銀のろか物無用之事。
- 一、新規珍敷仕出し菓子類、且又唯今迄拵來共、手間取り品向後無用之事。
- 一、火事羽織頭巾結構無之、火事場の備とひニ金銀之類用間敷事。
- 一、能之裝束甚結構成も相見間、有來分ハ各別、向後輕可任事。

兩國橋新大  
橋間新道  
兩國橋新大  
蹟間新道事

是頃、兩國橋新大橋間

〇市内日  
本橋區。ニ、新道ヲ開ク。〇國朝舊章錄。武江年表。御府内沿革圖書。

兩國橋新大橋間新道

〇前年ノ災ニ鑑ミテ此舉有リト云フ。

一、同年〇寶永元年。兩國橋新大橋の間に道を付らる。去年の大火に兩國橋了て人多く死

一、是頃弓菖蒲甲束帶のひか并むかの道具結構仕間敷、鼻紙袋ぬくさ香包、たここ入、其外をちほそひ物、金銀入のろか物、同箔金紛之類用間敷事。

要永久鑑但、むかひひの道具之儀當年ハ最早拵可申候間、是ハ來四年カ書面之通可相守事。ト有リ、下文覺書無シ。

一、女のさし櫛かうぐい、金銀のろかをの無用、尤蒔繪類も結構成仕形無用之事。右御用之品の各別、其外ハ堅拵申間敷、但定之外結構よほつらへい方有之いハ、町奉行所へ相伺不受差圖、於相背ハ可爲曲事、以上。〇要永久録同。二月十八日觸。

申二月

町奉行へ

覺

ひな并むか此道具之儀當年もそや拵可申間、是ハ來四年より書付之通相守い様、可被申渡い以上。

右書付豊後守渡之、但稻葉丹後守御用懸り之付、奉行中申談之。

柳營日記



る故也。

寶永元年三月改元。

○二月兩國橋と新大橋の間、道を付らる。去年の大火事は兩國橋へなり。

武江年表

濱町入堀北側之内略。

一、元祿十六末年右牧野八太夫井上伊織屋敷内大川端道之側御用地被召上、同所道内之成右代地南之方屋敷續廣道内之多、元坪通被下之。且同所北續前書土屋相模守酒井時被召上、大川端通新道出來、相模守中之同屋敷南之方道内之多代地被下、隼人正備後守中之、外場所之多代地被下之。

通鹽町、淺草橋、御門内迄大通南側略。

同元十六末年之頃、前書大川端元御材木藏跡稻垣安藝守屋敷者、米倉丹後守屋敷之成居、南續元松平備前守屋敷者、牧野備後守屋敷之圍込之成居、同年十二月右兩人屋敷内東之方御用地被召上、大川端通新道出來、但此新道出來之頃迄、兩國橋迄、大川端通往還之成。

御府内往還沿革圖書

屋鋪授受

三月二日辛丑元祿十七年(紀元二三三)屋鋪領受者有リ。外ニ是月(元祿十七年)屋鋪ノ授受若干也。屋鋪領受者有リ。外ニ是月元祿十七年(紀元二三三)屋鋪領受者有リ。外ニ是月(元祿十七年)屋鋪ノ授受若干也。

屋鋪授受事蹟

元祿十七年三月左ノ屋鋪授受有リ。

天野政永

圖略

柳原元誓願寺前 天野彦三郎政永屋鋪 坪數四百六十八坪。

東、道。南、大澤織部。西、松。下與兵衛。北、道。

東、十四間五尺。南、十四間九寸。西、十七間壹尺八分。北、十八間壹尺五分。

天野彦三郎柳原元屋鋪御用地之被召上、爲代地、元誓願寺前大澤織部殿上ケ地之多、元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

天野彦三郎内池田平右衛門印

元祿十七甲申年三月二日

竹村嘉武

圖略

三番町通 竹村權左衛門武屋鋪 坪數五百坪。

東、久松太左衛門。西、道。西南、角。權左衛門預リ地。北、東曆。南、道。東、十壹間三尺九寸。西、十壹間三寸。北、十八間五尺六寸餘。

三番町通割殘地之内五百坪、竹村權左衛門拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

竹村權左衛門内丸山彌市右衛門印

元祿十七甲申年三月四日

毛利正貞

殷昌期

濱町 毛利備前守正屋鋪 坪數千五百坪。

國朝舊章錄



東、道(大川)。西、井關正雄。  
 南、三十九間。北、加藤遠江守。  
 東、三十九間。西、三十間。  
 南、四十三間。北、四十間。四尺壹寸。  
 濱町酒井雅樂頭殿上ケ地之内ニ多、毛利備前守今度御屋敷拜領仕、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。  
 元祿十七甲申年三月九日  
 毛利備前守内  
 小幡儀 太夫印

加藤泰恒

濱町

加藤遠江守恒。屋鋪 坪數貳千五百坪。  
 東、道(入堀)。西、道。  
 南、井關正伯。毛利備前守。北、道(入堀)。

東、三十四間。西、四十三間。  
 南、六十五間。北、六十六間。壹尺。  
 加藤遠江守淺草新川端ニ多、差上ハ爲代地、濱町酒井雅樂頭殿上ケ地之内ニ多御渡シ被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。  
 元祿十七甲申年三月九日  
 加藤遠江守内  
 加藤新五左衛門印

濱町

井關祐甫

井關正伯

井關正伯祐甫。屋鋪 坪數六百貳拾坪。  
 東、毛利備前守。西、道。  
 南、道(大川)。北、加藤遠江守。

東、三十間。西、十五間。三尺。  
 南、三十間。四尺五寸。北、貳十貳間。壹尺九寸。  
 井關正伯元誓願寺前屋敷差上ケハ爲代地、濱町酒井雅樂頭殿上ケ地之内ニ多御渡シ

被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。  
 元祿十七甲申年三月九日  
 井關正伯内  
 石川 仁兵衛印

大澤基隆

柳原土手

大澤右衛門督基隆。屋鋪 坪數四百六拾八坪。  
 東、道。西、大澤右衛門督。  
 南、道。北、道。

東、三十貳間。四尺。西、貳十八間。  
 南、十壹間。五尺。北、十六間。五寸。  
 天野彦三郎殿御上ケ地、大澤右衛門督拜領仕、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。  
 元祿十七甲申年三月十六日  
 大澤右衛門督内  
 山崎權太夫印

駒込

大岡忠久

大岡治右衛門忠久。組與力四人分屋鋪 坪數千貳百坪。  
 東、道。西、割殘リ。  
 南、道。北、割殘リ。

東、五十四間。西、五十五間。四尺。  
 南、貳十貳間。北、貳十壹間。四寸。  
 駒込土井甲斐守殿上ケ地之内ニ多、大岡治右衛門組與力四人分御屋鋪拜領仕、大繩ニ多御渡被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ハ。此方ニ多小割仕ハ。爲後日仍如件。  
 元祿十七甲申年三月十七日  
 大岡治右衛門組與力  
 月番 河崎 半藏印

殷昌期



朝比奈又七郎印

圖略○

龍慶橋近所 水野齋宮上ヶ屋鋪 坪數五百六拾七坪。内建家百四拾貳坪。

東、本多主殿。西、道。南、大屋半四郎。北、三井主稅。

東、十七間五尺。西、十七間四尺。南、三十壹間四尺。北、三十間三尺。

水野齋宮殿上ヶ屋敷久永丹波守勝内藤伊織忠兩人御預ヶ被成、四方間數坪數、

右御繪圖之面并建家立具疊長屋土藏植木等迄、御目錄を以相改、相違無御座御預リ申

久永丹波守内 大塚 冲右衛門 印

内藤伊織内 柳澤 彦兵衛 印

元祿十七甲申年三月十九日

水野齋宮上ヶ屋鋪立具疊樹木目錄

一、門扉 但、と、り戸共錠鍵有。 三枚

一、戸 但、半戸共。 八拾貳本

一、障子 但、半障子共。 貳拾四本

一、襖 但、小ふすま共。 三拾三本

一、疊 但、半疊共。 百四十六疊

一、梯子 壹挺

一、樹木 大小。

四十本

以上。

申三月十九日

圖略○

本郷御弓町 黒田玄蕃常直屋鋪 坪數千貳百三拾壹坪。

東、道。西、割残り。南、道。北、道。

東、四十五間三尺。西、四十五間四尺壹寸餘。南、貳十七間。北、貳十七間。

下谷黒田玄蕃屋敷御用之付被召上爲代地本郷御弓町之元坪之通御渡被成、四方間

數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月十九日

黒田玄蕃内 中島 門 八印

圖略○

本郷御弓町 中山下野守好直屋敷 坪數千坪。

東、明地。西、道。南、明地。北、道。

東、西、三十壹間。北、壹尺五寸餘。

下谷中山下野守屋鋪御用之付被召上爲代地本郷御弓町之元坪之通御渡被成、四方

間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月十九日

中山下野守内 伊藤 甚右衛門 印

殷 昌 期

黒田直常

中山直好

久永勝晴  
内藤忠知



寛正章

圖略

小川町

寛傳五郎正屋鋪 坪數四百九十七坪九合。建家有。  
東、道。南、鈴木甚之助。西、山田三太夫。舟橋宗助。  
南、三十六間四尺。北、三十六間壹尺。

奥山立菴老上ヶ屋敷、寛傳五郎拜領任、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具疊長屋、植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申爲後日仍如件。  
元祿十七甲申年三月廿一日  
寛傳五郎内 原 佐 市 郎 印

圖略

深川

水野隼人正忠代地 坪數千三百五拾三坪。  
東、松平兵衛頭抱屋鋪。西、水野監物抱屋鋪。  
南、土手なだれ。北、道。

同

水野隼人正代地 坪數七百七坪餘。  
東、水野隼人正抱屋鋪。西、水野監物抱屋鋪。  
南、水野隼人正抱屋鋪。北、土手なだれ。  
東、西、五十六間三寸。北、貳拾間四尺七寸。

水野隼人正柳原屋敷御用地之被召上爲代地、深川小名木川端抱屋敷之内、兩所之元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月廿五日

水野隼人正内 入 江 武 助 印  
松原與左衛門印

伊奈半左衛門支配所之内、拜領地之御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座爲後日仍如件。  
申三月廿五日  
伊奈半左衛門手代 石 母 與 五 郎 印

圖略

中川勘三郎

中川勘三郎忠組與力六人分屋敷 坪數千八百坪。但、壹人ニ付三百坪宛。  
東、道。南、道。西、道。北、明地。

中川勘三郎

中川勘三郎組同心拾人分屋敷 坪數千四百拾坪。但、壹人ニ付百坪宛。  
内、但、百四十坪。矢場。  
東、道。南、道。西、道。北、道。

中川勘三郎

中川勘三郎組同心拾人分屋敷 坪數千坪。但、壹人ニ付右同斷。  
東、道。南、道。西、道。北、立花飛彈守古木置場。  
東、西、十五間三寸。北、西、十四間。南、北、六十五間三寸七寸餘。

股 昌 期

中川忠雄  
組同心

中川忠雄  
組同心

中川忠雄  
組與力



繩之系被成御渡、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十七甲申年三月廿五日

中川勘三郎組  
與力宮地仁右衛門  
同 築田平七郎  
同心 中川勘三郎組  
同心 小島喜太夫  
同心 田口岡右衛門

右者伊奈半左衛門支配所之内、今度組屋鋪被成御渡、四方間數坪數相違無御座、以上。

伊奈半左衛門内  
石母與五郎

圖略○

駒込末西ヶ原中里村 酒井雅樂頭○忠屋鋪 坪數七千坪。

東、上野御神領。西、畑道。畑。  
南、道。畑。北、山川左京知行所。

酒井雅樂頭濱町屋鋪之内、多五千四百拾八坪九合指上ヶ、爲代地、西ヶ原宮外戸之内、多七千坪拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申候、爲後日仍如件。

酒井雅樂頭内  
貴志十兵衛印

元祿十七甲申年三月廿六日

右御繪圖之面今井九右衛門御代官所之内、井山川左兵衛知行所之内、深川雲光院領之

内、平塚明神社領之内、右之通相渡、所間數坪數相違無御座、爲後日仍如件。  
申三月廿六日  
今井九右衛門手代  
杉江十藏印  
高田笹右衛門印

圖略○

青山藤藏○幸屋鋪 坪數四百六坪。

東、道。西、堀田兵部。  
南、道。北、明地。

右之於北本所三四之橋間通青山藤藏谷中屋敷御用地上り、爲替、今度就拜領仕、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。  
元祿十七甲申年三月廿八日  
青山藤藏内  
大井善太夫印

坪内覺左衛門、朽木内記。  
右兩人立合、相渡之。

右之伊奈半左衛門支配所之内、今度御屋敷被成御渡、四方間數坪數相違無御座候、以上。

圖略○

布施與兵衛○屋敷 坪數三百坪。

東、服部八右衛門。西、増島六右衛門。  
南、道。北、明地。

青山幸退

布施胤元

殷昌期







但、濱町屋敷之内御用地之被召上ハ爲代地被下。

三月廿八日渡。伊奈半左衛門支配所之内

一、同所本所。三四ノ橋間通四百六坪

役名不知  
青山藤藏  
同 布施與兵衛

一、同所二三ノ橋間通三百坪

——屋敷書拔

直常丑之助。玄蕃。源右衛門。  
寶永元年中三月十九日本郷御弓町之貳百卅一坪被下、旅籠町屋鋪差上ハ。

——寛政呈譜

直常丑之助。玄蕃。源右衛門。

寶永元申年三月十九日本郷御弓町之貳百卅一坪被下、旅籠町屋鋪差上ハ。寶永二  
四年閏四月五日目白臺抱屋敷門番所ハ出火住居向燒失。略。中享保六丑年七月十一日  
奉願本郷御弓町屋敷差上、目白臺抱屋敷之内千貳百卅一坪拜領仕ハ。

——寶政呈譜

附記  
屋鋪給賜

〔附記〕屋鋪給賜

左ノ各屋鋪給賜ハ元祿中ニ係ルト云フ。年次ヲ詳ニセズ。姑ク此ニ収録ス。

伊丹康

康之理右衛門。

元祿年中奉願、牛込津久戸明神近所ハ屋敷替仕ハ由申傳ハ。

大類久

久寛大類次郎兵衛、幼名次太夫。隱居浩入。

富澤利

元祿年中不知日本所三四之橋間通吉田町横町之貳、坪數貳百貳拾坪屋敷給。  
利與幾次郎。  
元祿年中右拜領屋敷明町下柳原同。御用地之付、濱町元矢之倉之貳拜領仕。年號月日不  
知。——寛政呈譜

驛路禁令

寶永元年甲申元祿十七年(紀元二三〇四年)三月十三日改元。三月廿三日壬戌壬戌、三驛路ノ禁

令ヲ頒ツ。柳營日記。憲廟實

驛路禁令 左ノ如シ。

廿三日寶永元年

本多伯耆守正被相渡ハ御書付之寫

覺

一、諸大名參勤御暇之節、道中込合不申ハ様之被任、被連ハ人數も彌繁多ハ無之、一宿  
之差つとひ不申ハ様被相心得、人數跡先罷通ハ様可被仕ハ。若差つとひ節之相對  
之、雇馬致可被通ハ。人馬御定之外、添人足添馬爲出被申間敷ハ。惣、道中被相通ハ  
衆、右之通可被相心得ハ事。  
一、御朱印之、道中被罷通ハ衆之、も、猥之餘慶之人馬出させ被申間敷ハ事。  
一、道中荷物貫目彌可爲御定之通、縦御用ハて被罷通ハ衆ハても、荷物御定之貫目ハ  
重く無之様之可被心得ハ事。已上。

般 昌 期

六二三

驛路禁令事



三月

廿二日 三月○寶永元年

驛道の禁令を頒つ。○令、柳營日記ニ

○令略。

右之通被仰出ひ間、相心得、荷物貫目之儀、御定之通彌相守可申者也。

申○寶永三年

右之通、町々不殘相觸、來ル廿八日ニ、名主月行、夏印判を持、奈良屋所々可被參ひ。以上。

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

三月廿四日 元○寶永

柳營日記

憲廟實錄

町年寄

撰要永久錄○正寶

外ニ是月○寶永元年(紀

屋鋪授受有リ。外ニ是月○寶永元年(紀

屋鋪ノ授受ヲ見タル者若干。○柳營日記。屋鋪渡

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

四月四日 癸酉 四年○寶永元年(紀元二三六

屋鋪授受事

松平近憲  
堀田正高  
森長直  
大澤基躬

三宅康徳  
内藤正興  
酒井忠胤  
近藤用章  
阿部正明  
稻葉正倚  
戸田忠章  
松前嘉廣  
丹羽長守  
稻葉正直  
本多政法  
久永信豊  
大岡清相  
三枝守繁  
永井民部  
逸見義寛  
河野貞通

小石川下屋敷之内差上、下谷ニ而被下。  
敷前差上候屋敷替地被下。  
内藤式部上ケ屋敷被下之。  
下屋敷替被下之。  
深川下屋敷替被下之。  
右同斷。  
願之通戸田能登守と引替被下之。  
逸見八左衛門番丁之屋敷と濱丁之屋敷引替。  
小川町と木挽丁築地屋敷と引替被下之。  
願之通六番丁屋敷ト永田町長谷川刑部と屋敷引替被下之。  
願之通屋敷被下之。所々追而可被仰付候。  
右同斷。  
右同斷。  
高木左内と屋敷替。  
松前伊豆守と屋敷替。  
番町永田主膳と屋敷替。

殷昌期

三宅能登守○徳康  
内藤越前守○興正  
酒井隼人○胤忠  
近藤備中守○用章  
阿部志摩守○正明  
稻葉駿河守○倚正  
戸田土佐守○忠章  
松前伊豆守○嘉廣  
丹羽遠江守○長守  
稻葉河内守○正直  
名代 稻葉左衛門○政  
本多彌兵衛○政法  
久永内記○信豊  
大岡五郎右衛門○清相  
三枝左兵衛○繁守  
永井民部○部  
逸見八左衛門○義寛  
河野善左衛門○貞通



右屋敷被下之旨、老中申渡之。

——柳營日次記元寶永錄同。

一、同日寶永四年四月。屋敷拜領屋敷替被仰付。

一、同寶永四年四月。十五日、御弓町之罷在御先手組六組、與力同心屋敷、御用地ニ今度被召上、代地關口駒込本所三ヶ所ニテ被下之。爲引料、與力一人、銀廿枚宛、同心一人、金五兩宛、被下之。但、小屋掛不付トテモ、家切組致置分ハ、引料被下、小屋掛モ不仕、家切組モ無之者、凡ハ不被下。四月十五日寶永四年。稻垣對馬守殿被仰渡之。舊冬霜月廿九日、類火ノ所ナリ。

——天享吾妻鑑

一、同寶永四年四月。四日、屋敷替并屋敷拜領有之。

一、同寶永四年四月。十五日、御弓町ニ有之御先手組與力同心四組、舊冬霜月廿九日、類焼ニ付、屋敷御用地ニ被召上、關口四谷本庄ニテ代地被下、爲引料、與力ハ銀廿枚ツ、同心一人ニ金五兩ツ、被下。但、小屋掛不仕候トテモ、家切組致置候分ハ、引料被下、小屋掛モ不仕、家切組モ無之者、共ハ不被下之由、稻垣對馬守被申渡。

——甘露叢

正直從五位下。野守。初河内守。改名大學。

一、寶永元年甲申年四月四日、内々奉願ハ通番町御堀端屋敷ト永田町ニ多屋敷相對替被仰付。

但、右屋敷誰ト相對替仕ハ哉、相知不申。

吉透從四位下。侍從。出羽守。初實名近藤。

寶永元年二月廿二日、依願兄綱近爲養子、同三月四日、分知新田壹萬石、父綱近ハ返賜之。同四月四日、青山之屋敷、父綱近ハ賜之。

正倚初正倚。從五位下。駿河守。初出羽守。初名主稅介。

寶永元年甲申年四月四日、兼多奉願ハ通下屋敷被下置旨被仰付。場所之追多可被下置之旨被仰付。

一、同年寶永二年。七月日、不相知、兼多被仰出ハ通下屋敷本所二ツ目之多拜領仕。

義寬四郎左衛門。八左衛門。

寶永元年申年、拜領屋敷表二番町ニ住居仕ハ處、元矢ノ倉松前伊豆守屋敷ト相對替仕。

長亮從五位下。侍從。佐渡守。

寶永元年甲申年四月十一日、本郷御弓町中屋敷拜領仕。

——寛政呈譜

下谷 黑田玄蕃上ケ屋敷 坪數千貳百貳拾九坪。

東、大澤越中守。西、道。東、近藤備中守。北、松平駿河守上ケ地。

南、四十九間。壹尺。西、貳十五間。北、四十九間。

黑田玄蕃殿上ケ屋鋪、大關彈正恒御預ケ被成四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申ハ爲後日仍如件。

逸見五郎兵衛印

寶永元年甲申年四月四日

小笠原長重

大關增恒



松尾佐太夫清印

圖略○

下谷

酒井隼人屋鋪 坪數貳千三百四拾壹坪。  
東、道。西、增井市郎左衛門。建部内匠頭。  
南、道。北、戸田淡路守。

下谷内藤式部少輔殿上ヶ屋敷酒井隼人拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面并小屋掛立具右等迄、御目錄を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月九日

酒井隼人内  
鳥居七右衛門印

圖略○

雉子橋外

京間坪數貳千四百九拾五坪壹合餘。  
東、土手なだれ(御堀)。西、道。  
南、御藏。北、明地。

雉子橋外御藏明地之内、京間貳千四百九拾五坪壹合餘爲御用地御渡シ、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示枕之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月十六日

竹村權左衛門組  
櫻井四郎右衛門印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

平野善三郎。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門

小普請組

三宅康雄

圖略○

下谷

三宅備前守康雄屋鋪 坪數三千貳百六拾四坪。  
東、大澤越中守。高津七左衛門。横山七右衛門。河合彌兵衛。西、道。  
南、近藤備中守。北、岩城采女。  
東、六十九間。四尺二寸餘。西、六十六間。三尺貳寸餘。  
南、四十九間。四尺二寸餘。北、四十九間。三尺貳寸餘。

小石川三宅備前守屋敷差上ヶ屋敷爲代地、下谷松平駿河守殿黒田玄蕃殿兩上ヶ屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定枕之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月廿二日

三宅備前守内  
高見彌市右衛門印

圖略○

本郷御弓町

松平美濃守屋鋪 坪數五千八百坪。  
東、道。西、道。  
南、道。北、割。殘リ。

本郷御弓町明地之内、松平美濃守御屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年四月廿二日

松平美濃守内  
多田源五右衛門印  
升島四郎右衛門印  
桂田吉左衛門印

柳澤吉保

殷昌期



内藤正友

圖略○

神田明神下 内藤式部少輔友○正屋鋪 坪數貳千九拾五坪餘

東、道。南、道。同朋町屋。北、道。西、道。酒井新次郎。

東、五十七間三尺。南、三十六間貳尺五寸。西、四十三間三尺。北、三十七間。

神田明神下酒井準人殿上ヶ屋鋪式部少輔拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通并小屋掛立具疊右等迄、御目錄を以相改、相違無御座請取申。爲後日、仍如件。

寶永元甲申年四月廿三日

内藤式部少輔内 梶田六左衛門印

圖略○

巢鴨 寛傳五郎上ヶ屋鋪 坪數四百三坪。

東、今井九右衛門支配所。西、内藤喜六郎。北、加藤左太夫。小石川御殿同心。

南、道。東、貳十七間四尺五寸。西、貳十七間五尺五寸。北、十四間三尺。

巢鴨村寛傳五郎殿上ヶ屋鋪私に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申。爲後日、仍如件。

寶永元甲申年四月廿五日

小石川名主三左衛門跡目 六之丞 承印

圖略○

麻布六本木 阿部志摩守屋敷 坪數貳千百三拾九坪。

東、南、深廣寺。光專寺。正信寺。西北、割残り。東北、松平近江守組屋鋪。

六之丞

齋藤利紀

圖略○

澁谷 齋藤左源太○利屋鋪 坪數貳千七拾七坪。

東、山口修理。西、道。北、山口修理。道。山口修理。

南、割残り。北、七十三間。東、七十間三尺。南、貳十八間四尺。北、三十間貳尺。

齋藤左源太谷中三崎屋鋪御用地之被召上。爲代地、澁谷本多若狹守殿上ヶ地之内、之、元坪之通御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申。爲後日、仍如件。

寶永元甲申年四月廿五日

齋藤左源太内 仙波傳藏印

中田又六郎。

中村三左衛門。平野小兵衛。中村半治。

圖略○

柳原元誓願寺前 津田平左衛門上ヶ屋敷 坪數千五百九拾四坪。

殷 昌 期



那須資徳

東、三浦監物。那須與一。西、戸田大膳。春日左衛門。  
 南、道井關正伯。上ヶ屋敷。北、那須與一。加藤平内。  
 東、三十三間五尺。西、三十三間三尺。  
 南、四十九間五尺。北、四十六間三尺。  
 元誓願寺前津田平左衛門殿上ヶ屋敷那須與市○資の御預ヶ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面相違無御座御預申い爲、後日仍如件。

寶永元甲申年四月廿八日

那須與市内

永野彌右衛門印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

四月四日預。黒田玄蕃上ヶ地

大岡彈正預地

一、下谷千貳百貳拾九坪

酒井隼人

四月九日渡。内藤式部少輔上ヶ屋敷

櫻井四郎右衛門

一、下谷貳千三百四拾壹坪

四月十六日渡。御藏前地之内

三宅備前守

一、雉子橋外貳千四百九拾五坪壹合

但、爲御用地京間之勿渡ス。

四月廿二日渡。松平駿河守黒田玄蕃上ヶ地

松平美濃守

但、小石川屋敷差上い爲代地被下。

四月廿二日渡。明地之内

一、本郷御弓町五千八百坪

阿部志摩守

一、神田明神下貳千九拾五坪餘

内藤式部少輔

一、神田明神下貳千九拾五坪餘

阿部志摩守

一本、但、小屋掛立具置石共。

同日(○四月廿五日)渡。松平伊豆守上ヶ地之内

一、麻布六本木貳千百三拾九坪

但、深川屋敷差上い爲代地、元坪之通被下。

同日渡。本多若狭守上ヶ地之内

一、澁谷貳千七拾七坪

齋藤左源太

但、谷中三崎屋敷御用地ニ被召上い爲代地、元坪之通被下。

同日(○四月廿八日)預。津田平左衛門上ヶ地

一、元誓願寺前千五百九拾四坪

那須與市預地屋敷書拔

一本、抹消。

社寺再營料  
給與

社寺再營料  
給與事蹟

十一日庚辰○寶永元年(紀元二二六四年)元祿十六年(紀元一七〇三年)燒失スル所ノ社寺、  
 西久保八幡社○市内芝區、神田明神社○市内神田區、湯島天神社○市内本郷區、淺草十王堂○市内淺草區ニ再營料ヲ給ス。○天享吾妻鑑。常憲院殿御實紀。

社寺再營料給與 左ノ如ク傳フ。

一、十一日○寶永元年(略)四月(略)

一、炎上ノ神社佛閣建立料被下之。如左、

金千兩 西久保八幡  
 同千兩 神田明神  
 同五百兩 湯島天神  
 銀三百枚 淺草十王堂

別當 普門院  
 神主 芝崎宮内  
 別當 住心院  
 上野當 大圓寺  
 別當 大圓寺

天享吾妻鑑○文露叢同

十一日○寶永元年(略)四月(略)去年類焼の寺社に再造の費用をたまふ。西久保八幡宮神田明神は金千兩づゝ、湯島天神に五百兩、淺草十王堂に銀三百枚なり。——常憲院殿御實紀

般昌期



湯島天満宮

別當北野小梅園寺喜見院天台宗東叡山末

境内八百五十坪一合。東西三十七間三尺。南北二十三間五尺。

當院義之、元祿十六未年十一月廿九日本坊始境内無殘處類焼ニ付、寶永元年申年四月十日御寄進金五百兩頂戴。

五月二日庚子寶永元年紀元二二六屋鋪領受者有リ。外ニ是月紀元二二六

屋鋪授受事屋鋪授受 寶永元年五月、左ノ屋鋪授受サル。

屋鋪授受事

屋鋪授受

森長直

圖略

下澁谷堀留 森和泉守長屋敷 坪數貳千七百坪。

東、畑。西、畑。南、畑。北、道。

東、四十八間。西、四十八間。北、五十六間。南、五十六間。壹尺。北、五十六間。貳尺五寸餘。

森和泉守本所之屋敷差上為代地、下澁谷村堀留ニ多元坪之通御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元年申年五月二日

澤小市郎。安達半助。

平野善三郎。中村三左衛門。宇野小右衛門。

島不明小島 ○中略。

湯

續府内備考

山下 勘兵衛印

伊奈半左衛門支配所之内拜領地ニ御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元年申年五月二日

伊奈半左衛門手代 加藤武治右衛門印

圖略

澁谷 堀田伊豆守上ケ屋鋪 坪數五百六拾五坪。

東、堀田伊豆守。西、牧野伊豫守。南、道。なだれ。北、山口修理。

東、三十六間。西、三十九間。南、三十三間。北、三十七間。四尺二寸。

澁谷堀田伊豆守上ケ屋鋪堀田兵部正御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預リ申為後日仍如件。

寶永元年申年五月二日

堀田兵部内 藤田 圖書印

澤小市郎。足立半助。市川三十郎。

此繪圖證文實測坪數。別紙ニテ、六百三拾坪數。九合。下アリ。

圖略

本所 堀田伊豆守正屋敷 坪數五百五拾五坪五合。

東、堀田伊豆守。西、道。大川々岸。南、堀田伊豆守。北、道。

東、三十間。西、十七間。南、三十間。北、十八間。貳尺四寸餘。

右者南本所新大橋際堀田伊豆守屋鋪北隣只今迄之御預地、今度就伊豆守拜領仕為、四

般昌期

堀田正高

堀田正虎



方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月二日

堀田伊豆守内新達市之丞印

奥田八郎右衛門。坪内覺左衛門。朽木内記。  
右三人立合、相渡之。

松平定陳

圖略○

本郷御弓町 松平駿河守定陳屋鋪 坪數貳千三拾五坪。

東、道。割殘。北、道。中山下野守。

東、三十間貳尺五寸。西、五十三間貳尺五寸。  
南、四十三間三寸。北、三十壹間。十二間三寸。

松平駿河守下谷屋敷差上為代地、本郷御弓町之内之元坪之通御渡被成、四方間數右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月四日

松平駿河守内渡部久米右衛門印

圖略○

本郷御弓町 甲斐庄喜右衛門正屋鋪 坪數貳千百坪餘。内、貳百坪增。

東、道。西、道。北、保田越前守。

東、四十九間。西、四十九間四尺八寸。  
南、四十三間。北、四十一間三寸。

甲斐庄喜右衛門柳原屋鋪御用地之被召上為代地、本郷御弓町之元增坪共御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

永甲斐庄正

寶永元甲申年五月六日

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門印

圖略○

本郷元町三念寺代地 坪數三拾八坪。

東、三角地角。西、道。北、本郷元町御中間。

東、四十二間。西、一四四間八寸六分。  
南、四十二間。北、四十二間。

拙僧境内南之方新道御用之被召上為代地、北之方地續之元坪之通御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月六日

本所彌勒寺末三念寺印

圖略○

本郷御弓町 伊勢平八郎貞屋鋪 坪數八百坪。内、增貳百坪。

東、道。西、道。北、道。南、割殘。

東、十八間三寸。西、十八間三寸四寸。  
南、四十三間壹尺六寸。北、四十三間。

伊勢平八郎磐井町屋敷御用地之被召上為代地、本郷御弓町之元增坪共御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月六日

伊勢平八郎内橋本惣太夫印

伊勢貞救

三念寺



永井直允

圖略○

本郷御弓町 永井讚岐守<sup>○</sup>屋敷 坪數貳千三百七拾五坪。内、增貳百坪。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

永井讚岐守柳原屋敷御用地之被召上<sup>レ</sup>爲代地、本郷御弓町之<sup>レ</sup>増坪共御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申<sup>レ</sup>爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月六日

永井讚岐守内 吉田新五兵衛印

圖略○

本郷御弓町 彦坂九兵衛屋鋪 坪數貳千貳百三坪餘。内、增坪貳百坪。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

彦坂九兵衛柳原屋敷御用地之被召上<sup>レ</sup>爲代地、本郷御弓町之<sup>レ</sup>増坪共之御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申<sup>レ</sup>爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月六日

彦坂九兵衛内 牛窪清右衛門印

圖略○

本郷御弓町 御小人拾三人分屋鋪 坪數九百拾坪。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

御小人拾三人

水野忠恒

圖略○

本郷御弓町 水野式部<sup>○</sup>屋鋪 坪數貳千坪。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

水野式部谷之藏跡屋敷御用地之被召上<sup>レ</sup>爲代地、本郷御弓町之<sup>レ</sup>元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申<sup>レ</sup>爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月六日

水野式部内 松崎又左衛門印

圖略○

本郷御弓町 脇坂甚兵衛<sup>○</sup>屋鋪 坪數千三百坪。内、三百坪増。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

東、道。南、道。西、道。北、道。割、殘り。

脇坂甚兵衛番町屋敷差上<sup>レ</sup>爲代地願之通本郷御弓町之<sup>レ</sup>御渡シ被成、四方間數坪數、

股 昌 期



右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。  
寶永元甲申年五月七日

脇坂甚兵衛内  
杉本加助印

内藤景廣

本郷御弓町 内藤十左衛門景屋敷 坪數六百貳拾四坪七合。

東、高木十郎左衛門。  
南、松平美濃守。  
西、割殘り。  
北、道。

東、貳十六間。  
南、貳十壹間四尺三寸餘。  
西、三十壹間三尺。

内藤十左衛門柳原屋敷御用地之被召上為代地、本郷御弓町之元坪之通御渡シ、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

御小性組秋田淡路守組内藤十左衛門内  
松田彌五左衛門印

寶永元甲申年五月七日

圖略。

山田五郎

本郷御弓町 山田五郎右衛門屋敷 坪數貳百五拾坪。

東、道。  
南、瀬戸庄左衛門。  
西、中山下野守。  
北、割殘り。

東、西、貳十間。  
南、北、貳十間三尺。

兩國橋際元屋敷御用地之被召上、為代地本郷御弓町之元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數共、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月七日

圖略。

御徒押  
山田五郎右衛門印

都筑正親

本郷御弓町 都筑安右衛門親屋鋪 坪數三百坪。内、七拾三坪増。

東、道。  
南、松平美濃守。  
西、高木十郎左衛門。  
北、道。

東、十八間貳尺。  
南、十三間餘。  
西、貳十貳間。  
北、十七間。

柳原元屋鋪御用地之被召上為代地、本郷御弓町之元坪共御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月七日

圖略。

御徒目付組頭  
都筑安右衛門印

瀬戸行正

本郷御弓町 瀬戸庄左衛門正屋敷 坪數三百拾三坪七合。

東、道。  
南、割殘り。  
西、中山下野守。  
北、山田五郎右衛門。  
平駿河守。

東、西、貳十五間。  
南、北、貳十五間三尺餘。

兩國橋際元屋鋪御用地之被召上為代地、本郷御弓町之元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元甲申年五月七日

圖略。

小從人平國右衛門組  
瀬戸庄左衛門印

高木元明

本郷御弓町 高木十郎左衛門明屋鋪 坪數四百坪。内、增百坪。

東、都築安右衛門。  
南、松平美濃守。  
西、内藤十左衛門。  
北、道。

東、西、十六間。  
南、十六間四尺。  
西、十六間。  
北、十六間貳尺。

殷昌期



高木十郎左衛門柳原屋敷御用地之被召上爲代地本郷御弓町ニ多増坪共御渡シ被成、四方間數坪敷、右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月七日

御疊奉行高木十郎左衛門内

平井常右衛門印

圖略○

湯島 坪敷三拾六坪餘。

東、道。南、道。廣小路。北、島田丹波守。

東、一間三尺七寸餘。西、二間一尺七寸餘。

南、十八間貳尺五寸。北、十八間貳尺五寸。

島田丹波守屋敷南之方門前自分道、今度廣小路罷成爲之付、同所屋敷續願之場所ニ多、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪敷、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申爲。後日仍如件。

寶永元甲申年五月十日

島田丹波守内

吉田郷右衛門印

岩楯三六印

圖略○

裏内藤宿 相田十太夫屋敷 坪敷千三拾四坪三合。

東、横田甚右衛門組楠彌太夫。西、近藤備中守組文島平兵衛。

南、道。東、八十三間三尺。西、八十貳間。

南、十貳間。北、十三間。

金子平内上ヶ地、願之通今度拜領仕爲。四方間數坪敷、右御繪圖之面御定杭之通、相違無

島田利由

小普請組

御座請取申爲。後日仍如件。  
寶永元甲申年五月十三日

近藤備中守組

相田十太夫印

今井九右衛門支配所之内、拜領之方爲御渡被成、四方間數坪敷、右御繪圖之面相違無御座爲。後日仍如件。

今井九右衛門手代

杉江十藏印

高田笹右衛門印

圖略○

本郷御弓町 吉野永傳代地 坪敷百七坪。

東、眞光寺門前町屋。西、古田兵九郎。

南、道。東、北、二間五尺。

本郷貳町目拙者元屋敷新道御用之付被召上爲代地、同所御弓町之内町屋續、願之場所ニ多、元坪之通御渡シ被成、四方間數坪敷、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申爲。後日仍如件。

西之御九御留守居支配

吉野永傳印

圖略○

小石川 大澤越中守基屋敷 坪敷千三百坪。

東、三宅備前守上ヶ地。西、道。

南、道。

大澤基躬

吉野永傳

殷昌期

六四三



東、四十三間、西、四十四間、南、三十間、北、三十間、大澤越中守下谷屋鋪差上為代地、小石川三宅備前守殿上為代地、之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定、杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。  
寶永元年甲申年五月十五日  
大澤越中守内 長澤安兵衛印

圖略

本郷御弓町 割残り 坪數貳千九百五十八坪。被下成。

東、道、西、大澤越中守、南、道、北、道。

東、五十七間、西、四十三間、南、六十四間、北、五十七間。

三宅備前守殿上為代地、牧野周防守為代地、御預為代地、被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申為後日仍如件。

寶永元年甲申年五月十九日

圖略

牧野周防守内 山中忠右衛門印

牧野康重

濱町 坪數百四拾四坪八合五勺。

東、入堀、西、土井式部少輔、南、土井甲斐守代地、北、下シ込ニテ不明。

東、四十五間、西、三十三間、南、三十三間、北、三十三間。

同 坪數百三拾九坪五合八勺。

東、入堀、西、土井甲斐守、南、土井周防守代地、北、土井式部少輔代地。

同

坪數貳百貳拾坪八合。

東、入堀、西、土井周防守、南、土井甲斐守代地、北、土井周防守代地。

東、五十一間、西、五十一間、南、四十四間、北、四十四間。

濱町土井周防守為代地、土井甲斐守為代地、土井式部少輔為代地、右三人屋敷内新道御用之被、召上為代地、屋敷裏入堀之元坪之通御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定、杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

寶永元年甲申年五月廿一日

土井周防守内 各務江右衛門印

土井甲斐守内 大生仁右衛門印

土井式部少輔内 小出利兵衛印

圖略

駒込 土井式部少輔新道代地 坪數五拾三坪五合。

東、土井主水、西、土井式部少輔、南、道、北、道。

東、四十一間、西、三十三間、南、一十一間、北、一十一間。

土井式部少輔駒込屋鋪裏新道御用被召上為代地、土井主水屋敷内之糸繰替御渡被成、間數坪數、右御繪圖之面御定、杭之通、相違無御座請取申為後日仍如件。

殷昌期

土井利益  
土井利知  
土井利意

土井利意



寶永元甲申年五月廿二日

圖略○

四谷御門外 石野八兵衛組與力拾人分屋鋪 坪數三千坪。  
東、石原市左衛門組。西、御水屋鋪。北、松平出羽守。  
南、石原市左衛門組。道。北、松平出羽守。  
東、五十間壹尺五寸。西、四十九間四尺壹寸餘。  
南、六十間壹尺五寸。北、五十四間五尺五寸。  
 石野八兵衛組與力拾人關口村屋鋪差上代地、四谷松平出羽守殿上ヶ地三千坪大繩之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年五月廿二日  
石野八兵衛組與力  
月番 小野與右衛門印  
 同 吉村與一右衛門印

土井式部少輔内 神谷伊兵衛印 大森庄兵衛印

與力十人

土井利益

駒込土井甲斐守殿上ヶ地割残り土井周防守御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年五月廿二日  
土井周防守内  
 馬庭安左衛門印

圖略○

駒込 土井主水利新道代地 坪數四百拾坪。  
東、大岡治右衛門組。西、土井主水。  
南、道。北、割残り。  
東、四十八間四尺。西、四十九間三尺。  
南、九尺。北、十六間三尺。

土井主水駒込屋鋪裏切地百八拾貳坪貳合五勺并土井式部少輔新道代地繰替五拾三坪五合、濱町屋敷前切地百七拾四坪貳合五勺、合四百拾坪新道御用之被召上爲代地、駒込屋敷續之御渡被成、間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年五月廿二日

土井主水内 細野五右衛門印 松田十郎左衛門印

圖略○

本郷御弓町 堀田源右衛門通屋鋪 坪數七百坪。  
東、道。南、割餘。西、割餘。  
東、三拾壹間四寸。北、道。西、貳拾八間三尺。  
南、貳十三間三尺。北、貳十三間三尺。

土井利良

堀田通右



堀田源右衛門小川町屋敷指上ケル爲御代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申堀田源右衛門内爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月廿五日

大島又右衛門印

圖略○

本郷御弓町 日比野七郎右衛門次屋敷 坪數五百五拾坪。

東、黑田玄蕃。西、道。  
南、道。北、割、殘リ。

日比野七郎右衛門谷之藏跡屋敷指上ケル爲代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申日比野七郎右衛門内爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月廿五日

鈴木淺右衛門印

圖略○

本郷御弓町 安部式部信屋鋪 坪數八百坪。

東、割、殘リ。西、道。  
南、中山下野守。北、道。  
東、西、十六間五尺。  
南、北、十九間四尺九寸。

安部式部四ッ谷屋鋪指上ケル爲代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申安部式部内爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月廿五日

上原甚右衛門印

日比野忠

安部信旨

本多政法

三橋信光

久永信豐

圖略○

本郷御弓町 本多彌兵衛政屋鋪 坪數千八百坪。

東、割、餘。西、道。  
南、御小人。北、道。  
東、三、十四間六寸。西、三、十五間四尺。  
南、五、十五間壹尺。北、五、十五間四尺。

本多彌兵衛願之付、下谷屋敷指上ケル爲御代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申本多彌兵衛内爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月廿五日

金子藤右衛門印

圖略○

本郷御弓町 三橋平十郎光屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、久永内記。西、牧野周防守。  
南、牧野周防守。北、道。  
東、西、十、三間三尺。西、十、壹間三尺。  
南、十、三間三尺。北、十、壹間三尺。

三橋平十郎小日向築地屋敷指上ケル爲代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申三橋平十郎内爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月廿五日

奥野權七郎印

圖略○

本郷御弓町 久永内記信屋鋪 坪數貳千三百坪。

殷昌期



東、道。南、昌清寺。等正寺。西、牧野周防守。北、割殘り道。  
 東、五十間。南、十九間。三、尺。三、間。三、尺。西、六十三間。三、尺。四、寸。  
 久永内記柳原屋敷指上ハ爲御代地、本郷御弓町明地之内ニ多拜領任、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座、請取申ハ爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年五月廿五日  
久永内記内 白石 孫 助 印

圖略。

下谷

大澤越中守上ケ屋敷 坪數九百六坪。拜領二成。

東、道。西、三宅備後守。近藤備中守。南、道。北、御徒組屋鋪。

東、西、四十間。南、西、拾間。四、尺。北、二、拾、壹、間。四、尺。

下谷大澤越中守殿上ケ屋敷岩城采女降。御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、御預申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年五月三十日

岩城采女内 大瀬 政右衛門 印  
屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。  
 五月二日渡。一下澁谷村貳千七百坪

森 和 泉 守

但、本所屋敷差上ハ爲代地、元坪之通被下。  
 同日預。堀田伊豆守上ケ地。一、澁谷五百六拾五坪五合

堀 田 兵 部

五月二日渡。自分御預地。一、南本所新大橋際五百五拾五坪餘  
 五月四日渡。明地之内。一、本郷御弓町貳千三拾五坪

堀 田 伊 豆 守  
松 平 駿 河 守

但、下谷屋敷差上ハ爲代地、元坪之通被下。

五月六日渡。同斷。一、同所貳千百坪餘

甲 斐 庄 喜 右 衛 門

但、柳原屋敷御用地之被召上ハ爲代地、増坪之多被下。

同日渡。同斷。一、同所八百坪

伊 勢 平 八 郎

但、磔井町屋敷同斷。

同日渡。同斷。一、同所貳千三百七拾五坪

永 井 讚 岐 守

但、柳原屋敷右同斷。

五月六日渡。明地之内。一、本郷御弓町貳千貳百三坪餘

彦 坂 九 兵 衛

但、柳原屋敷御用地之被召上ハ爲代地、増坪之多被下。

同日渡。同斷。一、同所貳千坪

水 野 式 部

但、谷之藏跡屋敷、右同斷之付、元坪之通被下。

同日渡。同斷。一、同所九百拾坪

同 御與惣兵衛組 御小人拾三人分。一本、御與惣兵衛屋敷。

但、富坂屋敷右同斷之付、拾三人分大繩之多渡入。

五月七日渡。同所。明地之内。一、同所御弓町千三百坪

脇 坂 甚 兵 衛

但、番町屋敷差上ハ爲代地、増坪之多被下。



同日渡。同斷。  
一、同所六百貳拾四坪七合

御小性組秋田淡路守組  
内藤十左衛門

但、柳原屋敷御用地之被召上明地之内爲代地、増坪之被下。  
一、本郷御弓町貳百五拾坪

御徒押  
山田五郎右衛門

但、兩國橋際屋敷御用地之被召上明地之内爲代地、元坪之通被下。  
同日渡。同斷。  
一、同所三百拾三坪七合

小從人平岡市右衛門組  
瀬戸庄左衛門

但、右同斷  
同日渡。同斷。  
一、同所三百坪  
一本二、内七拾三坪増坪。

御徒目付組頭  
都筑安右衛門

但、柳原屋敷右同斷之付、増坪之被下。  
同日渡。同斷。  
一、同所四百坪  
一本三、内百坪増坪。

御疊奉行  
高木十郎左衛門

但、右同斷。  
五月十日渡。同斷。  
一、湯島馬場三拾六坪餘

役名不知  
島田丹波守

但、屋敷南之方廣小路御用之差上金子平内上方地爲代地、元坪之通被下。  
五月十三日渡。同斷。  
一、裏内藤宿千三拾四坪三合

同近藤備中守組  
相田十太夫

但、本郷御弓町百七坪  
五月十五日渡。明地之内  
一、本郷御弓町百七坪  
同日渡。三宅備前守上方地之内  
一、小石川千三百坪

西御九御留守居支配  
吉野永傳

但、下谷屋敷差上三宅備前守上方地之内爲代地、被下。

大澤越中守

五月十九日預。三宅備前守上方地割廢  
一、同所貳千九百五拾八坪

牧野周防守  
預地。

五月廿一日渡。  
一、濱町貳百貳拾坪八合

土井周防守

但、屋敷内新道御用之被召上一本抹消。爲代地、屋敷裏入堀之、元坪之通被下。  
同日渡。  
一、同所百三拾九坪五合八勺

土井甲斐守

但、右同斷。  
同日渡。  
一、同所百四拾四坪八合五勺

土井式部少輔

但、右同斷。  
五月廿二日渡。土井主水屋敷内  
一、駒込五拾三坪五合

土井式部少輔

但、屋敷裏新道御用之被召上土井主水屋敷内爲代地、繰替渡ス。  
同日渡。  
一、同所四百拾坪

土井主水

但、濱町屋敷内并當所屋敷内共切地合演込屋敷裏切地百八十二坪二合五勺并土井式部少輔新道代地繰替五十三坪五爲代地、渡ス。  
同日預。土井備前守上方地割廢  
一、同所千貳百三拾五坪

石野八兵衛組與力月番  
土井周防守  
預地。

但、與力拾人關口村屋敷差上一本抹消。爲代地、大繩之、渡ス。  
同日渡。松平由羽守上方地  
一、四谷御門外三千坪

役名不知  
吉村與一右衛門

但、小川町屋敷差上五月廿五日渡。明地之内爲代地、被下。  
同日渡。同斷。  
一、同所五百五拾坪

堀田源右衛門



但、谷之藏跡屋敷同斷。

一、本郷御弓町八百坪

但、四谷屋敷差上い爲代地被下。

一、同所千八百坪

但、下谷屋敷右同斷。

一、同所貳百貳拾坪

但、小日向築地屋敷右同斷。

一、同所貳千三百坪

但、柳原屋敷右同斷。

一、下谷九百六坪

役名不知  
安部式部

同  
本多彌兵衛

同  
三橋平十郎

同  
久永内記

岩城采女  
屋敷書拔

仙石政明

寶永元年五月十一日政明仙石西久保邸ノ西部南部氏ノ邸地ノ内貳百坪ト、我邸内二百坪ト相對替ヲ許容セラル。

利良始利親。左門。主水。豊前守。從五位下。

元祿十七甲申年五月廿三日蠣殼町拜領下屋敷同姓因幡守利益南本所猿江拜領下屋敷ト相對替奉願、七月廿九日願之通被仰付之。

國府以降舊藩賜邸調

華族 土井利與

寛政呈譜

屋敷	町名	位置	坪數	給收年月
下	深川永代寺 三十三間堂向邊	今不詳	七千八百八坪六合三勺	寶永元甲申歲利益ノ并給リ、正徳三年四月廿二日屋敷數多ニ付上ル。

一、元祿十七甲申改曆寶永元申年五月廿一日蠣殼町大井周防守中屋敷表通貳百廿坪八合、新道爲御用地被召上い。代地裏通入堀ニテ表坪通貳百廿坪八合、奥田八郎右衛門様今日御渡、受取申い。

一、寶永元年五月廿六日、阿部豊後守侯御内意御伺、御用番土屋相模守侯へ差出、如左。

蠣殼町私中屋敷隣土井主水屋敷坪數貳千貳十坪餘御座い。本所猿江私下屋敷坪數

貳千貳百四十坪餘御座い。右屋敷相對替付度、奉願い。已上、御名。

小石川土井主水君被差上い御書付寫如左。

同性周防守かきあら町中屋敷之隣ニ御座い私屋敷坪數貳千貳拾坪餘御座い。右屋

敷周防守の差遣し、周防守下屋敷猿江之坪數貳千貳百四十坪餘御座い。私方差越

い様、相對替仕度奉願い。以上。

五月廿二日

土井主水

原邸御預り地ニテ、小石川殿へ替地相渡い。

子爵土井家回答

護持院修理

廿九日丁卯寶永元年紀元二二六四年五月○丁卯、三正綜覽。幕府護持院市内區。ヲ修理シ、高田後國越

城主戸田忠眞能登守。ヲシテ助役セシム。十一月朔日丁酉寶永元年紀元二二六四年○丁酉、三

殷昌期

六五五



護持院修理  
事蹟

正綜 工成り授賞ス。○柳營日次記。常  
護持院修理 左ノ如ク傳フ、

廿九日 ○寶永元年  
五月○中略年  
護持院御修復御手傳

戸田能登守○忠

朔日 ○寶永元  
年十一月。  
御白書院○中

同○時十。

戸田能登守○忠

右者此度御普請御手傳相濟いニ付御目見爲御褒美被下之。

七日 ○寶永元年十  
月○中略年十

於檜之間今度御城廻御普請御手傳被勤い衆家來ニ御褒美被下之。秋元但馬守○喬出

座申渡之。○中

銀三十枚。時服二。

戸田能登守家來  
彦坂與次右衛門

同○廿枚。

本多四郎左衛門

同斷ツ、。

石原七郎兵衛

同十枚。

小菅庄兵衛  
酒井左右衛門  
柳營日次記

屋鋪渡預

屋鋪渡預事蹟

- 松岡孫右
- 小笠原長重
- 松平綱近
- 松平近陣
- 立花貫長
- 安藤信友
- 遠藤常英

六月朔日己巳○寶永元年紀元二三四屋鋪預有リ。是月二○寶永元年紀元三六四年六月。屋鋪授受若干。○屋敷書拔。

屋鋪渡預 寶永元年六月中ニ於ケル屋鋪渡預、左ノ如シ。

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。

- 六月朔日預。小石川御殿同心四人分上ケ地
- 一、小石川御殿近所貳拾九坪五合
- 六月九日渡。明地之内
- 一、本郷御弓町五千坪
- 同日預。明地御水屋敷上ケ地
- 一、四ツ谷貳千九百六拾三坪五合
- 一本扶酒。
- 六月十四日預。住吉具慶預り上ケ屋敷
- 一、小川町貳百貳拾坪
- 一本扶酒。
- 同日○六月十五日預。本多源兵衛上ケ地
- 一、下谷千五百坪
- 一本扶酒。
- 六月十九日預。藤原左太夫上ケ地
- 一、小日向貳百四坪
- 一本扶酒。
- 六月廿日渡。松平伊賀守上ケ地之内
- 一、麻布六本木六百坪

小石川御殿同心

松岡孫右衛門

小笠原佐渡守○長

松平出羽守○綱

松平對馬守○近

立花民部○貫

安藤長門守○信

遠藤源五郎○常

般昌期

六五七



但、貝塚屋敷御用地之被召上ハ爲代地被下。

同日預。同斷御覽。

一、同所百八拾三坪

六月廿八日預。繪原式部大輔上ケ地

一、谷之御藏跡五千四百拾坪

六月廿八日渡。安部式部上ケ地之内

一、四ツ谷五百坪

圖略。

但、湯島屋敷御用地之被召上ハ爲代地被下。

小石川御殿近所 小石川御殿同心四人分上ケ地 坪數貳拾九坪五合

東、御長屋跡。中村由右衛門。西、御長屋。松岡孫右衛門。

南、五間。北、四間。五尺。

小石川御殿近所御長屋之内、久松久右衛門、飯島市良左衛門、永田兵太夫、川崎新七、右四人上ケ地私ニ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預リ申ハ爲後日仍如件。

後日仍如件。

寶永元甲申年六月朔日

圖略。

本郷御弓町 小笠原佐渡守屋敷 坪數五千坪

東、道。西、道。南、道。北、道。

東、九十三間。五尺。西、百三十四間。貳尺。

右 同 人

米倉主 預地計。昌

境野八郎左衛門。政。尚

新御番本多主殿組 堀田郷右衛門印

屋敷書拔

小石川御殿同心 松岡孫右衛門印

小笠原佐渡守内 木村左平 太印

本郷御弓町明地之内ニ多小笠原佐渡守屋鋪拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月九日

圖略。

四谷 明眞院様御水屋敷 坪數貳千九百六拾三坪五合。

東、石原市左衛門組。石野八兵衛組。松平出羽守。

南、右原市左衛門組。道。西、西念寺。道。北、岡本新五右衛門。

東、六十七間。九間。四尺。十間。三尺。西、九十間。貳尺。

南、貳十七間。八間。四間。三尺。北、三十間。貳尺。

明眞院様御水屋鋪御上ケ被成、松平出羽守ニ御預ケ、四方間數坪數并土藏錠鍵等迄、御繪圖之面相違無御座相改、御預申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月九日 松平出羽守内 北川佐五右衛門印

圖略。

小川町 住吉具慶預り上ケ屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、伏屋新助。西、道。南、福知市左衛門。北、秋間新右衛門。

東、七十間。貳尺。西、七十間。貳尺。

住吉具慶老預り上ケ屋鋪、松平對馬守ニ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相建

家立具植木共、御目錄之通相改、相違無御座御預リ申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月十四日 松平對馬守内 堀田郷右衛門印



住吉具慶預り上ヶ屋鋪立具目錄

- 一、門扉 錠鍵なし。 貳 枚
- 一、蹋戸 錠鍵有。 壹 枚
- 一、戸 貳 本
- 一、障子 貳 本
- 一、植木・大小。 九 本
- 以上。

寶永元甲申年六月十四日

圖略○

下谷 本多彌兵衛上ヶ屋鋪 坪數千五百坪。内百六十七坪山、なだれ。

東、道。 西、小普請手代。  
 南、藤枝若狭守。 北、松平半左衛門。  
 東、五十五間四尺。 西、五十六間三尺。  
 南、五十八間三尺。 北、五十四間二尺。

本多彌兵衛殿上ヶ屋敷立花民部御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相改相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月十五日

圖略○

小日向 篠原左太夫上ヶ地 坪數貳百四坪。

立花民部内  
山本吉兵衛印

東、黒川喜左衛門。 西、高木孫助。  
 南、道。 北、山川安左衛門。  
 東、十六間四尺。 西、十三間四尺。  
 南、十三間四尺。 北、十四間四尺。

篠原左太夫殿上ヶ地安藤長門守御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月十九日

安藤長門守内  
松平忠左衛門印

麻布六本木 遠藤源五郎屋鋪 坪數六百坪。

東、南、阿部志摩守。 西、北、割殘。  
 西、南、道。 東、北、松平近江守組屋鋪。

東、南、三十間壹尺貳寸。 西、北、十四間九寸。  
 東、南、三十間壹尺貳寸。 東、北、十八間貳尺。  
 同 割残り 坪數百八拾三坪。遠藤源五郎預り  
 東、南、道。 西、道。  
 東、南、遠藤源五郎。 西、道。  
 東、西、松平近江守組屋鋪。

遠藤源五郎貝塚屋敷御用地之被召上い爲代地麻布六本木松平伊賀守殿上ヶ地之内之元坪之通拜領仕、四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座請取申い。并屋敷西之方割残り地、則源五郎御預ヶ被成間數坪數相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月廿日

御小姓源永井備前守組遠藤源五郎内  
高垣久助印



圖略○

矢之藏 榊原式部少輔上ヶ屋鋪 坪數五千四百拾坪。

東、道。北、入堀。西、道。南、道。北、入堀。西、道。

東、五十四間三十九間三尺。西、四十五間。北、入堀之處三十四間五尺。道六十八間三尺。

榊原式部大輔殿谷之御藏跡上ヶ屋敷米倉主計の御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月廿八日

米倉主計内 水村金兵衛印

圖略○

四谷 境野八郎右衛門屋鋪 坪數五百坪。

東、伊賀衆。西、三宅彌兵衛。南、割殘。北、道。

東、三十間壹尺四寸。西、三十間壹尺四寸。南、十六間三尺五寸。北、十六間三尺。

境野八郎右衛門湯島屋鋪御用之被召上ひ爲代地、四谷安部式部殿上ヶ地之内之芴拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座相改請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年六月廿八日

新御番本多主殿組境野八郎右衛門内 竹田與右衛門印

屋鋪渡預繪圖證文

屋鋪受授

七月三日辛丑

○寶永元年(紀元二三六)七月三日(辛丑)屋鋪受領者有リ。

外ニ是月(紀元二三六)七月(四年)屋鋪ノ受授若干。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寛政呈請。

屋鋪受授事

屋鋪受授

寶永元年七月、左ノ各屋鋪授受セラル。

圖略○

麻布壹本松 有馬隼人。純屋敷 坪數八百坪。

東、新道。西、大法寺。吉良左兵衛上リ屋敷。南、道。北、戸川助七。

東、二十間。西、十四間壹尺貳寸。南、二十間。北、十四間貳尺貳寸。西北、二十九間三尺。

吉良左兵衛殿上リ下屋敷之内、有馬隼人拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月三日

有馬隼人内 沼田次太夫印

今井佐五右衛門印

圖略○

麻布一本松 吉良左兵衛上リ下屋敷割殘 坪數八百四拾五坪。

東、有馬隼人。西、道。南、松平源太夫。大法寺。北、戸川助七。百性町屋。

東、十九間。西、三十間壹尺。南、二十間。北、二十七間壹尺。

麻布壹本松吉良佐兵衛殿上リ下屋敷内田主膳。正の御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月三日

内田主膳内 佐藤次左衛門印

圖略○

殷昌期

内田正徳

有馬純度



清水御門外 京間坪數貳千六拾坪。

東、御堀。南、小普請方新定小屋。西、道。北、明地。  
東、京三十三間五尺五寸。西、京六十六間半。  
南、京四十六間五尺五寸。北、四十六間半。

清水御門外新定小屋續明地之内之京間貳千六拾坪爲御用地御渡被成四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月六日

柳原七右衛門組  
横山 太右衛門印  
石野新五兵衛内  
岡田 九右衛門印

圖略。

小川町

堀田源右衛門上ヶ屋敷 坪數四百拾坪。  
東、裏門新見七右衛門。西、奥山隆菴。  
南、道。北、新見七右衛門。

堀田源右衛門殿上ヶ屋敷、新見七右衛門治。正、星合十郎兵衛恒。奥山隆菴。立庵。三人  
御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月八日

大久保豐前守組新見七右衛門内  
中村 久太夫印  
同組奥太郎兵衛内  
平尾 市郎兵衛印  
奥山隆菴内  
嶋山 又右衛門印

圖略。

新見正治  
星合顯恒  
奥山玄長

井上政式

矢之藏跡 井上主水式。屋敷 坪數八百坪。  
東、大岡五郎右衛門屋敷。西、道。北、割残り。

大岡清相

同 大岡五郎右衛門相。屋敷 坪數千五百坪。  
東、松平壹岐守屋鋪。西、井上主水。  
南、道。北、割残り。

松平好乘

同 松平壹岐守。屋敷 坪數千七百坪。  
東、道。西、大岡五郎右衛門。  
南、道。北、新道。

谷之御藏跡柳原式部大輔殿上ヶ屋敷之内之京、松平壹岐守大岡五郎右衛門井上主水屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十三日

松平壹岐守内  
田 中彦左衛門印  
大岡五郎右衛門内  
渋谷 彌一右衛門印  
井上主水内  
西 川 藤 藏印

圖略。

古田重次

殷 昌 期

柳原元誓願寺前 伊澤播磨守組古田兵九郎次。屋敷 坪數七百貳拾四坪。



東、三浦監物。西、道。北、津田平左衛門。  
 南、道。東、三十間。西、三十三間。  
 南、十六間。北、十八間。東、一尺。北、十八間。四尺。  
 古田兵九郎御弓町之屋敷差上ケハ爲代地元誓願寺前井關正伯老上ケ地并津田平左衛門殿上ケ地之内ニシテ元坪之通御渡被成四方間數坪敷右御繪圖之面御定杭之通相改相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十三日

古田兵九郎内  
伊藤彌兵衛印

山中師登

小石川 山中喜六郎<sup>○師</sup>屋敷 坪數貳百坪

東、道。西、割殘。  
 南、割殘。北、堀田源右衛門。  
 東、十壹間。西、壹間。壹尺。  
 南、貳十七間。北、貳十三間。五尺。

小石川三宅備前守上ケ地割殘之内ニシテ屋敷拜領仕ハ四方間數坪敷右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

小十人前田平右衛門組  
山中喜六郎印

吉田重直

本郷御弓町 吉田内藏助<sup>○直</sup>屋敷 坪數五百坪

東、道。西、道。  
 南、久永丹波守。北、道。  
 東、十壹間。西、貳十六間。  
 南、貳十七間。北、三十壹間。

御弓町明地之内ニシテ吉田内藏助屋鋪拜領仕ハ四方間數坪敷右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

大御番片桐主膳正組吉田内藏助内  
中森五右衛門印

入野野門

同所 入野野十左衛門<sup>○門</sup>屋鋪 坪數五百坪

東、道。西、割殘。  
 南、道。北、伊勢平八郎。  
 東、十五間。西、十六間。三寸。  
 南、三十壹間。北、三十壹間。壹尺。貳寸。

御弓町明地之内ニシテ入野野十左衛門屋敷拜領仕ハ四方間數坪敷右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

元方御納戸松崎善兵衛組頭入野野十左衛門内  
鈴木太兵衛印

青山長恒

小石川 青山善左衛門<sup>○長</sup>屋敷 坪數六百坪

東、割殘。山、中喜六郎。  
 南、道。西、道。  
 東、北、三十八間。四尺。五寸。  
 西、大澤越中守。  
 北、木村伊左衛門。割殘。

小石川三宅備前守上ケ地割殘之内ニシテ青山善左衛門屋敷拜領仕ハ四方間數坪敷右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

御書院番阿部運江守組青山善左衛門内  
布施淺右衛門印



木村元備

圖略○

同所 木村伊左衛門元屋敷 坪數五百坪。  
東、割殘。南、青山善左衛門。西、大澤越中守。北、道。

小石川三宅備前守殿上ケ地割殘之内ニテ、木村伊左衛門屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、

右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

圖略○

本郷御弓町 朝比奈全助長屋鋪 坪數五百坪。

東、内藤十左衛門。西、道。南、松平美濃守。北、道。

東、三十壹間三尺。西、三十三間三尺。南、十五間。北、十六間。

御弓町明地之内ニテ、朝比奈全助屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

圖略○

淺草 日根九郎兵衛禰正屋敷 坪數四百五拾坪。

東、割餘リ。西、道。南、道。北、道。

朝比奈勝長

日根正福

木村元備

圖略○

同所 木村伊左衛門元屋敷 坪數五百坪。  
東、割殘。南、青山善左衛門。西、大澤越中守。北、道。

小石川三宅備前守殿上ケ地割殘之内ニテ、木村伊左衛門屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、

右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

圖略○

本郷御弓町 朝比奈全助長屋鋪 坪數五百坪。

東、内藤十左衛門。西、道。南、松平美濃守。北、道。

東、三十壹間三尺。西、三十三間三尺。南、十五間。北、十六間。

御弓町明地之内ニテ、朝比奈全助屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十四日

圖略○

淺草 日根九郎兵衛禰正屋敷 坪數四百五拾坪。

東、割餘リ。西、道。南、道。北、道。

朝比奈勝長

日根正福

新御番酒井小半次組頭朝比奈全助内

杉岡平次右衛門印

拙者湯島元屋敷差上ケハ爲代地、淺草松平傳七郎上ケ地之内拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十六日

圖略○

淺草 割殘リ 三拾坪。

東、依田左兵衛。西、日根九郎兵衛。南、道。北、道。

東、十九間。西、十八間四尺五寸。南、三尺五寸。北、二間四尺。

松平傳七郎殿上ケ地割殘依田左兵衛道、日根九郎兵衛禰正。兩人ハ御預被成、四方間數坪數相改、相違無御座預り申ハ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十六日

米津周防守組依田左兵衛内  
岡本小左衛門印  
大久保玄蕃頭組  
日根九郎兵衛印

圖略○

關口村 近藤備中守章用屋敷 坪數貳千坪。

東、石野八兵衛組の場。西、割餘リ。南、道。北、道。

東、的場貳十間貳十壹間三尺五寸。西、三十九間三尺。南、四十三間三尺。北、四十四間三尺。

石野八兵衛殿組與力拾騎上ケ地之内ニテ、近藤備中守屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、右

近藤用章

依田貞道  
日根正福

殷昌期



御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月十八日

圖略

市ヶ谷本村 朝比奈奎之助上ヶ地 坪數貳百九拾六坪七合。

東、布施六右衛門。西、加茂宮吉平。南、安藤彦四郎組。北、道。東、十九間貳尺。西、十九間壹尺。南、十五間壹尺。北、十五間壹尺。朝比奈奎助上ヶ地、福王平左衛門。久、信。布施六右衛門。正、加茂宮吉平。春、直。三人御預

福王信久  
布施正勝  
加茂宮直

寶永元甲申年七月十八日

圖略

柳原

久永内記上ヶ屋敷 坪數貳千三百坪。

東、道。西、丹羽小左衛門。佐田玉淵上ヶ地。南、道。北、道。

東、六十四間四尺五寸。西、六十四間三尺。南、三十四間四尺五寸。北、三十七間貳尺五寸。

久永内記殿上ヶ屋敷、加藤平内。和、泰。丹羽小左衛門。道、正。山田孫太夫。晴、重。三人御預ヶ

被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

加藤泰和  
丹羽正道  
山田重晴

寶永元甲申年七月廿日

松平主計頭組小普請加藤平内内  
吉本四郎右衛門印  
宇津出雲守組御書院丹羽小左衛門内  
石黒武右衛門印  
井戸對馬守組小普請山田孫太夫内  
山本源兵衛印

圖略

本郷御弓町 余語古菴。元屋敷 坪數五百坪。

東、吉野永傳。西、道。南、道。北、割殘。

東、貳十貳間貳尺七寸。西、貳十間三尺四寸。南、貳十壹間三尺壹寸。北、貳十八間貳尺。

本郷御弓町明地之内、余語古菴屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭

之通り相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年七月廿七日

余語古菴内

新谷佐五右衛門印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永卜改元。

七月三日渡。吉良左兵衛上り下屋敷之内

一、麻布一本松八百坪

同日預。同斷割殘。

一、同所八百四拾五坪

七月六日渡。明地之内

一、清水御門外貳千六拾坪

但、爲御用地京間坪之ゝ小普請方渡ス。

七月八日預。堀田源右衛門上ヶ地

一、小川町四百拾坪

〇一本抹消。

殷 昌 期

六七一

役名不知 有馬隼人

内田主膳

禰原七左衛門組

石野新五兵衛組

岡田九右衛門

役名不知 新見七右衛門



七月十三日渡。井國正伯上ヶ地並津田平左衛門上ヶ地之内

星合太郎兵衛  
奥山隆庵  
同伊澤攝磨守組三人預地  
古田兵九郎

但、本郷御弓町屋敷差上ハ爲代地元坪之通被下。

七月十三日渡。地頭式部大輔上ヶ地之内

一、谷之御藏跡

松平壹岐守  
大岡五郎右衛門

同日渡。同斷。

一、同所千五百坪

同井上主水

同日渡。同斷。

一、同所八百坪

同山中喜六郎

七月十四日渡。三宅備前守上ヶ地割殘之内

一、小石川貳百坪

御書院番阿部遠江守組  
青山善左衛門

同日渡。同斷。

一、同所六百坪

拂方御納戸組頭  
木村伊左衛門

同日渡。同斷。

一、同所五百坪

新御番酒井小平次組頭  
朝比奈柰助

七月十四日渡。明地之内

一本郷御弓町五百坪宛

元方御納戸組頭  
入戸野十左衛門

同日渡。同斷割餘り

一、同所三拾坪

大御番片桐主膳正組  
吉田内藏助

但、湯島屋敷差上ハ爲代地被下。

同日渡。同斷割餘り

一、同所三拾坪

役名不知。大久保玄蕃頭組  
日根九郎兵衛

七月十六日渡。松平傳七郎上ヶ地之内

一、淺草四百五拾坪

米津周防守組  
依田左兵衛

七月十八日渡。石野八兵衛組與力拾輪上ヶ地之内

一、關口村貳千坪

近藤備中守  
小普請福王平左衛門

七月十八日預。朝比奈奈助上ヶ地

一、市谷本村貳百九拾六坪七合

同布施六右衛門

○一本抹消。

一、柳原貳千三百坪

小十人加茂宮吉平

七月廿七日渡。明地之内

一、本郷御弓町五百坪

御書院番丹羽小左衛門

同日渡。同斷

一、深川略○中

小普請加藤平内

群山藩

返上 寶永元年七月十九日。七千拾四坪。

同山田孫太夫

寶永元年七月廿三日、松平美濃守吉保深川屋敷七千八十八坪六合三勺、土井周防

余語古庵

守利益君。大塚屋敷之内八千二百八十坪、外道敷六百九十坪、右之通替屋敷奉願ハ。

寶永元年八月九日大塚邸之内、松平美濃守侯へ引渡有之。同年八月十五日松平美濃守

侯之深川邸引替、今日松井孫七、高橋勘介罷越受取。坪數七千八十八坪六合三勺。御普請

奉行立合。子爵土井家回答



戸田光行

東京市史稿

六七四

光行從五位下。河内守。幼名牛之助。後改彈正少弼。

同元十七年甲申七月廿九日右誓願寺前屋鋪を松平讃岐守頼豐芝三田屋鋪之内に

多相對替願之通蒙御免。

宮原氏義

宮原刑部大輔氏義傳十郎。主膳長門守和泉守。

一、寶永元年甲申年五月廿三日下谷御徒町居屋敷狭い之付増坪奉願い處同年七月廿九日被召願之通増坪を以屋敷御引替可被下旨所を追可被仰付之旨於芙蓉之間阿部豊後守被仰渡い。

一、同二乙酉年十月十六日本誓願寺前久永内記上ヶ屋敷之内九百七十三坪被下置旨、

秋元但馬守殿被仰渡い。

一、翌三丙戌年九月廿六日右屋敷普請出來徒移仕下谷御徒町屋敷者差上申い。  
——寛政呈譜

一、廿九日寶永元年七月願ノ通屋敷御引替被下い由。

安藤長門守友。信。横瀬駿河守。貞。宮原長門守。義。細川玄蕃。興。中川壹岐守。正。中根。

安藤信友  
横瀬貞顯  
細川興榮  
中根正冬

本所大水

四日壬寅寶永元年(紀元二三六四)七月(寶永元年(紀元三六四四年)七月)四日利根川大水是日寶永元年(紀元三六四四年)七月四日猿股隄

防武藏國潰決シ本所深川内。市ヲ浸ス。變災篇ニ記ス。

本所大水事

五日寶永元年七月略。

頃日雨打續降い付上州利根川水増昨四日猿股八方所々堤崩洪水漲入本所邊大水溢い事三四日也葛西之民家漂流且溺死いをの多く近國田畑損毛之面々水破之輩廿日宛之水休被仰出之。  
——柳營日次記元。錄。同。

一、同年寶永元年六月十五日と七月朔日迄大雨降り川々洪水下總國猿ヶ俣の堤押切其水本所に至る大水なり。  
——國朝舊章錄

一、寶永元年申年七月六日本所洪水三ツ目四ツ目邊床上三尺斗水附く利根川満水ふとて也。  
——承寛襟錄

一、頃日ノ大雨ニテ利根川満水猿カマタノ堤七月三日寶永元年ノ夜押切葛西通龜井戸本所深川迄洪水床ノ上六七尺ヨリ一二尺迄淺深有之テ水押上申い古河領ヨリ本所迄東ハ行徳西ハ淺草川ノ堤迄一面ニ水押死人モ大分有之い本所へ稻垣對馬守殿御勘定奉行衆御目付衆伊奈半左衛門殿度々御出見分水ハキ被申付い猿カマタへ御老中モ御越之由。

一、今度出水ニ付御用被仰付之。

萩原近江守秀。重。 伊勢平八郎敦。貞。

伊奈半左衛門順。忠。

一、今度水出居宅床ノ上へ越い面々日數廿日之積り休可被申渡い。

殷 昌 期

六七五







とへうたへ出べし、第宅より火起りしはいふまでもなし、近隣より失火するとも、宅地の火を防でくるしからずとなり。逼塞は門をとち、晝も小門より目立ざるやう通路すべし、大病のときは親戚醫などひそかにまかるはくるしからず、火災の時は閉門におかじ。遠慮は門をとち、小門は引寄をくべし、ざりがたきゆへか、病のときは親戚醫まかるはくるしからず、火災は前條におかじ。又召預られしものゝ事は、たとひ卑賤のもの預るとも、其主よりゑるし出すべし、父あるは親族へ預け、差控をかるゝの類、是も各々るし出すべし、親族の事により、又は元近習つとめし輩、自分遠慮といふにはあらで、さしひかへ慎みあるものも、をのをのゑるし出すべしとなり。

——常憲院殿御實紀

本所堤防修築

十一日己酉寶永元年紀元二二六四勘定奉行萩原重秀近江守・自付伊勢貞

救八郎平・關東郡代伊奈忠順衛門半左並ニ本所奉行二人ヲシテ、本所堤防市

内本所區。テ修築セシム。柳營日記。憲廟實錄。寶永元錄。常憲院殿御實紀。

本所堤防修築事蹟

本所堤防修築 是年七月四日ノ大水ニ壞破シタルヲ以テ也。水災善後施設ノ一タリ。

十一日寶永元年

本所川除堤御普請御用被仰付。

萩原 近江守秀重

伊勢 平八郎敦貞

伊奈 半左衛門順忠

本所奉行 兩人

十二日寶永元年

御目付伊勢平八郎本所筋出水ニ付御用被仰付之。

——柳營日記

十一日寶永元年

勘定奉行萩原近江守重秀伊勢平八郎貞救關東郡代伊奈半左衛門忠

——憲廟實錄

十二日寶永元年

一、御目付伊勢平八郎、本所筋出水ニ付御用被仰付之。

——寶永元錄

十一日寶永元年勘定奉行萩原近江守重秀伊勢平八郎貞救關東郡代伊奈半左衛門忠

——常憲院殿御實紀

是時所謂猿俣堤防ノ修築ヲ見タル者歟。

廿二日寶永元年

猿俣堤爲見分但馬守壽秋元御舟ニ多相越。

廿五日寶永元年

稻垣對馬守重富堤川除爲見分相越。

廿二日寶永元年

秋元但馬守喬知、官船に乗テ猿股堤防を巡視す。

廿五日寶永元年

少老稻垣對馬守重富、本所堤防の巡視にまかる。

——常憲院殿御實紀



武藏通志中川ノ條ニ記シテ寶永元年甲申八月〇七四日洪水アリ。本川ノ水大瀬村龜有村等ノ堤ニ衝突シテ之ヲ崩壞シ葛西本所ノ邊ニ漲シテ大ニ水害ヲ被ル。ト有リ。當時此等崩壞ノ堤防修築ヲ見タル者ナル可シ。

附記、一  
令堤防修築

〔附記〕 堤防修築令

十八日〇寶永元年八月〇中略

被仰出御書付之寫

覺

今度洪水ニ付所々堤破損之處私領方之分地頭〇普請申付來り〇所々無油斷修復可被申付〇且又百姓共夫食無之〇ハ不飢様ニ地頭〇救可有之〇以上。

申元〇寶永八月 日

柳營日次記

十八日〇寶永元年八月令せらる〇ハ、こたひ水害にて各所堤防破壞の地、地頭より修理加へ來りしは、をこたひなく修理すへし、はた農民等食料乏しからば、飢餓に及はさるやうに、地頭より賑救すへしとなり。

常憲院殿御實紀

〔附記〕 念佛講禁止

覺

一女順禮人多〇所々町中致徘徊且又念佛講中之者共、僧俗出合、夜中人多〇挑灯など空をし、是又徘徊致〇由不宜相聞〇向後令停止〇間、名主家主急度可申付〇。

附記、二  
止念佛講禁

於相背ハ、可爲曲事者也。

申元〇寶永七月十三日

右之通被仰付〇間、町中家持ハ不及申、借屋店かり召仕等迄、爲申聞急度相守可申付〇。尤町中相觸〇ハ、名主月行事印判を持、明日中樽屋所〇可被參〇以上。

七月十三日〇寶永元年

撰要永久錄

此月〇寶永元年七月女順禮多く打むれ、市街を徘徊し、かつ念佛講と稱し、縮素打まじはり、夜中人多く挑灯をか、げ往來するよし聞ゆ、いとひが事なり、今より後停禁たるべしとなり。

常憲院殿御實紀

八月四日辛未〇寶永元年紀元二二〇三六屋鋪ヲ賜フ者有リ。外ニ是月〇寶永元年紀元二二〇三六

屋鋪ノ受授若干〇屋鋪渡預繪圖

屋鋪受授 寶永元年八月ノ屋鋪受授ヲ舉グ。

圖略

巢鴨 松平美濃守添地 坪數千百五拾七坪

東、松平美濃守。西、新道。

南、松平美濃守。北、松平美濃守。道。

東、百五十間。三、三十七間。二、尺。

南、三十間。五、尺。北、三十壹間。九寸餘。

松平美濃守東北之方古道。

此古道折廻し六百十六坪餘松平美濃守屋敷内〇入申〇。

屋鋪受授

屋鋪受授事

柳澤吉保



東南之方新道幅三間五尺、坪數百四十三坪。

東北之方古道美濃守屋敷内に入申ひ之付、此所折廻し新道幅三間五尺之美の守方々明申ひ。

右新道東南より西へ折廻し、南方水野式部屋敷境迄。

巢鴨村松平右京大夫殿上ヶ地松平美濃守爲添地拜領仕ひ、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申候。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月四日

松平美濃守内  
富田勘助印  
飯島治太夫印

水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。

市川三十郎。服部七右衛門。平野善三郎。宇野小兵衛。

右立合相改、渡之。

材木手代

圖略。

本所 御材木手代代地 坪數五拾三坪貳合五勺。

東、道(七間)。西、石置場。  
南、大西五郎左衛門。北、御石置場。

東、西、十壹間。  
南、北、四間五尺餘。

右者兩國橋南御石置場之内、私共濱町爲替地、就拜領仕ひ、一繩之系御渡被成、四方間數

坪數傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月四日

御材木手代  
皆川惣右衛門印  
同 鶉澤七郎左衛門印  
同 廣瀬郷右衛門印  
同 服部助左衛門印  
同 岡野市右衛門印  
同 依田安右衛門印

坪内覺左衛門内氏家傳左衛門。朽木内記内長尾茂左衛門。

右兩人立合、相渡申候。

圖略。

米津政容

代々木村 米津監物。政屋敷。坪數三千坪。

東、米津監物。西、大久保長門守。  
南、石尾安房守。北、米津監物。

東、西、六十九間。  
南、北、四十四間七寸。

代々木村米津監物抱地之内、今度拜領地之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月五日

米津監物内  
傍○十右衛門印  
甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。



市川三十郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。  
右立合相改、渡之。

今井九右衛門支配所之内拜領地之三千坪御渡被成。間數坪數境目等御繪圖之面相違無御座。爲後日仍如件。

今井九右衛門手代  
室 伏 源 助 印  
同 太田直右衛門印

安藤信友

圖略○

下谷 安藤長門守○信添地。坪數九百八拾八坪七合。

東、安藤長門守。西、道。  
南、安藤長門守。北、道。  
東、三十三間。南、三十三間。西、三十三間。北、三十三間。

下谷中山下野守殿上ケ屋敷安藤長門守爲添地拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月五日

安藤長門守内  
神 谷 十 藏 印

水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。

服部七右衛門。平野善三郎。中村半治。吾孫子幸右衛門。

圖略○

右立合相改、渡之。

大久保忠行

牛込加賀屋敷 大久保藤三郎○忠屋敷。坪數四百坪。

東、山。中市郎右衛門。  
南、道。  
東、北、十四間。西、十四間。  
南、北、十六間。西、十六間。

牛込加賀屋敷木村伊左衛門殿上ケ地之内之、大久保藤三郎屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月六日

大久保藤三郎内  
土 井 數 右 衛 門 印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。平野善三郎。吾孫子幸右衛門。中村半治。

圖略○

右立合相改、渡之。

同所 割殘地 坪數百拾壹坪。

東、大久保藤三郎。西、藥王寺門前町屋。  
南、道。北、加茂宮源兵衛。  
東、三十三間。西、三十三間。  
南、五間。北、四間。

牛込加賀屋敷木村伊左衛門殿上ケ地割殘、大久保藤三郎御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月六日

大久保藤三郎内  
土 井 數 右 衛 門 印

水野權十郎内永田庄助。



右立合相改、預之。

吉田半右

圖略○

四ツ谷

吉田半右衛門屋鋪 坪數百參拾壹坪。

東、神保平太夫。西、三宅彌次兵衛門。

南、道。北、境野八郎左衛門。

東、十五間四尺。西、十七間貳尺。

南、五間三間四尺。北、七間四尺五寸。

同 神保平太夫屋鋪 坪數百三拾壹坪。

東、原金兵衛。西、吉田半右衛門。

南、道。北、境野八郎右衛門。

四谷安部式部殿上ケ地割殘今度拙者兩人拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定

杭之通り相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

折井左衛門飯室與兵衛組伊賀  
神保平太夫印

同 吉田半右衛門印

神保平太

水野權十郎内中村傳右衛門。  
右立合相改、渡之。

(朱書)松波上ケ屋敷繪圖之次へ入るきもの  
覺

一、内藤宿松波五郎太夫殿上ケ屋敷、今度津田平左衛門親。正殿御拜領之付、右屋敷之内  
二、有之、建家御帳面之通立具疊植木等迄不殘御拂之被仰付、小普請方、御引渡被

成、依之私立合相改建家立具疊植木等迄不殘請取申、爲其如此之御座、以上。

寶永元甲申年八月七日

加藤源四郎親  
關角右衛門印

水野權十郎様御内中村傳右衛門殿。

服部七右衛門平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。

圖略○

代々木村 中根壹岐守。正屋敷 坪數七百四拾坪。

東、百性地。畑。西、岡野平兵衛抱屋敷。

南、土手。北、道(幅五間貳尺)。

東、三十間。西、三十五間。

南、貳十間。北、貳十貳間貳尺。

同 中根壹岐守屋敷 坪數六百七拾貳坪。

東、百性地。畑。西、野道。

南、百性地。畑。北、土手。

東、三十八間。西、三十三間。

南、十六間。北、十六間三尺。

二口合千四百拾貳坪。

代々木村玉川上水左右中根壹岐守抱屋敷、今度屋敷拜領地之被仰付之。依之地面御改  
御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。  
寶永元甲申年八月七日

中根壹岐守内  
長谷川團之丞印

水野權十郎内中村傳右衛門。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。宇野小兵衛。

股 昌 期

中根正冬



右立合相改、渡之。

今井九右衛門支配所之内千四百拾貳坪拜領地御渡被成間數坪數右御繪圖之面相違無御座い爲後日仍如件。

今井九右衛門手代

杉江十藏印

高田笹右衛門印

圖略。

津田正親

内藤宿 津田平左衛門親屋敷 坪數千五百九拾四坪。

東、鑑田藤兵衛。西、道。割殘り。

南、道。東、三十四間五尺。西、三十四間五尺。八間。

元誓願寺前津田平左衛門元屋敷差上い爲代地内藤宿松波五郎大夫殿上ヶ地之内之

多御渡被成い四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座相改請取申い爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月七日

津田平左衛門内 齋藤彦 八印

水野權十郎内中村傳右衛門。

服部七右衛門平野善三郎清水喜兵衛中村三左衛門宇野小兵衛。

右立合相改、渡之。

圖略。

小笠原長重

本郷御弓町 道切レ代地 坪數貳百五拾七坪六合。

東、道。南、小笠原佐渡守屋敷。北、土手なごき。

南、西、四間。北、西、四間二尺。

本郷御弓町小笠原佐渡守屋敷北之方道四間屋敷内い入同所南之方四間通道坪之差上い之付右御切替御渡四方間數坪數御定杭之通相違無御座請取申い爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月九日

小笠原佐渡守内 木村左平 太印

水野權十郎内永田庄助中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

市川三十郎清水喜兵衛吾孫子幸右衛門中村半治。

圖略。

大河原定正

本郷御弓町 大河原權兵衛正屋敷 坪數三百七拾四坪五合。

東、道。南、中山下野守。北、山田五郎右衛門。

東、三十七間。西、三十四間。北、十四間。西、十四間。五尺。

大河原權兵衛本所屋敷差上ヶい爲代地本郷御弓町明き地之内之多拜領仕い四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通り相違無御座請取申い爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月九日

大河原權兵衛内 中山六左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

殷昌期



右立合相改、渡之。

市川三十郎。清水喜兵衛。中村半治。吾孫子幸右衛門。

圖略。

青山善左衛門上ヶ屋敷 坪數三百三十貳坪七合。

東、道。西、明地。

南、道。北、道。西、十四間貳尺。

東、十五間。北、貳十三間壹尺。

濱町青山善左衛門殿上ヶ屋敷。牧野備前守成の御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖

寶永元甲申年八月十日

牧野備前守内  
千本木平兵衛印  
喜多四郎兵衛印

牧野成春

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

圖略。

裏猿樂町 八木權平上り屋敷 坪數九百貳拾六坪。山など共。

山なだれ百九十坪。

内、建家六十四坪。

東、水野宮内。道。西、道。北、大平角太夫。

南、朝比奈藤左衛門。北、貳十九間五尺。

伊東長救

八木權平殿上り屋敷伊東民部數の長の御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具、疊長屋塗垂植木等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預申為後日仍如件。

寶永元甲申年八月十日

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

八木權平上り屋敷建家建具疊植木目錄

一、門扉 錠鑰有と、共。 三枚

一、戸 但、半戸共。 三十三本

一、障子 但、半障子共。 十六本

一、櫛 但、小ふを共。 十四本

一、疊 但、半疊共。 五十三疊

一、植木 大小。 三十五本

以上。

寶永元甲申年八月十日

圖略。

市ヶ谷本村 向坂權六郎傳の屋敷 坪數貳百九拾六坪七合。

東、布施六右衛門。西、加茂宮吉平。

南、安藤彦四郎。北、道。

向坂勝信

股 昌 期



東、十九間貳尺。西、十九間壹尺。南、十五間壹尺五寸。北、十九間三尺五寸。  
本所屋敷差上爲代地、市ヶ谷本村朝比奈全助殿上り地私拜借仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十一日

向坂權六郎印

水野權十郎内永田庄助。

清水喜兵衛。吾孫子幸右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

前田安直

湯島切通シ。前田源左衛門真添地。坪數百拾四坪五合。

東、佐山庄左衛門添地。西、前田源左衛門。

南、道。東、貳十八間。西、貳十八間。

同。佐山庄左衛門正添地。坪數百六拾四坪五合。

東、佐山庄左衛門。西、前田源左衛門。

南、道。東、貳十七間。西、貳十八間。

湯島天神切通シ。牛田甚左衛門殿上ヶ屋敷佐山庄左衛門前田源左衛門兩人爲添地御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十三日

前田源左衛門内  
峯岸清左衛門印  
吉田十右衛門印

佐山正親

前田源左衛門内  
峯岸清左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

堀田尉右

麻布六本木。堀田尉右衛門屋敷。坪數九拾六坪。

東、道。南、戶。田土佐守組屋敷。西、道。北、道。

東、南、十間貳尺。西、北、八間壹尺五寸。

麻布六本木松平伊賀守殿抱屋敷上ヶ地割残り、今度私拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十四日

木下道圓支配  
堀田尉右衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

中村三右衛門。吾孫子幸右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

細川興榮

本所。細川玄蕃興屋鋪。坪數貳千八百八拾貳坪三合三勺。

東、清雄寺。如意輪寺。長壽寺。西、道。淺草川岸。

般昌期



右者於北本所中之鄉細川玄蕃深川上ヶ屋敷爲代地、今度就拜領仕、四方間敷坪數、傍

示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十四日

右之伊奈半左衛門支配所之内御渡被成、間敷坪數相違無御座、以上。

細川玄蕃内  
三宅八郎兵衛印  
伊奈半左衛門内  
石母與五郎

細川玄蕃様御抱屋敷坪數書上之覺

壹町三畝貳拾六步 直取三百文取。

此數三千百拾六坪。

右之通御水帳面相違無御座、以上。

寶永元甲申年八月六日

中之鄉村  
年寄 小左衛門  
名主 庄八郎  
坪内墨左衛門様御内  
朽木内記様御内  
渡邊又左衛門

圖略。

湯島御用地 貳千三百三拾坪。

東、道。西、明地。  
南、靈雲寺。北、道。

小普請方

湯島明地之内靈雲寺裏之方之、今度爲御用地、小普請方、御渡之、四方間敷坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月十五日

竹村權左衛門組  
村田久助印  
石川源兵衛内  
坂上勘左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、渡之。

圖略。

本郷御弓町 野澤源左衛門房。坪數貳百坪。

東、道。西、本多彌兵衛。  
南、御小人。北、道。

東、三十四間三尺。西、三十四間六寸。  
南、五間五尺。北、五間五尺。

北本庄私屋敷差上願之通、本郷御弓町割殘之内之、御渡被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

御徒目付  
野澤源左衛門印  
邊國御用二就罷越二付名代  
北條彦次郎印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、渡之。

殷昌期

野澤清房



服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。  
右立合相改、渡之。

松永一興

圖略。

同所 松永小八郎。一屋敷 貳百貳拾坪。

東、入野十左衛門。西、道。  
南、道。北、伊勢平八郎。  
東、十六間三尺五寸。西、十七間貳尺。  
南、十三間五尺。北、十二間壹尺。

本郷御弓町割殘之為今度私屋敷拜領任。四方間數坪數。右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。為後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

細徒目付

松永小八郎印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

志賀藤右

圖略。

同所 志賀藤右衛門屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、割殘。西、道。  
南、なごき。北、町屋。  
東、九間貳尺。西、八間三尺。  
南、貳十五間。北、貳十六間。

本郷御弓町割殘之内之為今度私屋敷拜領任。四方間數坪數。右御繪圖之面傍示杭之

通相改、相違無御座請取申。為後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

二之細九添番  
志賀藤右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

本郷御弓町 木村源太左衛門屋敷 坪數百四拾坪。

東、永井譜岐守。西、道。  
南、野呂六右衛門。北、道。  
東、貳十九間六寸。西、貳十九間壹寸餘。  
南、八間壹尺貳寸。北、八間貳尺。

淺草新寺町私元屋敷指上願之通本郷御弓町割殘之内之為御渡被成、四方間數坪數。右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。為後日仍如件。

細徒目付

木村源太左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合相改、渡之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。

野呂茂正

圖略。

同所 野呂六右衛門。一屋敷 坪數百貳拾坪。

殷昌期



東、永井讚岐守。西、道。南、水野兵部。北、木村源太左衛門。東、西、十六間五尺三寸餘。南、八間壹尺二寸。

內藤宿私元屋敷指上願之通本郷御弓町割残り之内之御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改相違無御座請取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

御徒目付 野呂六右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

境野宗正

同所 境野庄右衛門宗屋敷 坪數貳百六坪。

東、黒田玄蕃。西、道。南、日比野七郎右衛門。北、道。

東、十六間貳尺壹寸。西、十六間四尺。南、十六間三尺。北、十六間三尺。

本郷御弓町割残り之今度私屋敷拜領仕四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改相違無御座請取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

御徒目付 境野庄右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

野田盛成

同所 野田源兵衛盛屋鋪 坪數百八拾五坪。

東、吉野永傳。西、道。南、余語古菴。北、久永丹波守上ヶ屋敷。

東、五間三尺三寸。西、八間。南、五間貳尺。北、三十間五尺貳寸餘。

本郷御弓町割残り之今度私屋敷拜領仕四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相違無御座請取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

御徒目付 野田源兵衛印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。清水喜兵衛。平野善三郎。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

曾雌定廣

同所 曾雌儀右衛門定屋敷 坪數三百坪。

東、道。西、割殘。北、山中喜六郎。

東、十間貳尺。西、十五間。南、十六間貳尺。北、十四間三尺十二間壹尺。

本郷御弓町割残り之内之今度曾雌儀右衛門屋敷拜領仕四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改相違無御座請取申爲後日仍如件。

殷昌期



寶永元甲申年八月廿一日

御勘定會雌儀右衛門内  
志村友右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略○

同所 會雌儀右衛門預り割殘 坪數八拾七坪。

東、會雌儀右衛門。西、青山善左衛門。

南、道。北、なごぎ。

本郷御弓町會雌儀右衛門拜領屋敷續割殘地則御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之

面傍示枕之通相改、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

會雌儀右衛門内  
志村友右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略○

同所 山田半助元直屋鋪 坪數貳百八拾三坪。

東、土手なごぎ。西、木村伊左衛門。

山田直元

會雌定廣

巢鴨山田半助屋敷差上、願之通本郷御弓町割殘之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖

之面傍示枕之通相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿一日

御納戸山田半助内  
鬼頭幾右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略○

巢鴨 由井吉兵衛藤枝縫殿右衛門上ケ地割殘り 坪數七拾三坪。

東、道。西、大槻吉左衛門。

南、土屋薩摩守。北、御掃除之者八右衛門。

巢鴨拙者共屋敷續割殘り地則兩人に御預り被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相

違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

和田會御用屋敷同心輪原傳左衛門組  
大槻吉左衛門印  
小石川御殿御掃除之者中島助六郎組  
八右衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、預之。

大槻吉左  
八右衛門



藤倉彦八

圖略。

巢鴨 藤倉彦八郎屋敷 坪數百拾八坪。

東、道。南、木代與五兵衛。西、小田善兵衛上り地。北、久野五郎三郎。

東、四間四尺五寸。南、北、二間四尺五寸。西、四間貳尺三寸。

巢鴨今井彌十郎上ヶ地今度私拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿三日

小石川御殿同心

藤倉彦八郎印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

平野善三郎。清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略。

表六尺兩人

小石川 表六尺八郎兵衛 坪數六拾坪。

東、鈴木兵右衛門。西、表六尺加左衛門。南、伏屋頼母。北、道。

東、十四間一尺六寸。西、十四間壹尺五寸。南、四間一尺六寸。北、四間一尺六寸。

同 表六尺加左衛門屋敷 坪數六拾坪。

東、表六尺八郎兵衛。西、上水請負。南、伏屋頼母。北、道。

東、十四間壹尺五寸。西、十四間。南、北、四間貳尺壹寸。

藤倉彦八

圖略。

巢鴨 藤倉彦八郎屋敷 坪數百拾八坪。

東、道。南、木代與五兵衛。西、小田善兵衛上り地。北、久野五郎三郎。

東、四間四尺五寸。南、北、二間四尺五寸。西、四間貳尺三寸。

巢鴨今井彌十郎上ヶ地今度私拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿三日

小石川御殿同心

藤倉彦八郎印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

平野善三郎。清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略。

表六尺兩人

小石川 表六尺八郎兵衛 坪數六拾坪。

東、鈴木兵右衛門。西、表六尺加左衛門。南、伏屋頼母。北、道。

東、十四間一尺六寸。西、十四間壹尺五寸。南、四間一尺六寸。北、四間一尺六寸。

同 表六尺加左衛門屋敷 坪數六拾坪。

東、表六尺八郎兵衛。西、上水請負。南、伏屋頼母。北、道。

東、十四間壹尺五寸。西、十四間。南、北、四間貳尺壹寸。

櫻井五兵

圖略。

小石川御殿近所 櫻井五兵衛屋敷 坪數九拾四坪八合。

東、道。西、森川市郎右衛門。南、道。北、久保寺左兵衛。

東、九間壹尺。西、九間貳尺。南、十一間三尺。北、十間。

小石川御殿近所鈴木十四郎上ヶ地今度拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿三日

小石川御殿同心

櫻井五兵衛印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

平野善三郎。清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略。

殷 昌 期



小室新平

小石川御殿近所 小室新平添地 坪數七拾五坪。

東、道。南、財津又右衛門。北、道。西、小室新平。

東、南、八間壹尺五寸。西、北、八間貳尺五寸。東、北、九間貳尺。西、南、九間。

小石川御殿近所私屋敷續武川孫平上ヶ地添地ニ拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月廿三日

小石川御殿同心組頭 小室新平印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡り之。

平野善三郎、清水喜兵衛、服部七右衛門、中村三左衛門、吾孫子幸右衛門。

圖略○

同所 御掃除之者茂右衛門屋敷 坪數八拾壹坪八合。

東、菅沼甚三郎。西、金子十兵衛。南、本間彦兵衛、明地。北、道。

東、西、九間四尺。北、八間三尺五寸。南、八間三尺。

小石川御殿近所本間彦兵衛上ヶ地、今度御掃除之者拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通り相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月廿三日

中島助六郎組頭 野口忠兵衛印 同 内山作兵衛印

掃除之者

掃除之者

圖略○

同所 御掃除之者新右衛門屋敷 坪數六拾三坪八合。

東、道。南、宮下彦右衛門。西、道。北、道。

東、北、十一間壹尺。西、南、十壹間。東、南、六間。

小石川御殿近所淺井瀨兵衛上ヶ地、今度御掃除之者拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通り相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

寶永元年甲申年八月廿三日

中島助六郎組頭 野口忠兵衛印 同 内山作兵衛印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡り之。

平野善三郎、清水喜兵衛、服部七右衛門、中村三右衛門、吾孫子幸右衛門。

圖略○

巢鴨 御掃除之者八右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、道。西、大槻吉左衛門。南、割残り。北、道。

掃除之者

殷昌期



東、十間貳尺三寸。西、十間貳尺三寸。  
 南、六間四尺。北、六間五尺。  
 巢鴨藤枝縫殿右衛門上ケ地之内、今度御掃除之者拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之  
 面傍示杭之通り相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年八月廿三日

水野權十郎内中村傳右衛門。  
平野善三郎。清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。  
 右立合相改、渡之。

掃除之者

小石川御殿近所 御掃除之者安右衛門屋敷 坪數八拾坪。

東、伊藤權六郎。西、小川長右衛門。  
 南、道。北、藤井佐次兵衛。服部源之丞。  
 小石川御殿近所近藤平太夫上ケ地、今度御掃除之者拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖  
 之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
 寶永元甲申年八月廿三日

水野權十郎内中村傳右衛門。  
 右立合相改、渡之。

平野善三郎。清水喜兵衛。服部七右衛門。中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略

本郷御弓町割残り 坪數七拾貳坪。

東、大森三治郎組。  
 南、なごき。吉田内藏助預。  
 西、志賀藤右衛門。  
 北、大森三次郎。町屋。

本郷御弓町割残り、大森三次郎組拙者御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違  
 無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月廿七日

志賀藤右衛門印

右藤右衛門並嫡子丈松共病死ニ付印形消候事無之也。

組頭 大森三次郎組  
 芳賀郷左衛門印  
 同 大野瀬兵衛印

水野權十郎内永田庄助。  
 右立合相改、預之。

市川三十郎。服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。

圖略

本郷御弓町がけなごき 坪數百八拾四坪九合。

東、堀田源右衛門。西、山田半助。  
 南、山中喜六郎。北、道。

殷昌期

志賀藤右  
 組大森賴隆



堀田通右

東西、十八間、三、五尺(幅六間)。南北、十八間、五尺(幅壹間)。本郷御弓町堀田源右衛門存通屋敷續かけなご御預被成間敷坪數右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申存。勿論家作塀仕間敷い。爲後日仍如件。  
堀田源右衛門内  
大島又右衛門印  
寶永元甲申年八月廿七日

水野權十郎内永田庄助。  
右立合相改、預之。

市川三十郎。服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。  
中村三左衛門。宇野小兵衛。吾孫子幸右衛門。

圖略○

同所

かけなご東より西北へ五拾八坪。  
東、道。西、割殘り。曾雌儀右衛門預り。  
南、曾雌儀右衛門。北、堀田源右衛門。  
東、七尺。西、七尺。南、十九間。北、七尺。

本郷御弓町山中喜六郎登屋敷續かけなご御預ケ被成間敷坪數右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申存。勿論家作塀圍等仕間敷い。爲後日仍如件。  
山中喜六郎内  
大石貞右衛門印  
寶永元甲申年八月廿七日

水野權十郎内永田庄助。  
右立合相改、預之。

山中師登

吉田重直

圖略○

同所

かけなご坪數百四拾壹坪。  
東、大森三次郎。西、道。  
南、吉田内藏助。北、志賀藤右衛門。  
東、十五間、二尺。西、五間。  
南、三十壹間。北、三十間、二尺。

本郷御弓町吉田内藏助重屋敷續かけなご御預被成間敷坪數右御繪圖之面相改、相違無御座御預り申存。勿論家作塀圍等仕間敷い。爲後日仍如件。  
片桐主膳正組吉田内藏助内  
中森郷右衛門印  
寶永元甲申年八月廿七日

水野權十郎内永田庄助。  
右立合相改、預之。

市川三十郎。服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。  
中村三左衛門。宇野小兵衛。吾孫子幸右衛門。

圖略○

濱町

井上主水政添地。坪數貳百坪。  
東、割殘。西、道。  
南、井上主水。北、道。  
東、二十間。西、四間、三尺。  
南、二十四間、二尺、五寸。北、二十五間。

井上政式

殷昌期



谷之御藏跡榊原式部大輔殿上ヶ地割殘井上主水屋敷續之添地拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
寶永元年申年八月廿八日  
井上主水内  
永田八左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

濱町 割殘坪數七百拾八坪。

東、道。西、井上主水。  
南、大岡五郎右衛門。北、道。

東、貳十九間貳尺。西、十貳間。  
南、三十壹間壹尺。北、三十九間壹尺。

谷之御藏跡榊原式部大輔上ヶ地割殘り、米倉主計。昌。御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寶永元年申年八月廿八日

米倉主計内  
井上武左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、預之。

圖略。

本郷御弓町松風伊左衛門。正屋敷 坪數四百八拾七坪。

東、道。西、道。  
南、脇坂甚兵衛。北、道。

米倉昌照

松風正勝

東、六間三尺。西、十九間三尺六寸。  
南、三十七間三尺。北、三十九間壹尺。  
巢鴨松風伊左衛門屋敷差上願之通本郷御弓町割殘之内之御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
寶永元年申年八月卅日  
細裏御門番頭松風伊左衛門内  
野口宇平次印  
水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

本郷御弓町 野田藤三郎。正屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、道。西、本多甚右衛門。  
南、松平右京大夫。北、道。

東、十三間三尺五寸。西、十七間壹尺。  
南、十四間三尺五寸。北、十五間壹尺。

同 本多甚右衛門屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、野田藤三郎。西、明地。  
南、松平右京大夫。北、道。

東、十七間壹尺。西、十間貳尺。  
南、十七間壹尺。北、十間四尺三寸。

本郷御弓町明地之内之願之通り今度私共屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
寶永元年申年八月卅日

富士見御寶番  
本多甚右衛門印  
同 野田藤三郎印

本多甚右

野田正成

殷昌期



水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

山岡正利

同所 山岡市郎右衛門利。屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、道。南、土手など。西、道。北、道。栗田作左衛門。

栗田作左

同 栗田作左衛門屋敷 貳百貳拾坪。

東、山岡市郎右衛門。西、淺山加右衛門。  
南、土手など。割殘。北、道。

東、十八間壹尺。西、十壹間四尺。  
南、十一間四寸。北、十一間四尺五寸。

此次へ末項淺山加右衛門ヲ加フ。

深谷七左

同 深谷七左衛門屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、土手など。西、道。北、土手など。

東、貳十貳間。西、貳十五間。  
南、十間。北、十一間一尺。

土手など。高四間三尺程となり。

私共元屋敷差上、願之通本郷御弓町明地之内ニ御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之  
面傍示杭之通相改、相違無御座銘々請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月卅日

同斷。元屋敷本所  
細廣敷添番元屋敷添橋近所  
淺山加右衛門印

同斷。元屋敷本所  
栗田作左衛門印  
山岡市郎右衛門印

同斷。元屋敷本所  
深谷七左衛門印

水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。  
右立合相改、渡之。

追加。栗田作左衛門の次へ、

淺山加右

同 淺山加右衛門屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、栗田作左衛門。西、割殘。

南、土手など。北、道。栗田作左衛門。  
東、十八間壹尺。西、十壹間四尺。  
南、十一間四尺。北、十壹間四尺五寸。

圖略。

石川正扶

同所 石川彌市右衛門扶。屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東、道。南、久永内記。西、割殘。北、道。栗田作左衛門。  
東、八間七寸。西、八間七寸。

南、北、貳十七間六寸。西、八間七寸。

本庄私屋敷差上、本郷御弓町明地割殘之内ニ御拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面  
傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月晦日

御徒目付  
石川彌一右衛門印

水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。  
右立合相改、渡之。

殷昌期



圖略

青山三右

同所

青山三右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、道。南、土手なごき。西、田中源内。北、道(幅貳間)。

田中源内

同

田中源内屋敷 坪數七拾坪。

東、青山三右衛門。西、永持勘兵衛。南、土手なごき。北、道。

永持勘兵

同

永持勘兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、田中源内。西、小菅善右衛門。南、土手なごき。北、道。

小菅善右

同

小菅善右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、永富勘兵衛。西、鹽澤八郎右衛門。南、土手なごき。北、道。

鹽澤八郎

同

鹽澤八郎右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、小菅善右衛門。西、坂本又四郎。南、土手なごき。北、道。

坂本又四郎

同

坂本又四郎屋敷 坪數七拾坪。

東、十間一尺。西、十間三尺六寸。南、六間一尺。北、六間一尺五寸。

奥野儀左

同

奥野儀左衛門 坪數七拾坪。

東、坂本又四郎。西、名村忠兵衛。南、土手なごき。北、道。

名村忠兵

同

名村忠兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、奥野儀左衛門。西、小川才兵衛。南、土手なごき。北、道。

北川才兵

同

北川才兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、名村忠兵衛。西、道。南、山内庄兵衛。北、道。

山内庄兵

同

山内庄兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、名村忠兵衛。西、道。南、土手なごき。北、小川才兵衛。

本郷御弓町明地之内之多願之通今度私共屋敷拜領任ひ。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座銘々請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年八月卅日

伊賀者

青山三右衛門印

殷昌期



同 田 中 源 内 印  
 同 永 持 勘 兵 衛 印  
 同 小 菅 善 右 衛 門 印  
 同 鹽 澤 八 郎 右 衛 門 印  
 同 坂 本 又 四 郎 印  
 同 奥 野 儀 左 衛 門 印  
 同 名 村 忠 兵 衛 印  
 同 山 内 庄 兵 衛 印  
 同 北 川 才 兵 衛 印

水野權十郎内永田庄助。中村傳右衛門。  
 右立合相改、渡之。

市川三十郎。宇野小兵衛。平野善三郎。吾孫子幸右衛門。服部七右衛門。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。  
 八月四日渡。松平右京大夫上ケ地  
 一、巢鴨村千百五拾七坪

松平美濃守

外二、屋敷間古道六百拾六坪餘共渡ス。  
 八月四日渡。兩國橋南側石置場内  
 一、本所五拾三坪貳合五勺

御材木手代

但、濱町屋敷爲替地一繩之勿渡ス。

八月五日渡。自分地之内  
 一、代々木村三千坪

米津監物

同日渡。中山下野守上ケ地  
 一、下谷九百八拾八坪七合

安藤長門守

一、牛込加賀屋敷四百坪

大久保藤三郎

同日渡。同所割地  
 一、同所百拾壹坪

右同

八月七日渡。安部式部上ケ地制儀  
 一、四谷西念寺近所百三拾壹坪宛

折井仁左衛門飯室與兵衛組伊賀預地人

同日渡。玉川上水左右自分地屋敷  
 一、代々木村千四百拾貳坪

神保平太夫

八月七日渡。松波五郎大夫上ケ地之内  
 一、内藤宿千五百九拾四坪

中根壹岐守

但、元誓願寺前屋敷差上、爲代地被下。

津田平左衛門

同日。八月九日渡。屋敷北之方地續上ケ地之内  
 一、本郷御弓町貳百五拾七坪六合

小笠原佐渡守

但、屋敷南之方四間通り道廣ケ御用ニ差上ハ爲代地被下。

役名不知

同日渡。明地之内  
 一、同所三百七拾四坪五合

大河内權兵衛

但、本所屋敷差上ハ爲代地被下。

役名不知

八月十日預。青山善左衛門上ケ地  
 一、濱町三百五拾貳坪七合

牧野備前守

八月十日預。一本抹消。  
 一、裏猿樂町九百貳拾六坪

伊東民預地

八月十一日預。朝比奈李助上ケ地  
 一、市谷本村貳百九拾六坪七合

役名不知  
 向本切。坂權六郎



但、本所屋敷差上ハ爲代地被下。  
八月十三日渡。牛田甚左衛門上ケ屋敷

同 佐山庄左衛門  
添地

一、湯島切通百六拾四坪五合  
但、屋敷續ニ勿被下。

同 前田源左衛門  
添地

但、右同斷。  
八月十四日渡。松平伊賀守抱屋敷上ケ地割殘

同 堀田尉右衛門  
木下道圓支配

一、北本所中ノ郷貳千八百八拾貳坪三合三勺  
八月十四日渡。伊奈半左衛門支配所ノ内

同 細川玄蕃

但、深川屋敷差上ハ爲代地被下。  
八月十五日渡。善雲寺跡明地之内

小普請方田久助。同。小普請方竹村權右衛門組村。同。石川源兵衛組坂上勘右衛門村。

但、爲御用地渡入。  
八月廿一日渡。明地割餘之内

御徒目付 野澤源左衛門

一、同所。同斷。貳百坪  
但、北本所屋敷差上ハ爲代地被下。

同 木村源太左衛門

但、淺草新寺町屋敷右同所。  
同日渡。同斷。

同 境野庄左衛門

一、同所。同斷。百六坪  
同日渡。同斷。

同 野田源兵衛

一、同所。同斷。百八拾五坪  
八月廿一日渡。明地割餘之内

同 志賀藤右衛門

一、本郷御弓町貳百貳拾坪宛  
同日渡。同斷。

御納戸 山田半助

但、六右衛門之内藤宿屋敷差上ハ爲代地被下。  
同日渡。同斷。

御勘定 曾雌儀右衛門

一、同所。同斷。百八拾三坪  
同日渡。同斷。

同 右 櫻井五兵衛

但、巢鴨屋敷右同斷。○差上ハ爲代地被下。  
同日渡。同斷。

同 小 櫻井五兵衛

一、同所。同斷。三百坪  
同日渡。同斷。

同 小 室新

一、同所。同斷。八拾七坪  
八月廿三日渡。鈴木十四郎上ケ地

御掃除之者 茂右衛門

一、同所。同斷。七拾五坪  
同日渡。同斷。

同 新右衛門

一、同所。同斷。八拾八坪  
同日渡。同斷。

同 安右衛門

一、同所。同斷。六拾八坪  
同日渡。同斷。

表六尺 藤倉彦八郎

一、同所。同斷。六拾坪  
同日渡。同斷。

同 加左衛門

一、同所。同斷。八拾坪  
同日渡。同斷。

同 八郎兵衛

一、同所。同斷。八拾坪  
同日渡。同斷。

同 加左衛門

一、同所。同斷。八拾坪  
同日渡。同斷。

同 加左衛門

一、同所。同斷。八拾坪  
同日渡。同斷。

同 加左衛門

一、同所。同斷。八拾坪  
同日渡。同斷。

同 加左衛門



同日渡。藤枝縫殿右衛門上ヶ地之内  
 一、巢鴨七拾坪  
 同日預。由井吉兵衛藤枝縫殿右衛門上ヶ地割殘  
 一、同所七拾三坪  
 ○一本二。本證文無之、寫證文ニ多書拔。

御掃除之者  
 八右衛門 者組一木三、中島助六郎組御掃除之  
 和田倉御用屋敷同心  
 大槻吉左衛門  
 小石川御殿御掃除之者  
 八右衛門  
 山田清葛

八月廿三日渡。余語古庵上ヶ地之内  
 一、小石川百貳拾坪

但、表六尺八郎兵衛加右衛門兩人に六拾坪ツ、被下い。

八月廿七日預。明地割殘  
 一本郷御弓町七拾貳坪

八月廿七日預。自分屋敷續かけなれ  
 一本郷御弓町百八拾四坪九合

同日預。同斷  
 一、同所五拾八坪

同日預。同斷  
 一、同所百四拾壹坪

八月廿八日渡。禰原式部大輔上ヶ地割殘之内  
 一、濱町谷一藏。貳百坪

同日預。同斷。割殘  
 一、同所七百拾八坪

八月晦日渡。明地之内  
 一本郷御弓町七拾坪宛

役名不知大森三次郎組  
 志賀藤右衛門

役名不知  
 堀田源右衛門

同  
 山中喜六郎

同  
 吉田内藏

井上主

米倉主

伊賀者  
 青山三右衛門

田中源内

永持勘兵衛

小菅善右衛門

鹽澤八郎右衛門

坂本又四郎

奥野儀左衛門

名村忠兵衛

山内庄兵衛

北川才兵衛

御裏御門番頭  
 松風伊左衛門

富士見御寶藏番  
 本多甚右衛門

同  
 野田藤三郎

同  
 淺山加右衛門

同  
 栗田作左衛門

同  
 山岡市郎右衛門

同  
 深谷七左衛門

御徒目付  
 石川彌市右衛門

屋敷書拔

附記、一  
 輿夫

〔附記、一〕輿夫

覺

一、町中駕籠昇い者、常々日用の紛い間、向後駕籠昇い者之分り、日用座の札を取置可

殷昌期



申。但札賃ハ指出申間鋪。尤駕籠昇相止。右之札日用座。可相返。惣勿借駕籠旅人ハ各別其外極老之者病人或ハ女又ハ小兒此外一切不可借旨。取前相觸。處近年ハ猥之乘。由相聞。不届。條此已後若定之外之者乘。ハ。駕籠昇。者。曲事可申付。

右之趣相守之名主并家主急度可申付。以上。

申。元。寶。永。八月

右之、八月十一日。元。寶。永。御觸町中連判。

〔附記、二〕 處罰

廿五日。元。寶。永。八月。中略。

小普請井戸對馬守良弘。組溝口右近。其頭之券印を偽造。走る罪を以て。證人井出藤九郎と共に斬罪之處。伊勢家七兵衛偽造を知て其券狀を蓄。冢ゆへ梟首。

——憲廟實錄

廿五日。元。寶。永。八月。

○書入。小普請井戸對馬守組溝口右近。町人本郷伊勢屋七兵衛方。金子借り。右金子滯由之。對馬守方へ訴出。ハ。付。僉儀之處。頭對馬守裏判。於無之ハ。難成。由。七兵衛申付。自分所持之印形を。押。頭之判形。紛無之旨添證文迄遣之。且。又小普請大久保玄蕃頭組井出藤九郎儀。右近謀判之儀。乍存。證人。立。尤。七兵衛儀其段存罷在之上。

訴出。依之右近藤九郎ハ。揚り屋敷へ遣置。七兵衛儀ハ。牢舍申付之。今日左之通御仕置。

於評定所申渡覺

溝口右近

町人方。金子借用。之付。多。謀書致謀判。侍。不似合仕形。不届至極。之付。依之。斬罪被仰付之。

井出藤九郎

溝口右近。町人方。金子借用。之付。多。謀判仕。存。から。證人。立。致。加判。ハ。段。不届至極。之。依之。斬罪被仰付。

溝口空信

養子右近。町人方。金子借用。之付。多。謀書謀判仕。侍。不似合仕形。不届至極。依之。斬罪被仰付。空信事。右之趣。不存。之付。多。御構無之者也。

右近實父  
溝口市右衛門

溝口右近。夏。謀書謀判仕。之付。御仕置被仰付。市右衛門事。右謀書謀判之儀。不存。ハ。間。公儀。よ。御構無之。右之段。甲府殿家老申。可。被。相。達。ハ。

本郷伊勢屋  
七兵衛

溝口右近。金子貸。之付。多。謀書謀判之。手形。乍。存。取。置。之。其。上。訴。出。ハ。不届至極。之。







傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。  
寶永元甲申年九月朔日

御勘定 吉田又八郎印  
同 篠原左助印

水野權十郎内永田庄助。

平野善三郎中村三左衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

濱町

境野六左衛門英屋敷

坪數三百坪

東、割殘地。

南、大岡五郎右衛門。

西、井上主水。

東、十七間五尺。

西、十間。

北、十間三尺。

谷之御藏跡神原式部大輔殿上ケ地割殘り内之ゝ、今度私屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月朔日

境野六左衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

服部七右衛門。清水喜兵衛。

右立合相改、渡之。

圖略。

伴七藏

本郷御弓町 伴七藏屋敷

坪數百貳拾三坪

東、道。

西、松平駿河守。

南、松平駿河守。

北、瀬戸庄左衛門。

本所元屋敷差上ケ、願之通り本郷御弓町明地之内之ゝ拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通り相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月五日

與火之番 伴

七藏印

水野權十郎内中村傳右衛門。

平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。服部七右衛門。

右立合相改、渡之。

圖略。

本郷御弓町 かけなごき

坪數三百六拾八坪五合。

東、道。

西、道。

南、小笠原佐渡守。

北、伊賀之者。

本郷御弓町小笠原佐渡守重屋敷續北之方かけなごき之所、則佐渡守に御預ケ被成。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月五日

小笠原佐渡守内 竹田武左衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。

殷昌期

七二七

小笠原長重



平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。服部七右衛門。  
右立合相改、預之。

圖略。

大岩盛宗

本郷御弓町 大岩源太夫宗屋敷 貳百七坪。  
東、篠原佐助。西、日比野八左衛門。  
南、松平右京大夫。北、道。

日比野八

東、十九間三尺。西、十六間三尺。三間三尺。  
南、十間三尺。北、六間三尺。二間三尺。

同日比野八左衛門屋敷 坪數貳百七坪。

東、大岩源太夫。西、町屋。  
南、松平右京大夫。北、十壹間。

東、貳十六間三尺。西、貳十七間。  
南、八間四尺五寸。北、十壹間。

私共元屋敷差上ケ、願之通本郷御弓町明地内之拜領仕。四方間敷坪數、右御繪圖之  
面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月五日

御天守番  
一元屋敷  
一番町  
日比野八左衛門印  
内藤宿數  
大岩源太夫印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合相改、渡之。

服部七右衛門。平野善三郎。清水喜兵衛。中村三左衛門。宇野小兵衛。

圖略。

鈴木重勝

濱町 鈴木六郎兵衛屋敷 坪數三百三拾貳坪七合。

東、道。西、小田切平右衛門。  
南、道。北、道。

東、十五間。西、十四間貳尺。  
南、貳十貳間五尺。北、貳十三間貳尺。

濱町青山善左衛門殿上ケ屋敷鈴木六郎兵衛重勝拜領仕。四方間敷坪數、右御繪圖之  
面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月六日。

鈴木六郎兵衛内  
榎本只七印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。

圖略。

算橋近所 淺山加右衛門上ケ地 坪數貳百坪。

東、道。西、鈴木半左衛門。  
南、山内彌市郎。北、風祭甚兵衛。

東、九間貳尺。西、九間壹尺五寸。  
南、貳十壹間三尺。北、貳十壹間四尺。

算橋近所淺山加右衛門上リ地、拙者共兩人に御預ケ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面  
相改、相違無御座御預リ申。勿論御預地之内に家作塀圍仕間敷。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月七日

御廣鋪添番原左太夫鈴木半左衛門印  
鈴木半左衛門印  
小普請近藤備中守支配  
山内彌市郎印

三枝左兵衛内上野利右衛門。

殷昌期

鈴木半左  
山内彌市



吉川九兵

本郷御弓町 吉川九兵衛屋敷 坪數百坪。

東、野村小右衛門。西、深谷七左衛門。

南、道。北、土手なごき。

野村小右

同 野村小右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、木村惣兵衛。西、吉川九兵衛。

南、道。北、土手なごき。

木村惣兵

同 木村惣兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、西川作右衛門。西、野村小右衛門。

南、道。北、土手なごき。

西川作右

同 西川作右衛門屋敷 坪數七拾坪。

東、石橋六兵衛。西、木村惣兵衛。

南、道。北、土手なごき。

石橋六兵

同 石橋六兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、道。西、土手なごき。

井上安左

同 井上安左衛門屋敷 坪數七拾坪。

南、道。北、土手なごき。

圖略。

菊池三郎

同 菊池三郎兵衛屋敷 坪數七拾坪。

東、淺山加右衛門。西、道。

南、土手なごき。北、道。

本郷御弓町明地之内之、願之通拙者共屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座銘々請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年九月十六日

仕丁組頭

吉川九兵衛印

仕丁 野村小右衛門印

同 木村惣兵衛印

同 西川作右衛門印

同 石川六兵衛印

同 井上安左衛門印

同 菊池三郎兵衛印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野理右衛門。右立合相改、渡之。

圖略。

本郷 かけなごき 坪數貳百五拾坪。

殷昌期







阿部正邦

東、竹内平左衛門。西、道。北、松下彦太夫。南、道。東、二十間壹尺。西、二十間四尺。南、十間一尺。北、十間四尺。

井出藤九郎殿上り屋敷阿部對馬守<sup>○</sup>正邦<sup>○</sup>御預被成、四方面數坪數、右御繪圖之面并建家立具疊長屋植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預り申<sup>○</sup>爲後日仍如件。  
寶永元年甲申年九月廿三日  
三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、預之。

井出藤九郎上り屋敷建家立具目錄

- 一、門扉 但、くゝ戸共、錠鑑なし。 二枚
  - 一、戸 但、半戸共。 貳十八本
  - 一、障子 但、半障子共。 十八本
  - 一、襖 但、半疊共。 貳本
  - 一、疊 但、半疊共。 四十七疊
  - 一、植木 大小。 貳十五本
  - 一、石 大小。 四ツ
- 以上。
- 申九月廿三日

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年  
九月朔日渡。輪原式部大輔上ヶ地割殘之内  
一、濱町谷之藏三百坪  
同日預。同斷割殘り。  
一、同所四百拾七坪  
○一本抹消。  
九月朔日渡。明地之内  
一、本郷御弓町三百坪宛

九月五日渡。同斷。  
一、同所百貳拾三坪

但、本所屋敷差上<sup>○</sup>爲代地被下。

同日渡。同斷。  
一、同所貳百七坪宛

但、元屋敷差上<sup>○</sup>爲代地被下。

同日預。自分屋敷續かひなし。  
一、同所三百六拾八坪五合  
九月六日渡。青山善左衛門上ヶ地  
一、濱町三百三拾貳坪七合  
九月七日預。淺山加右衛門上ヶ地  
一、并橋近所貳百坪

九月十六日渡。明地之内  
一、本郷御弓町百坪  
同日渡。同斷。  
一、同所七拾坪宛

役名不知  
境野 六右衛門  
米倉 主計  
御勘定  
吉田 又八郎  
同 篠原 左助  
異火之番  
件 七藏

御天守番  
日比野 八左衛門  
内藤屋敷  
大岩 源太夫  
元番町  
小笠原 佐渡守  
役名不知  
鈴木 六郎兵衛  
御廣敷番  
鈴木 半左衛門  
小普請近藤備中守支配  
山内 彌市郎  
仕丁組頭  
吉川 九兵衛  
仕 野村 小右衛門  
同 木村 惣兵衛  
同 西川 作右衛門



九月十六日預。銘々屋敷裏らけなされ  
一、同所貳百五拾坪

九月十六日渡。町屋別荘  
一、元誓願寺前百拾七坪四合

但、屋敷續之を被下。  
九月廿三日預。井田藤九郎上ケ地

一、小石川築地三百三拾坪  
○一本抹浦

山名恭豐

恭豐。右衛門。從五位下。信濃守。

同年。元。寶永。九月十一日松平美濃守殿より、信濃守儀美濃守殿神田橋屋敷内長屋に引

取可申旨之付、同月廿一日引渡申す。

〔附記、一〕釀酒取締

十八日。元。寶永。元。年。九月。中略。

一、本多伯耆守。元。正。被相渡酒造之御書付

同 石橋 六兵衛  
同 井上安左衛門  
同 菊地三郎兵衛  
同 田中甚七郎○一本無シ。  
御廣敷添番  
仕丁組頭 深谷七左衛門  
外 吉川九兵衛  
役名不知 井戸對馬守都合六人預地。添地。

阿部對馬守預地。

屋敷書拔

寛政呈譜

附記、一  
釀酒取締

覺

當年國々水損其外旱損風損之所々在之、米穀減少之間、酒造不申様之、役人相廻し、念入可被申渡す。若新酒造いゝ賣出い所も有之哉、改役人申渡置吟味可有之い間、其心得之ゝ無油斷可被申付い。米穀拂底之い得之、下々及困窮い付、御救之ゝ免年々被仰付事之い間、被得其意、隨分心懸附頼成義無之様之、可被申付い。已上。

九月。元。寶永。

——柳營日次記

附記、二  
川船役銀

〔附記、二〕川船役銀  
撰要永久錄ニ據ル。

一、當申年。元。寶永。川船役銀、京錢壹貫文之付銀百匁懸取立、上納可申旨、御勘定頭衆に被仰渡い間、面々支配下船持共、其通可申渡い。皆濟之儀、來十二月廿日限急度船請方に相渡、上納可仕旨、是又可申付い。以上。

申。元。寶永。九月。

大岡孫八郎  
秋山彦太夫  
柘植善九郎

江戸川岸々  
名主問屋中

如此被仰出い之付、頭中に被觸い間、町々早々被相廻、留よと川船御役所迄、可被相返す。以上。

般昌期

七三七



九月晦日○寶永元年

町奉行更任

十月朔日戊辰○寶永元年(紀元二三六四年)○戊辰(三正綜覽)江戸町奉行保田宗郷○越前守留守居ニ轉シ、大坂町奉行松野助義○河内守代テ江戸町奉行ニ任ズ。○柳營日記。憲廟實錄。常憲院殿

町奉行更任

御實紀。撰要永久錄。柳營補任。寛政重修諸家譜。

町奉行更任 傳フラク、

朔日○寶永元年

御留守居 近藤備中守跡

町奉行 保田越前守跡

右於御前被仰付之。

十月朔日○寶永元年

町奉行 保田越前守宗郷留守居となる。大坂町奉行松野河内守助義當町奉行となる。

十月朔日○寶永元年 町奉行 保田越前守宗郷留守居になり、大坂町奉行松野河内守助義府の町奉行になる。

町奉行 常憲院殿御實紀

町奉行 保田越前守○宗郷  
大坂町奉行 松野河内守○助義

柳營日記記

憲朝實錄

寶永二年十月朔日大坂町奉行。老衰之付辭。

松野河内守助義

柳營補任

一、今日保田越前守様御留守居御役替、松野河内守様町御奉行被仰付ひ。尤河内守様御悦之伺公仕ひ義前々御出入之町人之外、重々此方申渡ひ迄ハ、無用之可仕ひ。此旨町中不殘可被相觸ひ以上。

十月朔日○寶永元年

町年密 三 人

一、松野河内守様來廿六日公事訴訟御聞被成ひ間、保田越前守様御懸り之公事訴訟之者共、廿六日河内守様可罷出旨、町中不殘可被相觸ひ以上。

十月廿四日○寶永元年

町年密 三 人

一、明後廿九日○寶永元年 松野河内守様町中名主之御禮御請被成ひ間、さのやき仕、麻對之上下を着し、廿九日朝六ッ前、奈良屋所參着可仕ひ若病氣差合之、不罷出ひハ、其斷今明日中奈良屋所可申來ひ以上。

十月廿七日○寶永元年

町年密 三 人

二日己巳○寶永元年(紀元二三六四年)○己巳(三正綜覽) 屋鋪受授有リ。外ニ是月○寶永元年(紀元二三六四年)十月

若干ノ屋鋪受領者有リ。○屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書抜。

屋鋪受授 寶永元年十月ノ屋鋪受授ヲ舉グ。

屋鋪受授

屋鋪受授事

殷昌期



横瀬貞顯

圖略

柳原元誓願寺前 横瀬駿河守屋敷 坪數八百坪。

東、道。西、春日左衛門。  
南、道。北、松平讚岐守。  
東、西、二十九間三寸。  
南、西、二十七間三寸。  
北、西、二十七間一尺。

横瀬駿河守顯。小石川屋敷差上ヶ願之通り元誓願寺前津田平左衛門殿上ヶ地之内  
ニ多御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申爲後日仍  
如件。

寶永元甲申年十月二日

横瀬駿河守内  
伊藤市郎兵衛印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。宮具十藏。  
右立合相改、預之。

圖略

同所 割残り 坪數四百四拾坪。

東、那須與一。西、新道。  
南、古田兵九郎。北、新道。  
東、西、十五間貳尺。  
南、西、十六間壹尺。  
北、西、十六間貳尺。

元誓願寺前津田平左衛門殿上ヶ地割残り、横瀬駿河守ニ御預被成、四方間數坪數、右御  
繪圖之面相違無御座御預り申爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月二日

横瀬駿河守内  
伊藤市郎兵衛印

横瀬貞顯

松平頼豐

圖略

元誓願寺前 松平讚岐守屋敷道切代地 坪數九拾三坪五合。

東、新道。西、松平讚岐守。  
南、横瀬駿河守。北、松平讚岐守。  
東、西、三間二尺六寸。  
南、西、十七間壹尺。

松平讚岐守豐。屋敷之内新道御用之付指上、爲代地屋敷續津田平左衛門殿上ヶ地之  
内ニ多元坪之通御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請  
取申爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月二日

松平讚岐守内  
戸田甚五左衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。宮具十藏。  
右立合相改、預之。

圖略

芝新堀端 池田新兵衛屋敷 坪數四百三拾七坪。

東、細川主税。西、岡田庄九郎。  
南、長久寺。北、道。  
東、西、三十六間。  
南、西、三十七間。  
北、西、三十七間。

芝新堀端松平信濃守殿上リ地割殘池田新兵衛重。拜領仕爲後日仍。四方間數坪數、右御繪圖

般昌期

七四一

池田重富



之面御定杭之通相改、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月五日

池田新兵衛内

今井元右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略○

赤坂築地 脇坂甚兵衛上ケ屋敷割残り 坪數五百貳拾四坪六合。

東、土手なごれ。西、道。北、向坂内藏之助。南、櫻井甚五左衛門。東、貳十壹間壹尺九寸。西、貳十五間四尺九寸。南、貳十貳間五尺五寸。北、貳十三間壹尺。

赤坂築地脇坂甚兵衛殿上ケ地割殘櫻井甚五左衛門御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座御預申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月九日

櫻井甚五左衛門内

脇部宇右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、預之。

圖略○

赤坂築地 櫻井甚五左衛門屋敷 坪數貳百六拾貳坪三合。

東、土手なごれ。西、道。北、割残り。南、岡部八郎左衛門。東、西、十壹間壹尺壹寸。北、貳十四間。北、貳十貳間五尺五寸。

櫻井甚五

櫻井甚五

赤坂築地脇坂甚兵衛殿上ケ屋敷之内ニ、櫻井甚五左衛門拜領仕ひ。四方間數坪數、右御繪圖之面相改、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月九日

櫻井甚五左衛門内

脇部宇右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略○

小石川東富坂割餘 坪數貳拾壹坪。

東、道。西、土手なごれ。南、田中甚七。北、道(辻番)。東、十間。西、十間壹尺。北、貳間貳尺。

本郷御弓町明地割残り私御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ。勿論家作堀圍仕間敷い。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月九日

田中甚七郎印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略○

同所 なごれ平地共 坪數百七拾坪。なごれ百拾坪。

東、割殘。田中甚七郎。西、御賄方。奥方小十人。諏訪部與右衛門。南、小栗長右衛門。北、空地十六間。

田中甚七

殷昌期

七四三



東、貳十八間。西、貳十九間。  
南、六間二尺。北、一丈。  
本郷御弓町御先手同心上ヶ地之内、土手なごき平地共、私共兩人に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預り申。勿論家作堀圍仕間敷。五ニ吟吟仕り、土堀取中間敷。爲後日仍如件。

諏訪部與

寶永元甲申年十月九日

奥方御小人  
諏訪部與右衛門印  
仕丁 田中甚七郎印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、預之。

圖略○

松井義隆

糘町甲斐坂 松井市郎左衛門。屋敷 坪數三百坪。

矢部定行

東道。南、本多半十郎。西、松平出羽守上ヶ地割残り。  
東、十七間貳尺。西、十三間五寸。  
南、貳十間貳尺。北、十九間四尺二寸。  
同 矢部藤太夫。屋敷 坪數三百五拾坪。  
東道。南、松井市郎左衛門。北、松平出羽守上り地割殘。  
東、十七間四尺六寸。西、同上。  
南、十九間四尺貳寸餘。北、十九間四尺貳寸。

翹町甲斐坂松平出羽守殿上ヶ屋敷之内、私共屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座、請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月十一日

三之御九張番  
矢部藤太夫  
三之御九張番  
松井市郎左衛門

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略○

山崎平四郎

巢鴨原町 山崎平四郎屋敷 坪數百五拾坪。

東道。東、小島源右衛門。  
南道。北、萬安右衛門。  
東、南、十六間四尺。西、北、十六間四尺。  
東、北、九間。西、南、九間。  
巢鴨御金拂方同心上地之内、今度私屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申。爲後日仍如件。

御本九御臺所口番  
山崎平四郎印

三枝左兵衛内上野利右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略○

本多正芳

西久保 本多市左衛門添地 坪數三百六拾五坪。内、五十坪なごき。

東、町屋。西、道内なごき。  
南、町屋。北、本多市左衛門。  
東、なごき。六間。西、三間。南、十五間。四尺。三間。貳尺五寸。九間。三尺。  
北、西、十壹間。北、貳十六間。

殷昌期



西之窪池田新兵衛殿上ヶ屋敷本多市左衛門芳。為添地拜領仕。四方間數坪敷。右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申。為後日仍如件。

寶永元甲申年十月十八日

本多市郎左衛門内

神野 三太夫印

高橋 七右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

四谷表大番町 高木五郎七上ヶ屋敷 坪敷五百九拾七坪三合。内、建長屋三拾五坪。

東、道。南、眞田伊豆守抱屋しき。北、野呂文太郎抱屋敷。

南、三十一間三尺。北、十七間。東、三十六間二尺。西、三十五間。

四谷表大番町 薦木五郎七殿上ヶ屋敷永井日向守直。御預ヶ被成、四方間數坪敷。右御繪圖之面并建長屋立具植木等迄、御目錄を以て相改、相違無御座御預り申。為後日仍如件。

寶永元甲申年十月十九日

永井日向守内

下條 才右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、預之。

薦木五郎七上屋敷建家具目錄

永井直達

原田吉兵

城田半三

- 一、門扉 但、くゝ戸共。錠鏝なし。 三枚
  - 一、戸 但、半戸共。 十七本
  - 一、障子 但、半障子共。 四本
  - 一、植木 大小。 三本
- 以上。

申十月十九日

圖略。

赤坂 原田吉兵衛屋敷 八拾六坪六合六勺。

東、大塚宗佐。西、城田半三郎。南、廣小路。北、道。

東、西、三間四尺。南、北、三間三尺六寸。

同 城田半三郎屋敷 坪敷八拾六坪六合六勺。

東、原田吉兵衛。西、割餘り。南、廣小路。北、道。

東、西、三間四尺。南、北、三間三尺六寸。

赤坂寺町山本理圓小野友閑兩人上ヶ地之内、拙者共兩人屋敷拜領仕。四方間數坪敷。右御繪圖之面傍示杭之通相改、相違無御座請取申。為後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿五日

江間惠春支配

原田 吉兵衛印

古川春喜支配

城田 半三郎印



三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

權田原

小泉伊右衛門上ケ地。坪數九百九拾壹坪。平地。  
東、德永頼母組。西、鈴木七右衛門。  
南、紀伊中納言殿。北、道。

鈴木定泰

權田原小泉伊右衛門殿上ケ地鈴木七右衛門。御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座相改御預申。勿論家作塀圍等任間敷。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿五日

鈴木七右衛門内  
石井五右衛門印

三枝左兵衛内上野理右衛門。  
右立合相改、預之。

圖略。

濱町

稻葉與市右衛門。屋敷。坪數三百八拾坪。  
東、道。南、大岡五郎右衛門。道。西、境野六左衛門。  
北、道。東、二十八間貳尺。西、十七間五尺。  
南、二十間三尺。北、十八間四尺。

稻葉勝信

谷御藏跡榊原式部大輔殿上ケ地割殘、稻葉與市右衛門拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿七日

稻葉與市右衛門内  
石井次兵衛印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。  
右立合相改、渡之。

圖略。

牛込神樂坂割殘り。坪數千百八拾七坪。内、建家五百九拾坪。

本多忠能

東、道。西、道。南、本多修理。北、道。  
東、南、十九間貳尺。西、北、十九間壹尺。  
東、北、六十間貳尺。西、南、六十間壹尺。  
牛込神樂坂上本多修理。火消御役屋敷上ケ地割殘、則修理。御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家長屋、立具共御帳面を以相改、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿八日

本多修理内  
石原助右衛門印  
筒井只右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野理右衛門。  
右立合相改、渡之。

本多修理火消御役屋敷割殘り、建長屋立具目錄

一、門扉。但、錠鑑有く、共。

六枚

一、内木戸扉。但、錠鑑有く、共。

四枚

股昌期



本多忠能

- 一、戸 但、半戸共。 百八拾本
- 一、障子 但、半障子共。 貳十五本
- 一、梯子 大小。 十貳挺
- 一、植木 大小。 十六本

申十月廿八日

圖略

同所 本多修理能。屋敷 坪數貳千五百五拾壹坪。建家有。

東、道。西、道。南、道。北、割殘。西、四十間五尺。北、六十間。

東、四十間三尺。南、六十間三尺。西、四十間五尺。北、六十間。

牛込神樂坂上本多修理火消御役屋敷上ヶ地之内建家共、修理屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示枕之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寶永元甲申年十月廿八日

石原助右衛門印  
筒井只右衛門印

三枝左兵衛内高山庄左衛門。上野理右衛門。右立合相改、渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十七甲申年四月寶永ト改元。  
十月二日渡。津田平左衛門上ヶ地之内  
一、元誓願寺前八百坪

横瀬駿河守

但、小石川屋敷差上、爲代地被下。

松平讚岐守

同日渡。同所九拾三坪五合

横瀬駿河守

但、屋敷内新道御用之差上、爲代地、元坪之通被下。

十月二日預。津田平左衛門上ヶ地割殘

役名不知  
池田新兵衛

一、元誓願寺前四百四拾坪

同  
櫻井甚五左衛門

十月五日渡。松平信濃守上ヶ地割殘

同  
田中甚七預地人

一、芝新堀端四百三拾七坪

同  
田中甚七預地人

十月九日渡。脇坂其兵衛上ヶ地之内

同  
田中甚七預地人

一、赤坂築地貳百六拾貳坪三合

同  
田中甚七預地人

同日預。同所五百貳拾四坪六合

同  
田中甚七預地人

同日預。明地割餘

同  
田中甚七預地人

一、本郷御弓町貳拾壹坪

同  
田中甚七預地人

同日預。御先手同心上ヶ地之内上手なされ

同  
田中甚七預地人

同日預。同所三百坪

同  
田中甚七預地人

十月十一日渡。松平出羽守上ヶ地

同  
田中甚七預地人

一、麴町甲斐坂三百五拾坪

同  
田中甚七預地人

同日渡。同所

同  
田中甚七預地人

十月十四日渡。御金佛方同心上ヶ地之内

同  
田中甚七預地人

一、巢鴨原町百五拾坪

同  
田中甚七預地人

十月十九日預。荒木五郎七上ヶ屋敷

同  
田中甚七預地人

一、四谷表大番町五百九拾七坪三合

同  
田中甚七預地人

十月廿日渡。池田新兵衛上ヶ地

同  
田中甚七預地人

一、西之窪三百六拾五坪

同  
田中甚七預地人

殷昌期

七五一